

講義コード	U350100101	科目ナンバリング	035A101
講義名	コミュニケーション演習(初級)1A		
副題	Das Leben (A1)		
英文科目名	German Communication (Basic Class) 1		
担当者名	BAUER, Lars		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	通年 水曜日 1時限 南1-306.通年 水曜日 1時限 対面授業		

授業概要

テーマごとに基本的な語彙や表現を身につけ、文法知識を使えるものにします。ドイツ語の入門と基礎固めをしながら「話す」「聞く」「書く」「読む」能力をバランスよく習得することを目標とします。

到達目標

様々な場面(挨拶、喫茶店、街や家族の紹介など)やテーマ(職業、休暇、飲食、洋服、天気など)におけるドイツ語の表現をマスターします。

授業内容

実施回	内容
第1回	挨拶表現;アルファベート
第2回	Lektion 1: 自己紹介の表現;疑問詞(wo, woher)と前置詞(in, aus)
第3回	Lektion 2: 住所と電話番号;数字
第4回	Lektion 2+3: 喫茶店での会話;動詞の人称変化
第5回	Lektion 3: 喫茶店での会話;定冠詞と不定冠詞
第6回	Lektion 4: レストラン表現;疑問文と前置詞(mit, ohne)
第7回	Lektion 4+5: 時間の表現;曜日や時間
第8回	Lektion 5: 時間の表現;分離動詞
第9回	Lektion 6: 街を散策する;名詞の複数形
第10回	Lektion 6+7: 場所の表現; 3・4格支配の前置詞
第11回	Lektion 7: 場所の表現; 建物の中の案内
第12回	Lektion 8: 趣味や休暇について語り合う; war と haben の過去形
第13回	Lektion 8: 趣味や休暇について語り合う; 話法の助動詞(können)
第14回	学期末試験
第15回	到達度確認と一学期の振り返り
第16回	Lektion 9: 住居を紹介する; 様々な形容詞表現
第17回	Lektion 9+10: 家族を紹介する; 所有冠詞
第18回	Lektion 10: 家族を紹介する; 現在完了形
第19回	Lektion 11: 体験談を語る; 様々な職業に関する表現
第20回	Lektion 11+12: 料理; 料理に関する表現
第21回	Lektion 12: 料理; 話法の助動詞(müssen)
第22回	Lektion 13: スポーツ; 命令形
第23回	Lektion 13+14: 衣服; 衣服と色に関する表現
第24回	Lektion 14: 衣服; 冠詞の代名詞化
第25回	Lektion 14+15: 季節と天気; 天気予報、非人称表現(es)
第26回	Lektion 15: 季節と天気; 形容詞の比較表現
第27回	Lektion 16: 旅行; 休暇の計画を話す
第28回	Lektion 16: 旅行; 話法の助動詞(wollen)
第29回	学年末試験
第30回	到達度確認と一年間の振り返り

授業計画コメント

ドイツ語圏文化学科(1年次)のみを対象とした科目で、コミュニケーション演習(初級)1、2を同時履修することになっています。共通の教科書を用い、担当者間で内容や進度の確認をしながら進めていきます。

授業方法

授業は基本的に対面で行います。遠隔授業に切り替える必要が生じたら、Zoomを利用した同時配信型の授業を行います。

使用言語
日本語

準備学習(予習・復習)

単語帳に挙がっている単語は毎回事前に目を通しておくこと。授業時に出た宿題を必ずやること。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分 (%)	備考
学期末試験(第1学期)	35 %	
学年末試験(第2学期)	45 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

教科書の2～3つの課が終わるごとに小テストを授業中に行います。また、学期末または学年末には口頭試験を行います。そのほか、出席、宿題、授業中の参加姿勢を重視します。評価配分は、あくまで目安です。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

テスト返却時にコメントします。

教科書

- Das Leben (A1.1): Kurs- und Übungesbuch,Cornelsen
- Das Leben (A1.2): Kurs- und Übungesbuch,Cornelsen

教科書コメント

以上のテキストはすべてそろえて必ず購入すること。購入方法は新学期ガイダンス時に指示します。

その他

原則として1年次に履修すること。

講義コード	U350100102	科目ナンバリング	035A101
講義名	コミュニケーション演習(初級)1B		
副題	Das Leben (A1)		
英文科目名	German Communication (Basic Class) 1		
担当者名	BAUER, Lars		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	通年 水曜日 2時限 南1-306.通年 水曜日 2時限 対面授業		

授業概要

テーマごとに基本的な語彙や表現を身につけ、文法知識を使えるものにします。ドイツ語の入門と基礎固めをしながら「話す」「聞く」「書く」「読む」能力をバランスよく習得することを目指します。

到達目標

様々な場面(挨拶、喫茶店、街や家族の紹介など)やテーマ(職業、休暇、飲食、洋服、天気など)におけるドイツ語の表現をマスターします。

授業内容

実施回	内容
第1回	挨拶表現;アルファベート
第2回	Lektion 1: 自己紹介の表現;疑問詞(wo, woher)と前置詞(in, aus)
第3回	Lektion 2: 住所と電話番号;数字
第4回	Lektion 2+3: 喫茶店での会話;動詞の人称変化
第5回	Lektion 3: 喫茶店での会話;定冠詞と不定冠詞
第6回	Lektion 4: レストラン表現;疑問文と前置詞(mit, ohne)
第7回	Lektion 4+5: 時間の表現;曜日や時間
第8回	Lektion 5: 時間の表現;分離動詞
第9回	Lektion 6: 街を散策する;名詞の複数形
第10回	Lektion 6+7: 場所の表現; 3・4格支配の前置詞
第11回	Lektion 7: 場所の表現; 建物の中の案内
第12回	Lektion 8: 趣味や休暇について語り合う; war と haben の過去形
第13回	Lektion 8: 趣味や休暇について語り合う; 話法の助動詞(können)
第14回	学期末試験
第15回	到達度確認と一学期の振り返り
第16回	Lektion 9: 住居を紹介する; 様々な形容詞表現
第17回	Lektion 9+10: 家族を紹介する; 所有冠詞
第18回	Lektion 10: 家族を紹介する; 現在完了形
第19回	Lektion 11: 体験談を語る; 様々な職業に関する表現
第20回	Lektion 11+12: 料理; 料理に関する表現
第21回	Lektion 12: 料理; 話法の助動詞(müssen)
第22回	Lektion 13: スポーツ; 命令形
第23回	Lektion 13+14: 衣服; 衣服と色に関する表現
第24回	Lektion 14: 衣服; 冠詞の代名詞化
第25回	Lektion 14+15: 季節と天気; 天気予報、非人称表現(es)
第26回	Lektion 15: 季節と天気; 形容詞の比較表現
第27回	Lektion 16: 旅行; 休暇の計画を話す
第28回	Lektion 16: 旅行; 話法の助動詞(wollen)
第29回	学年末試験
第30回	到達度確認と一年間の振り返り

授業計画コメント

ドイツ語圏文化学科(1年次)のみを対象とした科目で、コミュニケーション演習(初級)1、2と同時履修することになっています。共通の教科書を用い、担当者間で内容や進度の確認をしながら進めていきます。

授業方法

授業は基本的に対面で行います。遠隔授業に切り替える必要が生じたら、Zoomを利用した同時配信型の授業を行います。

使用言語
日本語

準備学習(予習・復習)

単語帳に挙がっている単語は毎回事前に目を通しておくこと。授業時に出た宿題を必ずやること。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	35 %	
学年末試験(第2学期)	45 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

教科書の2～3つの課が終わるごとに小テストを授業中に行います。また、学期末または学年末には口頭試験を行います。そのほか、出席、宿題、授業中の参加姿勢を重視します。評価配分は、あくまで目安です。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

テスト返却時にコメントします。

教科書

- Das Leben (A1.1): Kurs- und Übungesbuch,Cornelsen
- Das Leben (A1.2): Kurs- und Übungesbuch,Cornelsen

教科書コメント

以上のテキストはすべてそろえて必ず購入すること。購入方法は新学期ガイダンス時に指示します。

その他

原則として1年次に履修すること。

講義コード	U350101101	科目ナンバリング	035A102
講義名	コミュニケーション演習(初級)2A		
副題	Das Leben (A1)		
英文科目名	German Communication (Basic Class) 2		
担当者名	KERN, Daniel		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	通年 金曜日 2時限 西1-103.通年 金曜日 2時限 対面授業		

授業概要

テーマごとに基本的な語彙や表現を身につけ、文法知識を使えるものにします。ドイツ語の入門と基礎固めをしながら「話す」「聞く」「書く」「読む」能力をバランスよく習得することを目標とします。

到達目標

様々な場面(挨拶、喫茶店、街や家族の紹介など)やテーマ(職業、休暇、飲食、洋服、天気など)におけるドイツ語の表現をマスターします。

授業内容

実施回	内容
第1回	挨拶表現;アルファベート
第2回	Lektion 1: 自己紹介の表現;疑問詞(wo, woher)と前置詞(in, aus)
第3回	Lektion 2: 住所と電話番号;数字
第4回	Lektion 2+3: 喫茶店での会話;動詞の人称変化
第5回	Lektion 3: 喫茶店での会話;定冠詞と不定冠詞
第6回	Lektion 4: レストラン表現;疑問文と前置詞(mit, ohne)
第7回	Lektion 4+5: 時間の表現;曜日や時間
第8回	Lektion 5: 時間の表現;分離動詞
第9回	Lektion 6: 街を散策する;名詞の複数形
第10回	Lektion 6+7: 場所の表現; 3・4格支配の前置詞
第11回	Lektion 7: 場所の表現; 建物の中の案内
第12回	Lektion 8: 趣味や休暇について語り合う; war と haben の過去形
第13回	Lektion 8: 趣味や休暇について語り合う; 話法の助動詞(können)
第14回	学期末試験
第15回	到達度確認と一学期の振り返り
第16回	Lektion 9: 住居を紹介する; 様々な形容詞表現
第17回	Lektion 9+10: 家族を紹介する; 所有冠詞
第18回	Lektion 10: 家族を紹介する; 現在完了形
第19回	Lektion 11: 体験談を語る; 様々な職業に関する表現
第20回	Lektion 11+12: 料理; 料理に関する表現
第21回	Lektion 12: 料理; 話法の助動詞(müssen)
第22回	Lektion 13: スポーツ; 命令形
第23回	Lektion 13+14: 衣服; 衣服と色に関する表現
第24回	Lektion 14: 衣服; 冠詞の代名詞化
第25回	Lektion 14+15: 季節と天気; 天気予報、非人称表現(es)
第26回	Lektion 15: 季節と天気; 形容詞の比較表現
第27回	Lektion 16: 旅行; 休暇の計画を話す
第28回	Lektion 16: 旅行; 話法の助動詞(wollen)
第29回	学年末試験
第30回	到達度確認と一年間の振り返り

授業計画コメント

ドイツ語圏文化学科(1年次)のみを対象とした科目で、コミュニケーション演習(初級)1、2を同時履修することになっています。共通の教科書を用い、担当者間で内容や進度の確認をしながら進めていきます。

授業方法

授業は基本的に対面で行います。遠隔授業に切り替える必要が生じたら、Zoomを利用した同時配信型の授業を行います。

使用言語
日本語

準備学習(予習・復習)

単語帳に挙がっている単語は毎回事前に目を通しておくこと。授業時に出た宿題を必ずやること。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	35 %	
学年末試験(第2学期)	45 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

教科書の2～3つの課が終わるごとに小テストを授業中に行います。また、学期末または学年末には口頭試験を行います。そのほか、出席、宿題、授業中の参加姿勢を重視します。評価配分は、あくまで目安です。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

テスト返却時にコメントします。

教科書

- Das Leben (A1.1): Kurs- und Übungesbuch,Cornelsen
- Das Leben (A1.2): Kurs- und Übungesbuch,Cornelsen

教科書コメント

以上のテキストはすべてそろえて必ず購入すること。購入方法は新学期ガイダンス時に指示します。

その他

原則として1年次に履修すること。

講義コード	U350101102	科目ナンバリング	035A102
講義名	コミュニケーション演習(初級)2B		
副題	Das Leben (A1)		
英文科目名	German Communication (Basic Class) 2		
担当者名	KERN, Daniel		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	通年 金曜日 1時限 西1-103.通年 金曜日 1時限 対面授業		

授業概要

テーマごとに基本的な語彙や表現を身につけ、文法知識を使えるものにします。ドイツ語の入門と基礎固めをしながら「話す」「聞く」「書く」「読む」能力をバランスよく習得することを目標とします。

到達目標

様々な場面(挨拶、喫茶店、街や家族の紹介など)やテーマ(職業、休暇、飲食、洋服、天気など)におけるドイツ語の表現をマスターします。

授業内容

実施回	内容
第1回	挨拶表現;アルファベート
第2回	Lektion 1: 自己紹介の表現;疑問詞(wo, woher)と前置詞(in, aus)
第3回	Lektion 2: 住所と電話番号;数字
第4回	Lektion 2+3: 喫茶店での会話;動詞の人称変化
第5回	Lektion 3: 喫茶店での会話;定冠詞と不定冠詞
第6回	Lektion 4: レストラン表現;疑問文と前置詞(mit, ohne)
第7回	Lektion 4+5: 時間の表現;曜日や時間
第8回	Lektion 5: 時間の表現;分離動詞
第9回	Lektion 6: 街を散策する;名詞の複数形
第10回	Lektion 6+7: 場所の表現; 3・4格支配の前置詞
第11回	Lektion 7: 場所の表現; 建物の中の案内
第12回	Lektion 8: 趣味や休暇について語り合う; war と haben の過去形
第13回	Lektion 8: 趣味や休暇について語り合う; 話法の助動詞(können)
第14回	学期末試験
第15回	到達度確認と一学期の振り返り
第16回	Lektion 9: 住居を紹介する; 様々な形容詞表現
第17回	Lektion 9+10: 家族を紹介する; 所有冠詞
第18回	Lektion 10: 家族を紹介する; 現在完了形
第19回	Lektion 11: 体験談を語る; 様々な職業に関する表現
第20回	Lektion 11+12: 料理; 料理に関する表現
第21回	Lektion 12: 料理; 話法の助動詞(müssen)
第22回	Lektion 13: スポーツ; 命令形
第23回	Lektion 13+14: 衣服; 衣服と色に関する表現
第24回	Lektion 14: 衣服; 冠詞の代名詞化
第25回	Lektion 14+15: 季節と天気; 天気予報、非人称表現(es)
第26回	Lektion 15: 季節と天気; 形容詞の比較表現
第27回	Lektion 16: 旅行; 休暇の計画を話す
第28回	Lektion 16: 旅行; 話法の助動詞(wollen)
第29回	学年末試験
第30回	到達度確認と一年間の振り返り

授業計画コメント

ドイツ語圏文化学科(1年次)のみを対象とした科目で、コミュニケーション演習(初級)1、2を同時履修することになっています。共通の教科書を用い、担当者間で内容や進度の確認をしながら進めていきます。

授業方法

授業は基本的に対面で行います。遠隔授業に切り替える必要が生じたら、Zoomを利用した同時配信型の授業を行います。

使用言語
日本語

準備学習(予習・復習)

単語帳に挙がっている単語は毎回事前に目を通しておくこと。授業時に出た宿題を必ずやること。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	35 %	
学年末試験(第2学期)	45 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

教科書の2～3つの課が終わるごとに小テストを授業中に行います。また、学期末または学年末には口頭試験を行います。そのほか、出席、宿題、授業中の参加姿勢を重視します。評価配分は、あくまで目安です。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

テスト返却時にコメントします。

教科書

- Das Leben (A1.1): Kurs- und Übungesbuch,Cornelsen
- Das Leben (A1.2): Kurs- und Übungesbuch,Cornelsen

教科書コメント

以上のテキストはすべてそろえて必ず購入すること。購入方法は新学期ガイダンス時に指示します。

その他

原則として1年次に履修すること。

講義コード	U350102101	科目ナンバリング	035A201
講義名	コミュニケーション演習(中級)1A		
副題	Studio 21 (A2)		
英文科目名	German Communication (Intermediate Class) 1		
担当者名	PEKAR, Thomas		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	通年 水曜日 3時限 西2－503.通年 水曜日 3時限 対面授業		

授業概要

より総合的なドイツ語運用能力を身につけ、ヨーロッパ言語共通参照枠におけるA2レベルのドイツ語力の習得を目指します。コミュニケーション演習中級の1・2・3は、AとBのどのクラスにおいても、それぞれすべて履修することになっています。

到達目標

様々なテーマ(趣味、旅行、メディア、職業、祝日、文化等)に関してドイツ語で自らの意見を述べるできるようになります。

授業内容

実施回	内容
第1回	Willkommen in A2
第2回	Lektion 1 Leben und lernen in Europa
第3回	Lektion 1 Leben und lernen in Europa
第4回	Lektion 2 Familiengeschichten
第5回	Lektion 2 Familiengeschichten
第6回	Lektion 3 Unterwegs
第7回	Lektion 3 Unterwegs
第8回	Lektion 4 Freizeit und Hobby
第9回	Lektion 4 Freizeit und Hobby
第10回	Lektion 5 Medien im Alltag
第11回	Lektion 5 Medien im Alltag
第12回	Lektion 6 Ausgehen, Leute treffen
第13回	Lektion 6 Ausgehen, Leute treffen
第14回	Abschlussprüfung im Sommersemester
第15回	Evaluation
第16回	Wiederholungen der Lektionen 1 – 6
第17回	Lektion 7 Vom Land in die Stadt
第18回	Lektion 7 Vom Land in die Stadt
第19回	Lektion 8 Kulter erleben
第20回	Lektion 8 Kulter erleben
第21回	Lektion 9 Arbeitswelten
第22回	Lektion 9 Arbeitswelten
第23回	Lektion 10 Feste und Feiern
第24回	Lektion 10 Feste und Feiern
第25回	Lektion 11 Mit allen Sinnen
第26回	Lektion 11 Mit allen Sinnen
第27回	Lektion 12 Ideen und Erfindungen
第28回	Lektion 12 Ideen und Erfindungen
第29回	Abschlussprüfung im Wintersemester
第30回	Evaluation

授業計画コメント

コミュニケーション演習中級の1・2・3ともに、同じ教科書を使用し、担当教員間で内容や進度の確認をしつつ、連動して授業をすすめていきます。

授業方法

授業は基本的に対面で行います。遠隔授業に切り替える必要が生じたら、Zoomを利用した同時配信型の授業を行います。

使用言語
日本語・英語以外

準備学習(予習・復習)
事前に教科書と単語帳の該当箇所に目を通してくること。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	40 %	
学年末試験(第2学期)	40 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント
教科書の2つの課が終わるごとに小テストを授業中に行います。また、学期末または学年末には口頭試験を行います。そのほか、出席、宿題、授業中の参加姿勢を重視します。評価配分はあくまで目安です。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
返却時にコメントします。

- 教科書**
- Studio 21 (A2.1): Das Deutschbuch,Cornelsen
 - Studio 21 (A2.2): Das Deutschbuch,Cornelsen
 - Studio 21 (A2): Vokabeltaschenbuch,Cornelsen

教科書コメント
ドイツ語既修者で1年次にStudio 21 (A2)の履修を希望する学生は、かならず学科教務委員に事前に相談し、履修が決定した後で教科書を購入してください。購入方法は新学期ガイダンス時に指示します。

履修上の注意
履修者数制限あり。第1回目の授業に必ず出席のこと。

講義コード	U350102102	科目ナンバリング	035A201
講義名	コミュニケーション演習(中級)1B		
副題	Studio 21 (A2)		
英文科目名	German Communication (Intermediate Class) 1		
担当者名	PEKAR, Thomas		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	通年 水曜日 4時限 西2－503.通年 水曜日 4時限 対面授業		

授業概要

より総合的なドイツ語運用能力を身につけ、ヨーロッパ言語共通参照枠におけるA2レベルのドイツ語力の習得を目指します。コミュニケーション演習中級の1・2・3は、AとBのどのクラスにおいても、それぞれすべて履修することになっています。

到達目標

様々なテーマ(趣味、旅行、メディア、職業、祝日、文化等)に関してドイツ語で自らの意見を述べるできるようになります。

授業内容

実施回	内容
第1回	Willkommen in A2
第2回	Lektion 1 Leben und lernen in Europa
第3回	Lektion 1 Leben und lernen in Europa
第4回	Lektion 2 Familiengeschichten
第5回	Lektion 2 Familiengeschichten
第6回	Lektion 3 Unterwegs
第7回	Lektion 3 Unterwegs
第8回	Lektion 4 Freizeit und Hobby
第9回	Lektion 4 Freizeit und Hobby
第10回	Lektion 5 Medien im Alltag
第11回	Lektion 5 Medien im Alltag
第12回	Lektion 6 Ausgehen, Leute treffen
第13回	Lektion 6 Ausgehen, Leute treffen
第14回	Abschlussprüfung im Sommersemester
第15回	Evaluation
第16回	Wiederholungen der Lektionen 1 – 6
第17回	Lektion 7 Vom Land in die Stadt
第18回	Lektion 7 Vom Land in die Stadt
第19回	Lektion 8 Kulter erleben
第20回	Lektion 8 Kulter erleben
第21回	Lektion 9 Arbeitswelten
第22回	Lektion 9 Arbeitswelten
第23回	Lektion 10 Feste und Feiern
第24回	Lektion 10 Feste und Feiern
第25回	Lektion 11 Mit allen Sinnen
第26回	Lektion 11 Mit allen Sinnen
第27回	Lektion 12 Ideen und Erfindungen
第28回	Lektion 12 Ideen und Erfindungen
第29回	Abschlussprüfung im Wintersemester
第30回	Evaluation

授業計画コメント

コミュニケーション演習中級の1・2・3ともに、同じ教科書を使用し、担当教員間で内容や進度の確認をしつつ、連動して授業をすすめていきます。

授業方法

授業は基本的に対面で行います。遠隔授業に切り替える必要が生じたら、Zoomを利用した同時配信型の授業を行います。

使用言語
日本語・英語以外

準備学習(予習・復習)
事前に教科書と単語帳の該当箇所に目を通してくること。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分 (%)	備考
学期末試験(第1学期)	40 %	
学年末試験(第2学期)	40 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント
教科書の2つの課が終わるごとに小テストを授業中に行います。また、学期末または学年末には口頭試験を行います。そのほか、出席、宿題、授業中の参加姿勢を重視します。評価配分はあくまで目安です。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
返却時にコメントします。

- 教科書**
- Studio 21 (A2.1): Das Deutschbuch,Cornelsen
 - Studio 21 (A2.2): Das Deutschbuch,Cornelsen
 - Studio 21 (A2): Vokabeltaschenbuch,Cornelsen

教科書コメント
ドイツ語既修者で1年次にStudio 21 (A2)の履修を希望する学生は、かならず学科教務委員に事前に相談し、履修が決定した後で教科書を購入してください。購入方法は新学期ガイダンス時に指示します。

履修上の注意
履修者数制限あり。第1回目の授業に必ず出席のこと。

講義コード	U350103101	科目ナンバリング	035A202
講義名	コミュニケーション演習(中級)2A		
副題	Studio 21 (A2)		
英文科目名	German Communication (Intermediate Class) 2		
担当者名	KERN, Daniel		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	通年 月曜日 1時限 北1－406.通年 月曜日 1時限 対面授業		

授業概要

より総合的なドイツ語運用能力を身につけ、ヨーロッパ言語共通参照枠におけるA2レベルのドイツ語力の習得を目指します。コミュニケーション演習中級の1・2・3は、AとBのどのクラスにおいても、それぞれすべて履修することになっています。

到達目標

様々なテーマ(趣味、旅行、メディア、職業、祝日、文化等)に関してドイツ語で自らの意見を述べるできるようになります。

授業内容

実施回	内容
第1回	Willkommen in A2
第2回	Lektion 1 Leben und lernen in Europa
第3回	Lektion 1 Leben und lernen in Europa
第4回	Lektion 2 Familiengeschichten
第5回	Lektion 2 Familiengeschichten
第6回	Lektion 3 Unterwegs
第7回	Lektion 3 Unterwegs
第8回	Lektion 4 Freizeit und Hobby
第9回	Lektion 4 Freizeit und Hobby
第10回	Lektion 5 Medien im Alltag
第11回	Lektion 5 Medien im Alltag
第12回	Lektion 6 Ausgehen, Leute treffen
第13回	Lektion 6 Ausgehen, Leute treffen
第14回	Abschlussprüfung im Sommersemester
第15回	Evaluation
第16回	Wiederholungen der Lektionen 1 – 6
第17回	Lektion 7 Vom Land in die Stadt
第18回	Lektion 7 Vom Land in die Stadt
第19回	Lektion 8 Kulter erleben
第20回	Lektion 8 Kulter erleben
第21回	Lektion 9 Arbeitswelten
第22回	Lektion 9 Arbeitswelten
第23回	Lektion 10 Feste und Feiern
第24回	Lektion 10 Feste und Feiern
第25回	Lektion 11 Mit allen Sinnen
第26回	Lektion 11 Mit allen Sinnen
第27回	Lektion 12 Ideen und Erfindungen
第28回	Lektion 12 Ideen und Erfindungen
第29回	Abschlussprüfung im Wintersemester
第30回	Evaluation

授業計画コメント

コミュニケーション演習中級の1・2・3ともに、同じ教科書を使用し、担当教員間で内容や進度の確認をしつつ、連動して授業をすすめていきます。

授業方法

授業は基本的に対面で行います。遠隔授業に切り替える必要が生じたら、Zoomを利用した同時配信型の授業を行います。

使用言語
日本語・英語以外

準備学習(予習・復習)
事前に教科書と単語帳の該当箇所に目を通してくること。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	40 %	
学年末試験(第2学期)	40 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント
教科書の2つの課が終わるごとに小テストを授業中に行います。また、学期末または学年末には口頭試験を行います。そのほか、出席、宿題、授業中の参加姿勢を重視します。評価配分はあくまで目安です。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
返却時にコメントします。

- 教科書**
- Studio 21 (A2.1): Das Deutschbuch,Cornelsen
 - Studio 21 (A2.2): Das Deutschbuch,Cornelsen
 - Studio 21 (A2): Vokabeltaschenbuch,Cornelsen

教科書コメント
ドイツ語既修者で1年次にStudio 21 (A2)の履修を希望する学生は、かならず学科教務委員に事前に相談し、履修が決定した後で教科書を購入してください。購入方法は新学期ガイダンス時に指示します。

履修上の注意
履修者数制限あり。第1回目の授業に必ず出席のこと。

講義コード	U350103102	科目ナンバリング	035A202
講義名	コミュニケーション演習(中級)2B		
副題	Studio 21 (A2)		
英文科目名	German Communication (Intermediate Class) 2		
担当者名	KERN, Daniel		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	通年 月曜日 2時限 北1－406.通年 月曜日 2時限 対面授業		

授業概要

より総合的なドイツ語運用能力を身につけ、ヨーロッパ言語共通参照枠におけるA2レベルのドイツ語力の習得を目指します。コミュニケーション演習中級の1・2・3は、AとBのどのクラスにおいても、それぞれすべて履修することになっています。

到達目標

様々なテーマ(趣味、旅行、メディア、職業、祝日、文化等)に関してドイツ語で自らの意見を述べるできるようになります。

授業内容

実施回	内容
第1回	Willkommen in A2
第2回	Lektion 1 Leben und lernen in Europa
第3回	Lektion 1 Leben und lernen in Europa
第4回	Lektion 2 Familiengeschichten
第5回	Lektion 2 Familiengeschichten
第6回	Lektion 3 Unterwegs
第7回	Lektion 3 Unterwegs
第8回	Lektion 4 Freizeit und Hobby
第9回	Lektion 4 Freizeit und Hobby
第10回	Lektion 5 Medien im Alltag
第11回	Lektion 5 Medien im Alltag
第12回	Lektion 6 Ausgehen, Leute treffen
第13回	Lektion 6 Ausgehen, Leute treffen
第14回	Abschlussprüfung im Sommersemester
第15回	Evaluation
第16回	Wiederholungen der Lektionen 1 – 6
第17回	Lektion 7 Vom Land in die Stadt
第18回	Lektion 7 Vom Land in die Stadt
第19回	Lektion 8 Kulter erleben
第20回	Lektion 8 Kulter erleben
第21回	Lektion 9 Arbeitswelten
第22回	Lektion 9 Arbeitswelten
第23回	Lektion 10 Feste und Feiern
第24回	Lektion 10 Feste und Feiern
第25回	Lektion 11 Mit allen Sinnen
第26回	Lektion 11 Mit allen Sinnen
第27回	Lektion 12 Ideen und Erfindungen
第28回	Lektion 12 Ideen und Erfindungen
第29回	Abschlussprüfung im Wintersemester
第30回	Evaluation

授業計画コメント

コミュニケーション演習中級の1・2・3ともに、同じ教科書を使用し、担当教員間で内容や進度の確認をしつつ、連動して授業をすすめていきます。

授業方法

授業は基本的に対面で行います。遠隔授業に切り替える必要が生じたら、Zoomを利用した同時配信型の授業を行います。

使用言語
日本語・英語以外

準備学習(予習・復習)
事前に教科書と単語帳の該当箇所に目を通してくること。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	40 %	
学年末試験(第2学期)	40 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント
教科書の2つの課が終わるごとに小テストを授業中に行います。また、学期末または学年末には口頭試験を行います。そのほか、出席、宿題、授業中の参加姿勢を重視します。評価配分はあくまで目安です。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
返却時にコメントします。

- 教科書**
- Studio 21 (A2.1): Das Deutschbuch,Cornelsen
 - Studio 21 (A2.2): Das Deutschbuch,Cornelsen
 - Studio 21 (A2): Vokabeltaschenbuch,Cornelsen

教科書コメント
ドイツ語既修者で1年次にStudio 21 (A2)の履修を希望する学生は、かならず学科教務委員に事前に相談し、履修が決定した後で教科書を購入してください。購入方法は新学期ガイダンス時に指示します。

履修上の注意
履修者数制限あり。第1回目の授業に必ず出席のこと。

講義コード	U350104101	科目ナンバリング	035A203
講義名	コミュニケーション演習(中級)3A		
副題	Studio 21 (A2)		
英文科目名	German Communication (Intermediate Class) 3		
担当者名	IHLOW, Uwe		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	通年 火曜日 4時限 西2－205.通年 火曜日 4時限 対面授業		

授業概要

より総合的なドイツ語運用能力を身につけ、ヨーロッパ言語共通参照枠におけるA2レベルのドイツ語力の習得を目指します。コミュニケーション演習中級の1・2・3は、AとBのどのクラスにおいても、それぞれすべて履修することになっています。

到達目標

様々なテーマ(趣味、旅行、メディア、職業、祝日、文化等)に関してドイツ語で自らの意見を述べるできるようになります。

授業内容

実施回	内容
第1回	Willkommen in A2
第2回	Lektion 1 Leben und lernen in Europa
第3回	Lektion 1 Leben und lernen in Europa
第4回	Lektion 2 Familiengeschichten
第5回	Lektion 2 Familiengeschichten
第6回	Lektion 3 Unterwegs
第7回	Lektion 3 Unterwegs
第8回	Lektion 4 Freizeit und Hobby
第9回	Lektion 4 Freizeit und Hobby
第10回	Lektion 5 Medien im Alltag
第11回	Lektion 5 Medien im Alltag
第12回	Lektion 6 Ausgehen, Leute treffen
第13回	Lektion 6 Ausgehen, Leute treffen
第14回	Abschlussprüfung im Sommersemester
第15回	Evaluation
第16回	Wiederholungen der Lektionen 1 – 6
第17回	Lektion 7 Vom Land in die Stadt
第18回	Lektion 7 Vom Land in die Stadt
第19回	Lektion 8 Kulter erleben
第20回	Lektion 8 Kulter erleben
第21回	Lektion 9 Arbeitswelten
第22回	Lektion 9 Arbeitswelten
第23回	Lektion 10 Feste und Feiern
第24回	Lektion 10 Feste und Feiern
第25回	Lektion 11 Mit allen Sinnen
第26回	Lektion 11 Mit allen Sinnen
第27回	Lektion 12 Ideen und Erfindungen
第28回	Lektion 12 Ideen und Erfindungen
第29回	Abschlussprüfung im Wintersemester
第30回	Evaluation

授業計画コメント

コミュニケーション演習中級の1・2・3ともに、同じ教科書を使用し、担当教員間で内容や進度の確認をしつつ、連動して授業をすすめていきます。

授業方法

授業は基本的に対面で行います。遠隔授業に切り替える必要が生じたら、Zoomを利用した同時配信型の授業を行います。

使用言語
日本語・英語以外

準備学習(予習・復習)
事前に教科書と単語帳の該当箇所に目を通してくること。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	40 %	
学年末試験(第2学期)	40 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント
教科書の2つの課が終わるごとに小テストを授業中に行います。また、学期末または学年末には口頭試験を行います。そのほか、出席、宿題、授業中の参加姿勢を重視します。評価配分はあくまで目安です。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
返却時にコメントします。

- 教科書**
- Studio 21 (A2.1): Das Deutschbuch,Cornelsen
 - Studio 21 (A2.2): Das Deutschbuch,Cornelsen
 - Studio 21 (A2): Vokabeltaschenbuch,Cornelsen

教科書コメント
ドイツ語既修者で1年次にStudio 21 (A2)の履修を希望する学生は、かならず学科教務委員に事前に相談し、履修が決定した後で教科書を購入してください。購入方法は新学期ガイダンス時に指示します。

履修上の注意
履修者数制限あり。第1回目の授業に必ず出席のこと。

講義コード	U350104102	科目ナンバリング	035A203
講義名	コミュニケーション演習(中級)3B		
副題	Studio 21 (A2)		
英文科目名	German Communication (Intermediate Class) 3		
担当者名	IHLOW, Uwe		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	通年 火曜日 5時限 西1－205.通年 火曜日 5時限 対面授業		

授業概要

より総合的なドイツ語運用能力を身につけ、ヨーロッパ言語共通参照枠におけるA2レベルのドイツ語力の習得を目指します。コミュニケーション演習中級の1・2・3は、AとBのどのクラスにおいても、それぞれすべて履修することになっています。

到達目標

様々なテーマ(趣味、旅行、メディア、職業、祝日、文化等)に関してドイツ語で自らの意見を述べるできるようになります。

授業内容

実施回	内容
第1回	Willkommen in A2
第2回	Lektion 1 Leben und lernen in Europa
第3回	Lektion 1 Leben und lernen in Europa
第4回	Lektion 2 Familiengeschichten
第5回	Lektion 2 Familiengeschichten
第6回	Lektion 3 Unterwegs
第7回	Lektion 3 Unterwegs
第8回	Lektion 4 Freizeit und Hobby
第9回	Lektion 4 Freizeit und Hobby
第10回	Lektion 5 Medien im Alltag
第11回	Lektion 5 Medien im Alltag
第12回	Lektion 6 Ausgehen, Leute treffen
第13回	Lektion 6 Ausgehen, Leute treffen
第14回	Abschlussprüfung im Sommersemester
第15回	Evaluation
第16回	Wiederholungen der Lektionen 1 – 6
第17回	Lektion 7 Vom Land in die Stadt
第18回	Lektion 7 Vom Land in die Stadt
第19回	Lektion 8 Kulter erleben
第20回	Lektion 8 Kulter erleben
第21回	Lektion 9 Arbeitswelten
第22回	Lektion 9 Arbeitswelten
第23回	Lektion 10 Feste und Feiern
第24回	Lektion 10 Feste und Feiern
第25回	Lektion 11 Mit allen Sinnen
第26回	Lektion 11 Mit allen Sinnen
第27回	Lektion 12 Ideen und Erfindungen
第28回	Lektion 12 Ideen und Erfindungen
第29回	Abschlussprüfung im Wintersemester
第30回	Evaluation

授業計画コメント

コミュニケーション演習中級の1・2・3ともに、同じ教科書を使用し、担当教員間で内容や進度の確認をしつつ、連動して授業をすすめていきます。

授業方法

授業は基本的に対面で行います。遠隔授業に切り替える必要が生じたら、Zoomを利用した同時配信型の授業を行います。

使用言語
日本語・英語以外

準備学習(予習・復習)
事前に教科書と単語帳の該当箇所に目を通してくること。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	40 %	
学年末試験(第2学期)	40 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント
教科書の2つの課が終わるごとに小テストを授業中に行います。また、学期末または学年末には口頭試験を行います。そのほか、出席、宿題、授業中の参加姿勢を重視します。評価配分はあくまで目安です。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
返却時にコメントします。

- 教科書**
- Studio 21 (A2.1): Das Deutschbuch,Cornelsen
 - Studio 21 (A2.2): Das Deutschbuch,Cornelsen
 - Studio 21 (A2): Vokabeltaschenbuch,Cornelsen

教科書コメント
ドイツ語既修者で1年次にStudio 21 (A2)の履修を希望する学生は、かならず学科教務委員に事前に相談し、履修が決定した後で教科書を購入してください。購入方法は新学期ガイダンス時に指示します。

履修上の注意
履修者数制限あり。第1回目の授業に必ず出席のこと。

講義コード	U350105201	科目ナンバリング	035A133
講義名	アカデミック・スキルズ入門A		
英文科目名	Introduction to Academic Skills		
担当者名	岡本 順治		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	第1学期 木曜日 3時限 中央－507.第1学期 木曜日 3時限 対面授業		

授業概要

アカデミック・スキルズ (academic skills) とは、学ぶためのさまざまな技法のことです。典型的には、情報を整理して取り込んだり、保持したり、評価する技法を指し、ほとんどすべての学問分野に応用がきき、比較的短時間に習得できるものとされています。本授業では、大学で学ぶための基礎となるアカデミック・スキルズを身につけることをめざします。具体的には、自分で疑問に思ったことを問題として取りあげ、関連した過去の研究を探して読み、自らの視点から新たな資料を見つけて分析するという一連の標準的な研究スタイルを理解し、実践できるようになることです。現代の大学生に求められるのは、コンピュータを使った情報収集と情報整理を効率的に行うことです。それに基づいて、プレゼンテーションを行い、レポートを書くことを学びます。

到達目標

- ・問題提起・過去の関連研究の検索と読解・新たな資料の発見と分析という標準的研究スタイルを理解し実践できるようになる。
- ・コンピュータを利用して情報収集・情報整理・情報評価ができるようになる。
- ・コンピュータを利用して、レポートを書いたり、プレゼンテーションを効果的にできるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	導入(本授業のやり方、オンライン授業の注意点、授業で使うツールの説明など)
第2回	標準的な研究スタイルの理解、発言の仕方、PCでドイツ語を使う方法
第3回	大学図書館ガイダンス(図書検索と情報入手のためのテクニック)
第4回	引用と参照、研究倫理
第5回	文献資料の検索と入手(1) 新聞記事データベース
第6回	文献資料の検索と入手(2) 論文検索データベース
第7回	クリティカルリーディング(健全な疑いを持つこと)
第8回	ディスカッション(1)(自分の意見をまとめる、反対意見を述べる)
第9回	ディスカッション(2)(他人の意見に同意する、議論を発展させる)
第10回	Excelの使い方:基本操作とグラフの作成
第11回	資料の入手と利用(テキストデータ、統計資料、エクセル・データ、CSVデータ、画像データ)
第12回	プレゼンテーションの仕方(PowerPoint の利用、ハンドアウトの作成)
第13回	レポートの作成(目標設定、構成作成、パラグラフ・ライティング、参考文献リスト作成)
第14回	1学期の復習
第15回	到達度確認

授業方法

対面授業でLMSを用い、講義と演習を組み合わせで行います。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

- ・毎回、課題を出します。次の授業はその課題を基に進めていきます。
- ・復習は、各自自分のペースで集中して行ってください。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	学期末レポート
小テスト	30 %	毎回の課題の提出
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	授業中の積極的な発言を評価します。
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

- ・レポートは、1. テーマへの理解度、2. 文章の論理的展開、3. 日本語力、4. 引用・参照ルール の順守、5. 形式を採点基準とします。
- ・研究倫理の遵守は、成績評価の際の規準として前提としています。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

課題は主にmanabaによって回収し、コメントを付けて返却します。

教科書

知って欲しい国ドイツ,新野守弘、飯田道子、梅田紅子,高文研,2017,978-4-87498-633-2

教科書コメント

教科書は、第2学期の『現代地域事情入門ゼミナール A/B』と共通で、一年間を通じて使用します。必ず購入し、第一回目の授業に持参してください。この授業では、前半のⅠ章とⅡ章を主に使用します。

参考文献

学び合い、発信する技術:岩波ジュニア新書,林直亨,岩波書店,2022,978-4-00-500959-6

参考文献コメント

上記の参考文献以外のものは、必要に応じて、授業中にその都度指示します。

履修上の注意

ドイツ語圏文化学科の1年生の必修科目で、当学科の1年生は必ず履修しなければなりません。他学部・他学科の学生は履修できません。

その他

- ・積極的に発言する人を歓迎します。
- ・授業に関する連絡は、G-Portおよびmanabaを通じて行います。

講義コード	U350105202	科目ナンバリング	035A133
講義名	アカデミック・スキルズ入門B		
英文科目名	Introduction to Academic Skills		
担当者名	小林 和貴子		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	第1学期 木曜日 3時限 西1－205.第1学期 木曜日 3時限 対面授業		

授業概要

アカデミック・スキルズ (academic skills) とは、学ぶためのさまざまな技法のことです。典型的には、情報を整理して取り込んだり、保持したり、評価する技法を指し、ほとんどすべての学問分野に応用がきき、比較的短時間に習得できるものとされています。本授業では、大学で学ぶための基礎となるアカデミック・スキルズを身につけることをめざします。具体的には、自分で疑問に思ったことを問題として取りあげ、関連した過去の研究を探して読み、自らの視点から新たな資料を見つけて分析するという一連の標準的な研究スタイルを理解し、実践できるようになることです。現代の大学生に求められるのは、コンピュータを使った情報収集と情報整理を効率的に行うことです。それに基づいて、プレゼンテーションを行い、レポートを書くことを学びます。

到達目標

- ・問題提起・過去の関連研究の検索と読解・新たな資料の発見と分析という標準的研究スタイルを理解し実践できるようになる。
- ・コンピュータを利用して情報収集・情報整理・情報評価ができるようになる。
- ・コンピュータを利用して、レポートを書いたり、プレゼンテーションを効果的にできるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	導入(授業の進め方、授業で使うツールの説明など)
第2回	標準的な研究スタイルの理解、発言の仕方、PCでドイツ語を使う方法
第3回	大学図書館ガイダンス(図書検索と情報入手のためのテクニック)
第4回	引用と参照、研究倫理
第5回	文献資料の検索と入手(1) 新聞記事データベース
第6回	文献資料の検索と入手(2) 論文検索データベース
第7回	クリティカルリーディング(健全な疑いを持つこと)
第8回	ディスカッション(1)(自分の意見をまとめる、反対意見を述べる)
第9回	ディスカッション(2)(他人の意見に同意する、議論を発展させる)
第10回	Excelの使い方:基本操作とグラフの作成
第11回	資料の入手と利用(テキストデータ、統計資料、音声資料、動画資料)
第12回	プレゼンテーションの仕方(PowerPoint の利用、ハンドアウトの作成)
第13回	レポートの作成(目標設定、構成作成、パラグラフ・ライティング、参考文献リスト作成)
第14回	1学期の復習
第15回	到達度確認

授業方法

基本的には対面授業で行います。遠隔授業に切り替える必要が生じたら、Zoomを利用した同時配信型で行います。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

- ・毎回、必ず課題を出します。次の授業はその課題を基に進めていきます。
- ・復習は、各自自分のペースで集中して行ってください。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	学期末レポート
小テスト	30 %	毎回の課題の提出
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	授業中の積極的な発言を評価します。
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

- ・レポートは、1. テーマへの理解度、2. 文章の論理的展開、3. 日本語力、4. 引用・参照ルール の順守、5. 形式を採点基準とします。
- ・研究倫理の遵守は、成績評価の際の規準として前提としています。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

課題は主にmoodleによって回収し、コメントします。

教科書

知って欲しい国ドイツ,新野守弘、飯田道子、梅田紅子,高文研,2017,978-4-87498-633-2

教科書コメント

教科書は、第2学期の『現代地域事情入門ゼミナール A/B』と共通で、一年間を通じて使用します。必ず購入し、第一回目の授業に持参してください。この授業では、前半のⅠ章とⅡ章を主に使用します。

参考文献コメント

必要に応じて、授業中にその都度指示します。

履修上の注意

ドイツ語圏文化学科の1年生の必修科目で、当学科の1年生は必ず履修しなければなりません。他学部・他学科の学生は履修できません。

その他

- ・積極的に発言する人を歓迎します。
- ・授業に関する連絡は、G-Portおよびmoodleを通じて行います。

講義コード	U350106201	科目ナンバリング	035A134
講義名	現代地域事情 入門ゼミナールA		
英文科目名	Introduction to Contemporary Area Studies		
担当者名	岡本 順治		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	第2学期 木曜日 3時限 中央－507.第2学期 木曜日 3時限 対面授業		

授業概要

ドイツ語圏文化学科1年生の必修科目です。1学期のアカデミックスキルズ入門で学んだ調査方法やプレゼンテーションの仕方・レポートの書き方等についての基礎的な理解を前提に、主にグループワークで戦後～現代ドイツの重要テーマを学びます。授業の最後には、それらのテーマをさらに深めて発表を行います。またその内容をまとめてレポートとして提出します。

到達目標

- ・現代ドイツの地域事情について、基礎的な知識を身に着けること。
- ・自らテーマを選び、それについて調べてまとめ、表現する能力を身に着けること。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション / ナチスの概要
第2回	ナチス / ナチスの概要(続き)・内容説明と意見形成
第3回	ナチス / 戦争責任と「謝罪」
第4回	東ドイツ / 東ドイツの概要
第5回	東ドイツ / 東ドイツの概要(続き)
第6回	移民・難民 / ドイツの移民・難民受け入れの歴史
第7回	移民・難民 / 日独比較・論点
第8回	環境・エネルギー / 歴史
第9回	環境・エネルギー / 論点
第10回	発表準備(グループ内調整、グループ内発表練習)
第11回	グループ発表①
第12回	グループ発表②
第13回	グループ発表③
第14回	復習・レポート課題について
第15回	到達度確認

授業方法

演習形式で、グループワークを重視します。授業は基本的に対面で行いますが、回によっては同時配信型のオンライン方式(Zoomを使用)にする場合があります。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

毎回、必ず課題をだします。次の授業はその課題を基に進めていきますので、必ずやってきてください。(2時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	30 %	学期末レポート
小テスト	25 %	毎回の課題の提出
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	25 %	授業中の積極的な発言を重視します。
その他(備考欄を参照)	20 %	口頭発表

成績評価コメント

- ・口頭発表やレポートでは、研究倫理の遵守を評価の際の1つの規準とします。
- ・レポートは、1. テーマへの理解度、2. 文章の論理的展開、3. 日本語力、4. 引用・参照ルールの順守、5. 形式を採点基準とします。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

課題はmanabaによって回収し、コメントを付けます。

教科書

知ってほしい国ドイツ,新野守広、飯田道子、梅田紅子,高文研,2019,9784874986332

教科書コメント

1学期のアカデミックスキルズ入門で使用した教科書をこの授業でも使用します。

参考文献コメント

授業中に指示します。

履修上の注意

履修者数制限あり。
第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

G-PortおよびLMS(manaba等)を通じて連絡します。

講義コード	U350106202	科目ナンバリング	035A134
講義名	現代地域事情 入門ゼミナールB		
英文科目名	Introduction to Contemporary Area Studies		
担当者名	小林 和貴子		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	第2学期 木曜日 3時限 西2－306.第2学期 木曜日 3時限 対面授業		

授業概要

ドイツ語圏文化学科1年生の必修科目です。1学期のアカデミックスキルズ入門で学んだ調査方法やプレゼンテーションの仕方・レポートの書き方等についての基礎的な理解を前提に、主にグループワークで戦後～現代ドイツの重要テーマを学びます。授業の最後には、それらのテーマをさらに深めて発表を行います。またその内容をまとめてレポートとして提出します。

到達目標

現代ドイツの地域事情について、基礎的な知識を身に着けること。
自らテーマを選び、それについて調べてまとめ、表現する能力を身に着けること。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション / ナチスの概要
第2回	ナチス／ナチスの概要(続き)・内容説明と意見形成
第3回	ナチス／戦争責任と「謝罪」
第4回	東ドイツ／東ドイツの概要
第5回	東ドイツ／東ドイツの概要(続き)
第6回	移民・難民／ドイツの移民・難民受け入れの歴史
第7回	移民・難民／日独比較・論点
第8回	環境・エネルギー／歴史
第9回	環境・エネルギー／論点
第10回	発表準備(グループ内調整、グループ内発表練習)
第11回	グループ発表①
第12回	グループ発表②
第13回	グループ発表③
第14回	復習・レポート課題について
第15回	到達度確認

授業方法

演習形式で、グループワークを重視します。授業は基本的に対面で行いますが、遠隔授業に切り替えなくてはならなくなった場合は同時配信型のオンライン方式(Zoomを使用)にします。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

毎回、必ず課題をだします。次の授業はその課題を基に進めていきますので、必ずやってきてください。(2時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	30 %	学期末レポート
小テスト	25 %	毎回の課題の提出
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	25 %	授業中の積極的な発言を重視します。
その他(備考欄を参照)	20 %	口頭発表

成績評価コメント

- ・口頭発表やレポートでは、研究倫理の遵守を評価の際の1つの規準とします。
- ・レポートは、1. テーマへの理解度、2. 文章の論理的展開、3. 日本語力、4. 引用・参照ルールの順守、5. 形式を採点基準とします。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

課題は適宜、授業時にコメントします。
レポートはコメントを付けて返却します。

教科書

知ってほしい国ドイツ,新野守広、飯田道子、梅田紅子,高文研,2017,9784874986332

教科書コメント

1学期のアカデミックスキルズ入門で使用した教科書をこの授業でも使用します。

参考文献コメント

授業中に指示します。

履修上の注意

履修者数制限あり。
第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

G-PortおよびLMS(moodle)を通じて連絡します。

講義コード	U350107101	科目ナンバリング	035A211
講義名	言語・情報 入門ゼミナールA		
副題	ドイツ語学概論		
英文科目名	Introduction: to Linguistics and Information Studies		
担当者名	清野 智昭		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	第1学期 金曜日 2時限 北1－302.第1学期 金曜日 2時限 対面授業		

授業概要

ドイツ語学の概論として、ドイツ語の通時的変化、共時的特徴を理解する。現代ドイツ語の音声、文法(形態論・統語論)、語彙、意味、用法などの基礎的な概念を論じるとともに、中期高地ドイツ語・初期新高ドイツ語のテキストを読む基礎を習得する。

到達目標

- 以下の点について理解し、実践または説明できることを目標とする。
- ・ドイツ語の音声について、日本語との違いを意識して、発音したり、説明したりすること。
 - ・ドイツ語の文法現象について、初級文法の範囲を超えた「しくみ」を説明できること。
 - ・ドイツ語の語彙についての特徴を説明できること。
 - ・ドイツ語の意味や用法面について、特に日本語との捉え方、表現の仕方が異なる点を説明できること。
 - ・ドイツ語の歴史について、印欧祖語から現代ドイツ語までの変遷を大まかに説明できること。
 - ・中高ドイツ語のテキストを辞書や語注を頼りに読めるようになること。

授業内容

実施回	内容
第1回	導入(授業の進め方、一般的注意):ドイツ語学入門 ドイツ語とはどんな言語か？
第2回	ドイツ語の音声(1) 母音と子音
第3回	ドイツ語の音声(2) リズムとアクセント、日本語との対照
第4回	ドイツ語の歴史(1) ドイツ語の通時的変化(印欧語から現代ドイツ語までの変遷)
第5回	ドイツ語の歴史(2) 中高ドイツ語の特徴とテキスト読解
第6回	ドイツ語の歴史(3) 初期新高ドイツ語の特徴とテキスト読解
第7回	ドイツ語の形態・統語論(1) 語の特徴
第8回	ドイツ語の形態・統語論(2) 文の特徴
第9回	ドイツ語と言語類型論 ドイツ語の類型論的特徴
第10回	ドイツ語の意味論と語用論
第11回	参加者発表(1)とディスカッション
第12回	参加者発表(2)とディスカッション
第13回	参加者発表(3)とディスカッション
第14回	参加者発表(4)とディスカッション、全体のまとめ
第15回	振り返り

授業方法

演習形式。授業はそのトピックに関する解説を行い、それをもとにグループワークを通して知識を定着させていく形式を取る。なお、トピック部分はLMS(manaba)により配信することもある。最終的に参加者が発表する。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

毎回のトピックに関して事前に配信されたオンデマンド型の教材があればそれを学習する。また、毎回、復習をして内容の理解、定着に努める。毎回の予習復習は90分程度必要。最終発表の準備に6時間程度必要。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	
その他(備考欄を参照)	30 %	口頭発表

成績評価コメント

毎回の授業で積極的に発言をし、自分が選んだトピックに関して、独自の調査、研究ができることを評価の基準とする。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

LMS(manaba)を通じてフィードバックする。

教科書コメント

特定の教科書は使用しない。

参考文献コメント

参考文献はその授業中にその都度指示する。

履修上の注意

第1回目の授業に必ず参加すること。

その他

レポートに関してはmanaba上で集めフィードバックします。

講義コード	U350107102	科目ナンバリング	035A211
講義名	言語・情報 入門ゼミナールB		
副題	ドイツ語学概論		
英文科目名	Introduction: to Linguistics and Information Studies		
担当者名	清野 智昭		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	第2学期 金曜日 2時限 北1－302.第2学期 金曜日 2時限 対面授業		

授業概要

ドイツ語学の概論として、ドイツ語の通時的変化、共時的特徴を理解する。現代ドイツ語の音声、文法(形態論・統語論)、語彙、意味、用法などの基礎的な概念を論じるとともに、中期高地ドイツ語・初期新高ドイツ語のテキストを読む基礎を習得する。

到達目標

- 以下の点について理解し、実践または説明できることを目標とする。
- ・ドイツ語の音声について、日本語との違いを意識して、発音したり、説明したりすること。
 - ・ドイツ語の文法現象について、初級文法の範囲を超えた「しくみ」を説明できること。
 - ・ドイツ語の語彙についての特徴を説明できること。
 - ・ドイツ語の意味や用法面について、特に日本語との捉え方、表現の仕方が異なる点を説明できること。
 - ・ドイツ語の歴史について、印欧祖語から現代ドイツ語までの変遷を大まかに説明できること。
 - ・中高ドイツ語のテキストを辞書や語注を頼りに読めるようになること。

授業内容

実施回	内容
第1回	導入(授業の進め方、一般的注意):ドイツ語学入門 ドイツ語とはどんな言語か？
第2回	ドイツ語の音声(1) 母音と子音
第3回	ドイツ語の音声(2) リズムとアクセント、日本語との対照
第4回	ドイツ語の歴史(1) ドイツ語の通時的変化(印欧語から現代ドイツ語までの変遷)
第5回	ドイツ語の歴史(2) 中高ドイツ語の特徴とテキスト読解
第6回	ドイツ語の歴史(3) 初期新高ドイツ語の特徴とテキスト読解
第7回	ドイツ語の形態・統語論(1) 語の特徴
第8回	ドイツ語の形態・統語論(2) 文の特徴
第9回	ドイツ語と言語類型論 ドイツ語の類型論的特徴
第10回	ドイツ語の意味論と語用論
第11回	参加者発表(1)とディスカッション
第12回	参加者発表(2)とディスカッション
第13回	参加者発表(3)とディスカッション
第14回	参加者発表(4)とディスカッション、全体のまとめ
第15回	振り返り

授業方法

演習形式。授業はそのトピックに関する解説を行い、それをもとにグループワークを通して知識を定着させていく形式を取る。なお、トピック部分はLMS(manaba)により配信することもある。最終的に参加者が発表する。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

毎回のトピックに関して事前に配信されたオンデマンド型の教材があればそれを学習する。また、毎回、復習をして内容の理解、定着に努める。毎回の予習復習は90分程度必要。最終発表の準備に6時間程度必要。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	
その他(備考欄を参照)	30 %	口頭発表

成績評価コメント

毎回の授業で積極的に発言をし、自分が選んだトピックに関して、独自の調査、研究ができることを評価の基準とする。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

LMS(manaba)を通じてフィードバックする。

教科書コメント

特定の教科書は使用しない。

参考文献コメント

参考文献はその授業中にその都度指示する。

履修上の注意

第1回目の授業に必ず参加すること。

その他

レポートに関してはmanaba上で集めフィードバックします。

講義コード	U350108101	科目ナンバリング	035A221
講義名	文学・文化 入門ゼミナールA		
副題	ドイツ文化史入門		
英文科目名	Introduction to Literature and Cultural Studies		
担当者名	田丸 理砂		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	第2学期 金曜日 2時限 中央－508.第2学期 金曜日 2時限 対面授業		

授業概要

この授業では、まずドイツ語圏の地域の歴史的背景を学びます。そのうえで、それぞれの時代に特徴的な芸術作品(文学、絵画、音楽等)に触れ、ドイツ語圏の文化史の全体像をつかむことを目標とします。学生発表を中心に授業を進めますので、その過程で、文献検索の仕方や発表の仕方、レポート作成の基礎等、アカデミック・スキルの基本も学びます。

到達目標

- ・ドイツ語圏の(特に近代以降の)歴史の大きな流れをつかむ。
- ・問題を発見するための考え方を身につける。
- ・資料検索、資料作成、レポート作成等の、学習技術も身につける。
- ・他の人の発表にコメントできるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション、発表テーマ希望調査
第2回	教科書「中世から初期近代へ」、テーマ決定
第3回	教科書「ナポレオンの衝撃」
第4回	教科書「自由と統一をめざして」、文献リストの提出
第5回	教科書「ドイツ帝国」
第6回	教科書「第一次世界大戦」、発表資料(ハンドアウト)の作成
第7回	教科書「ヴァイマル共和国」
第8回	教科書「ナチ・ドイツ」
第9回	教科書「ホロコースト」、学生発表①
第10回	教科書「冷戦と分断」、学生発表②
第11回	教科書「二つのドイツ」、学生発表③
第12回	教科書「東西ドイツの統一」、学生発表④
第13回	教科書「過去の克服」、学生発表⑤
第14回	教科書「統一ドイツとEU」
第15回	到達度確認

授業計画コメント

一人1回、10分程度の口頭発表をしてもらいます。

授業方法

感染対策を行いつつ、対面授業を行う予定です。グループワークを中心に授業を進めます。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

- ・毎回、教科書の指定箇所を事前に読んで、それについてまとめてください(1～2時間程度)。
- ・適宜、発表のための準備を進めてください(1時間程度)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	
その他(備考欄を参照)	30 %	口頭発表

成績評価コメント

成績には授業への参加態度(出席、積極的発言、課題提出等)も含まれます。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

- ・発表は皆でコメントしあいます。
- ・レポートはコメントをつけて返却します。

教科書

図説 ドイツの歴史,石田勇治,河出書房新社,2007,9784309761053

参考文献コメント

授業時に指示します。

履修上の注意

履修者数制限あり。
第1回目の授業に必ず出席のこと。

講義コード	U350108102	科目ナンバリング	035A221
講義名	文学・文化 入門ゼミナールB		
副題	ドイツ文化史入門		
英文科目名	Introduction to Literature and Cultural Studies		
担当者名	田丸 理砂		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	第1学期 金曜日 2時限 中央－508.第1学期 金曜日 2時限 対面授業		

授業概要

この授業では、まずドイツ語圏の地域の歴史的背景を学びます。そのうえで、それぞれの時代に特徴的な芸術作品(文学、絵画、音楽等)に触れ、ドイツ語圏の文化史の全体像をつかむことを目標とします。学生発表を中心に授業を進めますので、その過程で、文献検索の仕方や発表の仕方、レポート作成の基礎等、アカデミック・スキルの基本も学びます。

到達目標

- ・ドイツ語圏の(特に近代以降の)歴史の大きな流れをつかむ。
- ・問題を発見するための考え方を身につける。
- ・資料検索、資料作成、レポート作成等の、学習技術も身につける。
- ・他の人の発表にコメントできるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション、発表テーマ希望調査
第2回	教科書「中世から初期近代へ」、テーマ決定
第3回	教科書「ナポレオンの衝撃」
第4回	教科書「自由と統一をめざして」、文献リストの提出
第5回	教科書「ドイツ帝国」
第6回	教科書「第一次世界大戦」、発表資料(ハンドアウト)の作成
第7回	教科書「ヴァイマル共和国」
第8回	教科書「ナチ・ドイツ」
第9回	教科書「ホロコースト」、学生発表①
第10回	教科書「冷戦と分断」、学生発表②
第11回	教科書「二つのドイツ」、学生発表③
第12回	教科書「東西ドイツの統一」、学生発表④
第13回	教科書「過去の克服」、学生発表⑤
第14回	教科書「統一ドイツとEU」
第15回	到達度確認

授業計画コメント

一人1回、10分程度の口頭発表をしてもらいます。

授業方法

感染対策を行いつつ、対面授業を行う予定です。グループワークを中心に授業を進めます。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

- ・毎回、教科書の指定箇所を事前に読んで、それについてまとめてください(1～2時間程度)。
- ・適宜、発表のための準備を進めてください(1時間程度)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	
その他(備考欄を参照)	30 %	口頭発表

成績評価コメント

成績には授業への参加態度(出席、積極的発言、課題提出等)も含まれます。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

- ・発表は皆でコメントしあいます。
- ・レポートはコメントをつけて返却します。

教科書

図説 ドイツの歴史,石田勇治,河出書房新社,2007,9784309761053

参考文献コメント

授業時に指示します。

履修上の注意

履修者数制限あり。
第1回目の授業に必ず出席のこと。

講義コード	U350109101	科目ナンバリング	035A311
講義名	言語・情報コース ゼミナール(1)		
副題	名詞・代名詞の指示物を追う		
英文科目名	Seminar in Linguistics and Information Studies		
担当者名	岡本 順治		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第1学期 金曜日 3時限 西2－304.第1学期 金曜日 3時限 対面授業		

授業概要

文章を読むとき、私たちは名詞や代名詞の指示するものを追いかけて、関係をつけようとします。以下の Neuhaus (2021:102)に登場する一節を見てください。

»Papa, hier bist du ja!«
 Bodenstein schreckte aus dem Tiefschlaf hoch, als sich jemand auf ihn warf, und war einen Moment lang desorientiert, bis ihm einfiel, dass er sich im Gästezimmer im Souterrain von Karolines Haus befand. Nele Neuhaus (2021:102)

ドイツ語の文章を頭から読んでいくと、Papa、(パパ)とは誰なのか、hier bist du ja!(ここにいたのね！〈直訳:ここに君はいる〉)と言っているのは誰なのか、最初は分かりません。Papa は呼びかけ言葉なので、du = Papa であることが想像できます。Bodenstein schreckte aus dem Tiefschlaf hoch (ボーデンシュタインは深い眠りから驚いて跳び起きた)という文の主語は Bodenstein で、寝ていたらしいことが分かります。als sich jemand auf ihn warf (誰かが彼の上に飛びかかった)という時、jemand は誰なのか、ihn とは誰なのか考えてしまいます。寝ていたのが Papa で、Papa が Bodenstein だとすると、jemand は最初の文を発話した人と推論できます。

このように、文章を読む過程は、名詞や代名詞の指示物を文の流れと共に位置づけていく推論に支えられています。そして、この推論はドイツ語の文章を前から読むことで形作られるもので、日本語にむりやり訳すとこわれてしまうこともあります。

今学期は、名詞と代名詞がどのように指示物を特定化していくのか、さらに指示物同士の関係がどのように確定されていくのかを小説の中の記述を追いながら検証します。

到達目標

- ・ドイツ語の文章の中で、名詞や代名詞が指示するものを的確に捉えることができるようになる。
- ・ドイツ語の文章の中で、名詞や代名詞が指示するものの関係を正確に捉えることができるようになる。
- ・ドイツ語と日本語の文章中における指示物の関係性の違いを意識できるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション(授業の進め方、一般的注意、参考文献の指示など)
第2回	名詞・代名詞の指示物とは何か？(概論)
第3回	発表の仕方と担当箇所の割り振り
第4回	ゼミ参加者による発表とディスカッション
第5回	ゼミ参加者による発表とディスカッション
第6回	ゼミ参加者による発表とディスカッション
第7回	ゼミ参加者による発表とディスカッション
第8回	ゼミ参加者による発表とディスカッション
第9回	ゼミ参加者による発表とディスカッション
第10回	ゼミ参加者による発表とディスカッション
第11回	ゼミ参加者による発表とディスカッション
第12回	ゼミ参加者による発表とディスカッション
第13回	ゼミ参加者による発表とディスカッション
第14回	授業の総括
第15回	到達度確認

授業計画コメント

ゼミ発表の原稿は、発表の2、3日前までに、メールで私のところへ送付すること。

授業方法

授業は演習方式で対面で行います。授業で使用する配布資料は LMS (Moodle) を用いてあらかじめ配布します。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

ゼミで用いる資料は、LMS であらかじめ配布しますので、各自資料を読み、不明な箇所をまとめておくことが求められます(約1時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		

学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	問題設定、論理性、実証性、形式、独自性を基準として総合判断します。
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	ゼミでの口頭発表、ディスカッションへの積極的関与、出席
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

口頭発表やレポートでは、研究倫理の遵守を評価の際の1つの規準とします。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

レポートは、問題設定、論理性、実証性、形式、独自性の基準で採点した後、LMS (Moodle) を使って返却されます。

教科書コメント

教科書はありません。資料は、LMSで配布します。

参考文献コメント

第1回目の授業の際に指示する。

履修上の注意

- ・第1回目の授業には必ず参加してください。
- ・言語・情報コースゼミナール(2)をあわせて履修すること。

その他

- ・さまざまな言語に興味を持ち、知的好奇心にあふれた積極的学生の参加を希望します。
- ・ドイツ語が好きな人を大歓迎します。

講義コード	U350109102	科目ナンバリング	035A311
講義名	言語・情報コース ゼミナール(2)		
副題	副詞・副詞句は何をしているか？		
英文科目名	Seminar in Linguistics and Information Studies		
担当者名	岡本 順治		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第2学期 金曜日 3時限 西2－304.第2学期 金曜日 3時限 対面授業		

授業概要

動詞、名詞、形容詞、前置詞とは異なり、副詞・副詞句の働きは多様です。以下の Neuhaus (2021:102)に登場する一節には、eigentlich, gähnend, gestern Abend, weinend, genug, früher oder später, sowieso.が副詞・副詞句です。

»Wieso hast du eigentlich im Gästezimmer geschlafen?«, wollte Sophia wissen, als er sich gähnend aufrichtete. Sollte er ihr sagen, dass Karoline sich gestern Abend im Schlafzimmer eingeschlossen hatte, weinend wie ein trotziger Teenager, weil er auf all ihre Nachrichten nicht reagiert hatte? Eigentlich verdiente Sophia die Wahrheit, denn sie war mit zwölf Jahren alt genug dafür und erfuhr sie früher oder später sowieso.

上の文章で2回登場する eigentlich は、「そもそも」と和訳されることがありますが、いったいどのような働きをしているのでしょうか？ ここでの話し手はゾフィーア(Sophia) ですが、パパがゲストルームで寝ていたのを不思議に思って尋ねています。»Wieso hast du eigentlich im Gästezimmer geschlafen?«(なぜパパはくそもそも>ゲストルームで寝たの?) 実は、この疑問文の前では、スマホの目覚まし時計が電池切れで鳴らなかったことが話題となっています。そうすると、このeigentlich は、新たに話題を導入するために使われているようです。

これとは対照的なのが、上の文章の最後の文に使われている eigentlich です。お父さんが、昨晚妻のカロリーネに寝室に入れてもらえなかったという事実を娘のゾフィーアに話そうかどうか迷ったあげくに、到達した考えが Eigentlich verdiente Sophia die Wahrheit.(くそもそも>ゾフィーアは、真実を知るのに値するなあ) です。ここでの eigentlich は「考えたあげくに到達した結論を述べる」ために用いられています。

今学期は、さまざまな種類の副詞・副詞句の働きを考えます。注意して欲しいのは、副詞・副詞句が単純に動詞・動詞句を修飾するわけではない、ということです。

到達目標

- ・ドイツ語の文章の中で、さまざまな副詞・副詞句がどのような働きをしているのか、説明できるようになる。
- ・ドイツ語のさまざまな副詞・副詞句が果たす役割を、日本語でどのように表現できるかがわかるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション(授業の進め方、一般的注意、参考文献の指示など)
第2回	副詞・副詞句の機能にはどのようなものがあるか？(概論)
第3回	発表の仕方と担当箇所の割り振り
第4回	ゼミ参加者による発表とディスカッション
第5回	ゼミ参加者による発表とディスカッション
第6回	ゼミ参加者による発表とディスカッション
第7回	ゼミ参加者による発表とディスカッション
第8回	ゼミ参加者による発表とディスカッション
第9回	ゼミ参加者による発表とディスカッション
第10回	ゼミ参加者による発表とディスカッション
第11回	ゼミ参加者による発表とディスカッション
第12回	ゼミ参加者による発表とディスカッション
第13回	ゼミ参加者による発表とディスカッション
第14回	授業の総括
第15回	到達度確認

授業計画コメント

ゼミ発表の原稿は、発表の2、3日前までに、メールで私のところへ送付すること。

授業方法

授業は演習方式で対面で行います。授業で使用する配布資料は LMS (Moodle) を用いてあらかじめ配布します。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

ゼミで用いる資料は、LMS であらかじめ配布しますので、各自資料を読み、不明な箇所をまとめておくことが求められます(約1時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		

学年末試験(第2学期)

中間テスト		
レポート	50 %	問題設定、論理性、実証性、形式、独自性を基準として総合判断します。
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	ゼミでの口頭発表、ディスカッションへの積極的関与、出席
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

口頭発表やレポートでは、研究倫理の遵守を評価の際の1つの規準とします。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

レポートは、問題設定、論理性、実証性、形式、独自性の基準で採点した後、LMS を使って返却されます。

教科書コメント

教科書はありません。資料は、LMSで配布します。

参考文献コメント

第1回目の授業の際に指示する。

履修上の注意

- ・第1回目の授業には必ず参加してください。
- ・言語・情報コースゼミナール(1)をあわせて履修すること。

その他

- ・さまざまな言語に興味を持ち、知的好奇心にあふれた積極的学生の参加を希望します。
- ・ドイツ語が好きな人を大歓迎します。

講義コード	U350109103	科目ナンバリング	035A311
講義名	言語・情報コース ゼミナール(3)		
副題	現代史を写す言語と図像(1)		
英文科目名	Seminar in Linguistics and Information Studies		
担当者名	高田 博行		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第1学期 木曜日 2時限 西2－203.第1学期 木曜日 2時限 対面授業		

授業概要

本授業では、言語データと図像データの分析からドイツ現代史にアプローチします。テーマとして取り上げるのは、《ナチスドイツ》、《東西ドイツ》、《移民難民の受け入れ》そして現在の《新型コロナ感染症》をめぐる政策です。分析のデータとしては、各時期の新聞・雑誌、ドイツ連邦議会議事録、辞書(のなかの定義)、そして直近ではインターネットとSNSのデータを用います。政治的な議論は、究極的には言語表現をめぐる議論であると言えます。言語を分析することで、政治的議論の本質が見えてきます。例えば、「再統一という列車」というメタファーはドイツ再統一推進派が好んで用いた言語表現であり、一端走り出した再統一の機運を停車(停止)させてはいけないというメッセージが打ち出されています。また、「難民の洪水」いうメタファーは難民流入反対論者の言語表現ですが、難民が入ってくると人を呑み込むような恐ろしい災害につながるという主張が背後にあります。このような理解のもと、本授業では「批判的談話分析」(レトリック分析を含む)とコーパス分析の手法により、上に挙げた4つの現代史上の事象に関して言語面(語彙・表現面)の特徴や経年変化を捉えます。言語に付随する写真やイラストなどの図像については、R. バルトの記号論に依拠しながら図像作者の世界観(狙い)をめぐり考察します。

到達目標

ドイツ現代史上の重要なトピックに関して言語と図像の面から実証的に分析することによって、ドイツ現代史に関する新たな認識を得ることを、さらに究極的には「平和」とはなにかについて洞察を深めることを目標とします。

授業内容

実施回	内容
第1回	授業の概要と目的について:言語学と平和学
第2回	【方法論の学習】①:レトリック分析
第3回	レトリック分析の〈実習〉: ★ゼレンスキー大統領のスピーチ(ドイツ語訳)を例にして★
第4回	【方法論の学習】②:「批判的談話分析」
第5回	「批判的談話分析」の〈実習〉: ★メルケル前首相の新型コロナTVスピーチ(2020年3月18日)を例にして★
第6回	【方法論の学習】③:コーパス分析(KH CoderとAntConc)
第7回	コーパス分析の〈実習〉: ★ 東西ドイツの日刊新聞の記事の比較を例にして★
第8回	【方法論の学習】④:図像分析
第9回	図像分析の〈実習〉: ★難民流入に関する新聞記事を例にして★
第10回	学生(グループ)による分析(1) ★ナチ党の政治パンフレット(1932年)★
第11回	学生(グループ)による分析(2) ★東西ドイツの辞書における定義の違い★
第12回	学生(グループ)による分析(3) ★難民問題を扱った週刊誌 Der Spiegelの特集記事★
第13回	学生(グループ)による分析(4) ★ドイツ連邦議会におけるコロナ感染症対策をめぐる議論★
第14回	総括
第15回	到達度確認

授業方法

対面授業(演習)

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

各受講生は分析の実習をするに際しては毎回少なくとも1時間は時間をかけて、また発表をするに際しては数週間前から教員と個別に面談を行い、準備学習をする必要があります。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		

中間テスト

レポート	40 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	
その他(備考欄を参照)	40 %	分析実習と分析発表

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

内容理解、分析の適切性、表現の正確さ、論理構成、独自性等の観点から、受講生の分析実習と分析発表に関して授業中および個別に評価と改善点を伝えます。

参考文献コメント

授業時および個別面談時に指示します。

履修上の注意

第1回目の授業には必ず参加してください。

第2学期の言語・情報コース ゼミナール(4)と合わせて履修すること。

その他

LMSは manaba を用います。

講義コード	U350109104	科目ナンバリング	035A311
講義名	言語・情報コース ゼミナール(4)		
副題	現代史を写す言語と図像(2)		
英文科目名	Seminar in Linguistics and Information Studies		
担当者名	高田 博行		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第2学期 木曜日 2時限 西2－203.第2学期 木曜日 2時限 対面授業		

授業概要

本授業では、言語データと図像データの分析からドイツ現代史にアプローチします。テーマとして取り上げるのは、《ナチスドイツ》、《東西ドイツ》、《移民難民の受け入れ》そして現在の《新型コロナ感染症》をめぐる政策です。分析のデータとしては、各時期の新聞・雑誌、ドイツ連邦議会議事録、辞書(のなかの定義)、そして直近ではインターネットとSNSのデータを用います。この授業では、教員がいくつか関連研究について紹介したあと、受講生が自らトピックを選び、データを収集し、そのデータについて、第1学期で習得した方法論(批判的談話分析、コーパス分析、図像分析)を用いて分析します。下の「授業の内容」欄には、ありうるトピックを例示しておきます。

到達目標

ドイツ現代史上の重要なトピックに関して言語と図像の面から実証的に分析することによって、ドイツ現代史に関する新たな認識を得ることを、さらに究極的には「平和」とはなにかについて洞察を深めることを目標とします。

授業内容

実施回	内容
第1回	授業の概要と目的について
第2回	リサーチ紹介(1) ★人を管理し差別することば(ナチズムと言語)★
第3回	リサーチ紹介(2) ★Stasi(東ドイツ時代の秘密警察)のことば★
第4回	リサーチ紹介(3) ★難民・移民をドイツ語でどう呼ぶかという問題★
第5回	リサーチ紹介(4) ★コロナワクチン反対論者の唱える陰謀論★
第6回	学生によるリサーチ(1) ★『あるヒトラーユージェント団員の日記 1928-35』における言語表現★(例示)
第7回	学生によるリサーチ(2) ★ベルリンオリンピック(1936年)を伝える雑誌★(例示)
第8回	学生によるリサーチ(3) ★東ドイツ党機関紙における言語表現の経年変化(壁崩壊10年前と直前の相違)★(例示)
第9回	学生によるリサーチ(4) ★西ドイツの新聞は東ドイツをどう形容し報道したか★(例示))
第10回	学生によるリサーチ(5) ★難民関連報道における写真のインパクト★(例示)
第11回	学生によるリサーチ(6) ★難民受け入れをめぐるFacebook上の論戦★(例示)
第12回	学生によるリサーチ(7) ★新型コロナ感染症対策をめぐるメタファー表現★(例示)
第13回	学生によるリサーチ(8) ★政治家はどう嘘をつくのか★(例示)
第14回	総括
第15回	到達度確認

授業方法

対面授業(演習)

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

各受講生は分析の実習をするに際しては毎回少なくとも1時間は時間をかけて、また発表をするに際しては数週間前から教員と個別に面談を行い、準備学習をする必要があります。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		

学期末試験(第1学期)

学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	
その他(備考欄を参照)	40 %	個別リサーチ

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

内容理解、分析の適切性、表現の正確さ、論理構成、独自性等の観点から、受講生の分析実習と分析発表に関して授業中および個別に評価と改善点を伝えます。

参考文献コメント

授業時および個別面談時に指示します。

履修上の注意

第1回目の授業には必ず参加してください。

第1学期の言語・情報コース ゼミナール(3)と合わせて履修すること。

その他

LMSは manaba を用います。

講義コード	U350109105	科目ナンバリング	035A311
講義名	言語・情報コース ゼミナール(5)		
副題	ドイツ語コーパス言語学入門		
英文科目名	Seminar in Linguistics and Information Studies		
担当者名	清野 智昭		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第1学期 金曜日 5時限 西2－303.第1学期 金曜日 5時限 対面授業		

授業概要

コーパスとは、実際に使用された言語データを研究目的で集積したもので、通常、電子的に使用できるようにしたものを指します。ドイツ語でもドイツ語研究所 (IDS) が提供するDas Deutsche Referenzkorpus (DeReKo)など大規模なコーパスが提供されています。この授業では、コーパスを扱うために必要な知識を基礎から学び、各自の興味にもとづいて、ドイツ語の現象を解明する客観的な方法を学びます。

到達目標

コーパスを用いた研究の意義やその限界を学び、コーパスを実際に扱うための具体的な技術や統計的処理の方法について理解し、実際に簡単な分析ができるようになることが目標です。

授業内容

実施回	内容
第1回	導入;コーパス言語学とは何か、授業の進め方や一般的注意
第2回	コーパスとは何か
第3回	ドイツ語のコーパスを知る
第4回	検索技術の習得(1)： 検索とは何か
第5回	検索技術の習得(2)： 検索ツールの習得
第6回	検索技術の習得(3)： 頻度リストの作成
第7回	アノテーションの理解
第8回	頻度の処理(1):さまざまな頻度
第9回	頻度の処理(2): χ^2 検定の理解
第10回	頻度の処理(3): t検定の理解
第11回	頻度の処理(4): 共起有意性の測定の理解
第12回	実例分析(1)
第13回	実例分析(2)
第14回	成果発表と授業の総括
第15回	到達度確認

授業計画コメント

パソコンを使って作業することが多くなります。PC教室を使用する予定ですが、自分でもノートパソコンを所有し、必要に応じて授業に持参することができるようにしておいてください。

授業方法

PC教室にて対面式の演習形態で行う。遠隔授業になる場合は、Zoomによる同時配信型の演習にする。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

毎回扱う方法や技能を身につけるため、各60分程度の予習復習をする必要があります。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	30 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	70 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

毎回扱う技能を確実に習得し、ドイツ語を独自に分析できるかが評価のポイントになります。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業中の課題は随時、レポートに関しては個別にmanabaやG-Port等を通じてフィードバックします。

教科書

ベーシックコーパス言語学 第2版,石川慎一郎,ひつじ書房,2,2021,978-4-8234-1093-2

参考文献コメント

参考文献は授業中に指示します。

履修上の注意

履修者数制限あり。第1回目の授業に必ず出席すること。言語・情報コース ゼミナール(6)を併せて履修すること。

講義コード	U350109106	科目ナンバリング	035A311
講義名	言語・情報コース ゼミナール(6)		
副題	ドイツ語コーパス言語学発展		
英文科目名	Seminar in Linguistics and Information Studies		
担当者名	清野 智昭		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第2学期 金曜日 5時限 西2－303.第2学期 金曜日 5時限 対面授業		

授業概要

コーパスとは、実際に使用された言語データを研究目的で集積したもので、通常、電子的に使用できるようにしたものを指します。ドイツ語でもドイツ語研究所 (IDS) が提供するDas Deutsche Referenzkorpus (DeReKo)など大規模なコーパスが提供されています。この授業では、コーパスを扱うために必要な知識を基礎から学び、各自の興味にもとづいて、ドイツ語の現象を解明する客観的な方法を学びます。

到達目標

コーパスを用いた研究の意義やその限界を学び、コーパスを実際に扱うための具体的な技術や統計的処理の方法について理解し、実際に簡単な分析ができるようになることが目標です。

授業内容

実施回	内容
第1回	導入;1学期の復習、授業の進め方や一般的注意
第2回	日本語コーパス使い方
第3回	日本語コーパスを使った事例研究
第4回	コーパスを使った語彙研究(1):語の認定
第5回	コーパスを使った語彙研究(2):ドイツ語彙の実例分析
第6回	コーパスを使った語法研究(1):コロケーションと構文
第7回	コーパスを使った語法研究(2):ドイツ語語法の実例分析
第8回	コーパスを使った文法研究(1):研究の枠組み
第9回	コーパスを使った文法研究(2):ドイツ語文法の実例分析
第10回	参加者の発表準備
第11回	参加者の発表(1)
第12回	参加者の発表(2)
第13回	参加者の発表(3)
第14回	成果発表と授業の総括
第15回	到達度確認

授業計画コメント

パソコンを使って作業することが多くなります。PC教室を使用する予定ですが、自分でもノートパソコン(Windows機)を所有し、必要に応じて授業に持参することができるようにしておいてください。

授業方法

PC教室にて対面式の演習形態で行う。遠隔授業になる場合は、Zoomによる同時配信型の演習にする。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

毎回扱う方法や技能を身につけるため、各60分程度の予習復習をする必要があります。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト	20 %	授業内プレゼンテーション
レポート	40 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	40 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

毎回扱う技能を確実に習得し、ドイツ語を独自に分析できるかが評価のポイントになります。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業中の課題は随時、レポートに関しては個別にmanabaやG-Port等を通じてフィードバックします。

教科書

ベーシックコーパス言語学 第2版,石川慎一郎,ひつじ書房,2,2021,978-4-8234-1093-2

参考文献コメント

参考文献は授業中に指示します。

履修上の注意

履修者数制限あり。第1回目の授業に必ず出席すること。言語・情報コース ゼミナール(5)を併せて履修すること。

講義コード	U350110101	科目ナンバリング	035A321
講義名	文学・文化コース ゼミナール(1)		
副題	戦後オーストリアの文学・文化		
英文科目名	Seminar in Literature and Cultural Studies		
担当者名	小林 和貴子		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第1学期 金曜日 3時限 西2－406.第1学期 金曜日 3時限 対面授業		

授業概要

オーストリアの文学・文化というと、ぱっと思いつくのはウィーン世紀末でしょう。19世紀末、急激に近代化したウィーンを中心に、様々な分野でモダンな前衛的芸術が花開きました。その後はどうなったのでしょうか？この授業では、20世紀のオーストリア史も学びつつ、普段はドイツとひとくりにされてしまいがちなオーストリアの特徴を探ります。授業で取り上げる作家・作品群から、ヒトラー・ドイツとの合邦によって一時は中断した文学的・芸術的伝統が、戦後、ひじょうに批判的な形で新たな時代の表現を生んでいる様子が浮かび上がってくるでしょう。

到達目標

- ・20世紀後半に生まれたオーストリア文学・芸術作品の特徴を、歴史的背景とともに理解する。
- ・オーストリアの特徴について考えることで、ドイツ語圏の地域の差に敏感になる。
- ・読んだテキストについて、自らの意見が言えるようになる。また、他の人の意見へのコメントができるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	テーマへの導入
第2回	イルゼ・アイヒンガー「鏡物語」(1949)
第3回	イルゼ・アイヒンガー『より大きな希望』(1948／1960)①
第4回	〃 ②
第5回	エルンスト・ヤンドル「英雄広場」(1962)
第6回	トーマス・ベルンハルト『英雄広場』(1988)①
第7回	〃 ②
第8回	ペーター・ハントケ『左利きの女』(1976)①
第9回	〃 ②
第10回	エルフリーデ・イエリネク『ピアニスト』(1983)①
第11回	〃 ②
第12回	番外編：オーストリア・ロック(Falco:Rock me Amadeus)
第13回	番外編：ウィーン・ミュージカル
第14回	総括
第15回	自主研究

授業計画コメント

- ・ひとり1回、口頭発表をしてもらう予定です。
- ・受講者の関心により、扱う作品や作家を変えることがあります。
- ・授業を通して、口頭発表・レポート執筆の際に知っておくべき研究倫理を学びます。

授業方法

現時点では対面授業を考えています。感染対策を行いつつ、グループワークを取り入れて授業を行います。遠隔授業への切り替えが必要になったら、Zoomを用いた同時配信型の授業を行います。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

- ・毎回、事前に読んでくる共通テキスト(20～30頁)があります。それを読んで、要約をしてもらいます。(1時間～1時間半程度)
- ・適宜、発表準備を進めていただきます(1時間程度)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	30 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	35 %	
その他(備考欄を参照)	35 %	口頭発表

成績評価コメント

- ・口頭発表では、準備過程も評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

- ・口頭発表は、受講者同士でコメントを交わします。
- ・レポートは、コメントをして返却します。

教科書コメント

適宜、授業時に配布します。

履修上の注意

- ・第一回目の授業に出席すること
- ・文学・文化コース ゼミナール(2)もあわせて履修すること

講義コード	U350110102	科目ナンバリング	035A321
講義名	文学・文化コース ゼミナール(2)		
副題	戦後ドイツの文学・文化		
英文科目名	Seminar in Literature and Cultural Studies		
担当者名	小林 和貴子		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第2学期 金曜日 3時限 西2－406.第2学期 金曜日 3時限 対面授業		

授業概要

2学期は戦後のドイツに目を向けます。二度の世界大戦を引き起こしたドイツは、その帰結として東西に分断された状況で戦後スタートさせます。未曾有の戦争犯罪を目の前に、戦後の東西ドイツの作家たちは過去とどのように向き合ったのでしょうか。過去との対峙は、やがてこれまでの社会を成り立たせていた家父長制的な秩序に批判的な視線も生んでいきます。例えば、何気ない日常の家庭空間は、いかに社会や政治とつながっているのでしょうか。20世紀のドイツ史を振り返りつつ、私たちの生きる現代社会の特徴や問題点を考えます。

到達目標

- ・20世紀後半に生まれたドイツ文学・芸術作品の特徴を、歴史的背景とともに理解する。
- ・読んだテキストについて、自らの意見が言えるようになる。また、他の人の意見へのコメントができるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	テーマへの導入
第2回	ギュンター・アイヒ『夢』(1951)①
第3回	〃 ②
第4回	ギュンター・グラス『ブリキの太鼓』(1959)①
第5回	〃 ②
第6回	クリストフ・ハイン『ホルンの最期』(1985)①
第7回	〃 ②
第8回	〃 ③
第9回	ビルギット・ヴァンデルベーク『貝を食べる』(1990)①
第10回	〃 ②
第11回	戦後ドイツ美術(リヒター、キーフアー)
第12回	番外編:西ベルリン・ロック(Ideal)
第13回	番外編:東ベルリン・ロック(Feeling B)
第14回	総括
第15回	自主研究

授業計画コメント

- ・ひとり1回、口頭発表をしてもらう予定です。
- ・受講者の関心により、扱う作品や作家を変えることがあります。
- ・授業を通して、口頭発表・レポート執筆の際に知っておくべき研究倫理を学びます。

授業方法

現時点では対面授業を考えています。感染対策を行いつつ、グループワークを取り入れて授業を行います。遠隔授業への切り替えが必要になったら、Zoomを用いた同時配信型の授業を行います。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

- ・毎回、事前に読んでくる共通テキスト(20～30頁)があります。それを読んで、要約をしてもらいます。(1時間～1時間半程度)
- ・適宜、発表準備を進めていただきます(1時間程度)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	30 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	35 %	
その他(備考欄を参照)	35 %	口頭発表

成績評価コメント

- ・口頭発表では、準備過程も評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

- ・口頭発表は、受講者同士でコメントを交わします。
- ・レポートは、コメントをして返却します。

教科書コメント

適宜、授業時に配布します。

履修上の注意

- ・第一回目の授業に出席すること
- ・文学・文化コース ゼミナール(1)もあわせて履修すること

講義コード	U350110103	科目ナンバリング	035A321
講義名	文学・文化コース ゼミナール(3)		
副題	文化と社会(1)		
英文科目名	Seminar in Literature and Cultural Studies		
担当者名	田丸 理砂		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第1学期 水曜日 5時限 西2－203.第1学期 水曜日 5時限 対面授業		

授業概要

第一次世界大戦と第二次世界大戦の戦間期のドイツのモダンガール現象について、おもに女性による文学作品および写真や映画などを題材に考察していきます。

到達目標

ドイツのみならず、都市大衆社会の成立がジェンダー関係に与えた影響を敷衍化できるようになることを目標とします。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	都市大衆社会文化の成立について
第3回	ホワイトカラー文化
第4回	映画『ベルリン大都会交響楽』
第5回	マーシャ・カレコ『抒情的速記ノート』
第6回	イルムガルト・コイン『ギルギ―わたしたちのひとり』(1)
第7回	イルムガルト・コイン『ギルギ―わたしたちのひとり』(2) 刑法218条について
第8回	イルムガルト・コイン『偽絹の女の子』(1)
第9回	イルムガルト・コイン『偽絹の女の子』(2)
第10回	イルムガルト・コイン『偽絹の女の子』(3)
第11回	カバレット・ソングに見るジェンダーの揺らぎ
第12回	映画『制服の処女』
第13回	モダンガールと写真
第14回	マリールイーゼ・フライサー『少女イエラ』
第15回	理解度の確認

授業計画コメント

論文やレポート作成の際に知っておくべき研究倫理も学びます。

授業方法

対面による演習形式の授業です。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

予め与えられた課題にそってテキストの内容をまとめ、各グループ内で発表できるように準備しておくこと(90分)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	
その他(備考欄を参照)	30 %	各自選んだテーマについての発表

成績評価コメント

毎回の授業ではグループワークで積極的に発言していること、またレポートでは授業内容を理解し、自分なりに資料を収集し分析することができること。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

各回の課題については、授業中のグループワークで確認します。学期末レポートはコメントを付して返却します。

教科書コメント

テキストについては著作権に留意して配布します。

参考文献コメント

参考文献は授業中に適宜指示します。

履修上の注意

第一回目の授業に出席すること。
文学・文化コースゼミナール(4)もあわせて履修すること。

その他

欠席する場合には、連絡をしてください。また欠席した場合には、課題を提出してください。

講義コード	U350110104	科目ナンバリング	035A321
講義名	文学・文化コース ゼミナール(4)		
副題	文化と社会(2)		
英文科目名	Seminar in Literature and Cultural Studies		
担当者名	田丸 理砂		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第2学期 水曜日 5時限 西2－203.第2学期 水曜日 5時限 対面授業		

授業概要

ドイツ語圏の文化を成り立たせているのは、ドイツ語を母語とする人ばかりではありません。この授業では現代の文学作品や映像作品から、グローバル化する世界におけるドイツ語圏の文化を考察していきます

到達目標

グローバル化の進む社会における文化の複雑性を理解し、それを作品分析に応用できるようになることを目標とします。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	多和田葉子の作品を読む(1)
第3回	多和田葉子の作品を読む(2)
第4回	トルコ系監督による映画(1)
第5回	トルコ系監督による映画(2)
第6回	サーシャ・スタニシチ『兵士はどうやってグラモフォンを修理するか』(1)
第7回	サーシャ・スタニシチ『兵士はどうやってグラモフォンを修理するか』(2)
第8回	サーシャ・スタニシチ『兵士はどうやってグラモフォンを修理するか』(3)
第9回	サーシャ・スタニシチ『兵士はどうやってグラモフォンを修理するか』(4)
第10回	ナターシャ・ヴォーディン『彼女はマリウポリからやってきた』(1)
第11回	ナターシャ・ヴォーディン『彼女はマリウポリからやってきた』(2)
第12回	ナターシャ・ヴォーディン『彼女はマリウポリからやってきた』(3)
第13回	ナターシャ・ヴォーディン『彼女はマリウポリからやってきた』(4)
第14回	ナターシャ・ヴォーディン『ナスチャのなみだ』
第15回	理解度チェック

授業計画コメント

論文やレポートを作成の際に知っておくべき研究倫理を学ぶことも目標とします。

授業方法

対面による演習形式の授業です。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

予め与えられた課題にそってテキストの内容をまとめ、各グループ内で発表できるように準備しておくこと(90分)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	
その他(備考欄を参照)	30 %	各自選んだテーマについての発表

成績評価コメント

毎回の授業ではグループワークで積極的に発言していること、またレポートでは授業内容を理解し、自分なりに資料を収集し分析できること。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

各回の課題については、授業中のグループワークで確認します。学期末レポートはコメントを付して返却します。

教科書コメント

テキストは著作権に留意した上で配布します。

参考文献コメント

参考文献は、授業中に適宜指示します。

履修上の注意

第一回目の授業に出席すること。
文学・文化コースゼミナール(3)もあわせて履修すること。

その他

欠席する場合には連絡してください。

講義コード	U350110105	科目ナンバリング	035A321
講義名	文学・文化コース ゼミナール(5)		
副題	Romantische Erzählungen		
英文科目名	Seminar in Literature and Cultural Studies		
担当者名	PEKAR, Thomas		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第1学期 金曜日 2時限 北1－406.第1学期 金曜日 2時限 対面授業		

授業概要

Im Mittelpunkt des Seminars stehen die Texte von zwei romantischen Schriftstellern, von Ludwig Tieck, mit seinem Kunstmärchen der Frühromantik „Der blonde Eckbert“ (1797), und Joseph von Eichendorff, mit seiner spätromantischen Novelle „Aus dem Leben eines Taugenichts“ (1826). Diese beiden Texte geben einen guten Überblick über die Literaturepoche der Romantik überhaupt. Die Texte werden zunächst in einer didaktisierten, vereinfachten Ausgabe gelesen, um dann auszugsweise im Original gelesen zu werden. Die genaue Lektüre und das Textverständnis stehen im Mittelpunkt, wobei interpretatorische, besonders auf die Romantik selbst bezogene Fragestellungen einbezogen werden.

到達目標

Die Studierenden lernen anhand von exemplarischen Texten eine wichtige Epoche der deutschsprachigen Literaturgeschichte kennen. Die genaue Lektüre übt ihr Textverständnis und erweitert ihren Wortschatz. Weiter werden sie darin geschult, eigene interpretatorische Fragestellungen zu entwickeln.

授業内容

実施回	内容
第1回	Einführung; Überblick – Romantik und Ludwig Tieck
第2回	Tieck, „Der blonde Eckbert“ – vereinfachte Lektüre, Kapitel 1 + 2
第3回	Tieck, „Der blonde Eckbert“ – vereinfachte Lektüre, Kapitel 3
第4回	Tieck, „Der blonde Eckbert“ – vereinfachte Lektüre, Kapitel 4
第5回	Tieck, „Der blonde Eckbert“ – vereinfachte Lektüre, Kapitel 5
第6回	Tieck, „Der blonde Eckbert“ – vereinfachte Lektüre, Kapitel 6
第7回	Tieck, „Der blonde Eckbert“ – vereinfachte Lektüre, Kapitel 7
第8回	Tieck, „Der blonde Eckbert“ – vereinfachte Lektüre, Kapitel 8
第9回	Tieck, „Der blonde Eckbert“ – vereinfachte Lektüre, Kapitel 9
第10回	Tieck, „Der blonde Eckbert“ – vereinfachte Lektüre, Kapitel 10 + 11
第11回	Tieck, „Der blonde Eckbert“ – Originallektüre
第12回	Tieck, „Der blonde Eckbert“ – Originallektüre
第13回	Test
第14回	Abschlussdiskussion
第15回	Nacharbeit

授業方法

Gruppendiskussionen, Gruppenarbeit, Impulsanregungen durch die Teilnehmer / Teilnehmerinnen (Referate) und den Seminarleiter; Mediennutzung

使用言語

日本語・英語以外

準備学習(予習・復習)

Eigene Lektüren, Vorbereitungen und Erledigungen von Arbeitsaufträgen sind im Umfang von ca. 60. Minuten zur Seminarvorbereitung notwendig. Bei Referatsübernahme erhöht sich die Vorbereitungszeit.

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	30 %	
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

Jeder Teilnehmer / jede Teilnehmerin am Seminar soll einen ausführlichen Vortrag (eine Präsentation) halten, regelmäßig am

Unterricht teilnehmen, sich an der Diskussion beteiligen und den Test mitschreiben bzw. an der Abschlussprüfung teilnehmen.
Die Leistungsbewertung setzt sich aus diesen Teilen (Präsentation, Unterrichtsteilnahme und Testergebnis) zusammen.

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

Der Seminarleiter spricht mit jedem Teilnehmer / jeder Teilnehmerin über sein / ihr Referat vor und nach der Präsentation.
Weiter kann jederzeit über das Diskussionsverhalten, den Unterricht etc. gesprochen werden. Dies kann nach den Unterrichtsstunden oder in der Sprechstunde geschehen.

教科書コメント

Alle Texte und Arbeitsmaterialien werden als Kopien zur Verfügung gestellt.

参考文献コメント

Alle Texte und Arbeitsmaterialien werden als Kopien zur Verfügung gestellt.

講義コード	U350110106	科目ナンバリング	035A321
講義名	文学・文化コース ゼミナール(6)		
副題	Romantische Erzählungen		
英文科目名	Seminar in Literature and Cultural Studies		
担当者名	PEKAR, Thomas		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第2学期 金曜日 2時限 北1－406.第2学期 金曜日 2時限 対面授業		

授業概要

Im Mittelpunkt des Seminars stehen die Texte von zwei romantischen Schriftstellern, von Ludwig Tieck, mit seinem Kunstmärchen der Frühromantik „Der blonde Eckbert“ (1797), und Joseph von Eichendorff, mit seiner spätromantischen Novelle „Aus dem Leben eines Taugenichts“ (1826). Diese beiden Texte geben einen guten Überblick über die Literaturepoche der Romantik überhaupt. Die Texte werden zunächst in einer didaktisierten, vereinfachten Ausgabe gelesen, um dann auszugsweise im Original gelesen zu werden. Die genaue Lektüre und das Textverständnis stehen im Mittelpunkt, wobei interpretatorische, besonders auf die Romantik selbst bezogene Fragestellungen einbezogen werden.

到達目標

Die Studierenden lernen anhand von exemplarischen Texten eine wichtige Epoche der deutschsprachigen Literaturgeschichte kennen. Die genaue Lektüre übt ihr Textverständnis und erweitert ihren Wortschatz. Weiter werden sie darin geschult, eigene interpretatorische Fragestellungen zu entwickeln.

授業内容

実施回	内容
第1回	Einführung: Eichendorff
第2回	Eichendorff, "Aus dem Leben ..." – vereinfachte Lektüre, Kapitel 1
第3回	Eichendorff, "Aus dem Leben ..." – vereinfachte Lektüre, Kapitel 2
第4回	Eichendorff, "Aus dem Leben ..." – vereinfachte Lektüre, Kapitel 3
第5回	Eichendorff, "Aus dem Leben ..." – vereinfachte Lektüre, Kapitel 4
第6回	Eichendorff, "Aus dem Leben ..." – vereinfachte Lektüre, Kapitel 5
第7回	Eichendorff, "Aus dem Leben ..." – vereinfachte Lektüre, Kapitel 6
第8回	Eichendorff, "Aus dem Leben ..." – vereinfachte Lektüre, Kapitel 7
第9回	Eichendorff, "Aus dem Leben ..." – vereinfachte Lektüre, Kapitel 8
第10回	Eichendorff, "Aus dem Leben ..." – vereinfachte Lektüre, Kapitel 9
第11回	Eichendorff, "Aus dem Leben ..." – vereinfachte Lektüre, Kapitel 10
第12回	Eichendorff, "Aus dem Leben ..." – vereinfachte Lektüre, Kapitel 11 + 12
第13回	Test
第14回	Abschlussdiskussion
第15回	Nacharbeit

授業方法

Gruppendiskussionen, Gruppenarbeit, Impulsanregungen durch die Teilnehmer / Teilnehmerinnen (Referate) und den Seminarleiter; Mediennutzung

使用言語

日本語・英語以外

準備学習(予習・復習)

Eigene Lektüren, Vorbereitungen und Erledigungen von Arbeitsaufträgen sind im Umfang von ca. 60. Minuten zur Seminarvorbereitung notwendig. Bei Referatsübernahme erhöht sich die Vorbereitungszeit.

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)	30 %	
中間テスト		
レポート	40 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

Jeder Teilnehmer / jede Teilnehmerin am Seminar soll einen ausführlichen Vortrag (eine Präsentation) halten, regelmäßig am

Unterricht teilnehmen, sich an der Diskussion beteiligen und den Test mitschreiben bzw. an der Abschlussprüfung teilnehmen.
Die Leistungsbewertung setzt sich aus diesen Teilen (Präsentation, Unterrichtsteilnahme und Testergebnis) zusammen.

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

Der Seminarleiter spricht mit jedem Teilnehmer / jeder Teilnehmerin über sein / ihr Referat vor und nach der Präsentation.
Weiter kann jederzeit über das Diskussionsverhalten, den Unterricht etc. gesprochen werden. Dies kann nach den Unterrichtsstunden oder in der Sprechstunde geschehen.

教科書コメント

Alle Texte und Arbeitsmaterialien werden als Kopien zur Verfügung gestellt.

参考文献コメント

Alle Texte und Arbeitsmaterialien werden als Kopien zur Verfügung gestellt.

講義コード	U350111101	科目ナンバリング	035A331
講義名	現代地域事情コース ゼミナール(1)		
副題	東ドイツを振り返る(1)		
英文科目名	Seminar in Contemporary Area Studies		
担当者名	清野 智昭		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第1学期 火曜日 2時限 西1－303.第1学期 火曜日 2時限 対面授業		

授業概要

ベルリンの壁が崩壊したのは1989年である。その後、急速にドイツは統一されたが、それは対等な合併ではなく、東ドイツ(DDR、ドイツ民主共和国)が西ドイツ(BRD、ドイツ連邦共和国)に吸収する形で行われた。40年間だけ存在した国、東ドイツとはどのような国であったのか。このゼミでは、その成立から消滅までを、政治、経済、教育、文化という様々な点で振り返っていく。

到達目標

- ・戦後ドイツ史を特に東ドイツを軸に説明できること。
- ・東ドイツの政治、経済、教育、文化について理解すること。
- ・ドイツ統一への道筋を理解すること。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション； このゼミの進め方や一般的説明。
第2回	新しいドイツの模索(1945-1949)
第3回	発表とディスカッション①
第4回	冷戦と過去の重荷を背負って(1949-1961)
第5回	発表とディスカッション②
第6回	ウルブリヒトと「奇跡の経済」(1961-1972)
第7回	発表とディスカッション③
第8回	ホーネッカーの「後見社会国家」(1971-1980)
第9回	発表とディスカッション④
第10回	労働者と農民の国の終焉(1981-1990)
第11回	発表とディスカッション⑤
第12回	参加者発表(1)
第13回	参加者発表(2)
第14回	総括
第15回	達成度確認

授業計画コメント

受講者の関心等により、授業計画を変更する場合があります。

授業方法

演習形式。遠隔授業の場合は、Zoomによる同時配信型。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

偶数回:指定した資料の要約(1時間) 奇数回:疑問点の調査(2時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	60 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点に関しては、毎回の資料をきちんと読み込んだ上で、積極的にディスカッションに参加すること。レポートは事実に即して、きちんと自分の意見を述べているかを評価のポイントにします。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

レポートはmanabaで提出してもらい、必要に応じてフィードバックします。

教科書

物語 東ドイツの歴史：中公新書,河合信晴,中央公論新社,2020, 978-4121026156

参考文献

私は東ドイツに生まれた,フランク・リースナー,東洋書店,2,2013,978-4-88595-992-9

参考文献コメント

参考文献は授業中に指示します。

履修上の注意

履修者数制限あり。第1回目の授業に必ず出席のこと。現代地域事情コース ゼミナール(2)と併せて履修すること。

その他

夏休みに、ライプツィヒ大学の語学研修に参加し、現地で資料を集めてくることを強く推奨します。

講義コード	U350111102	科目ナンバリング	035A331
講義名	現代地域事情コース ゼミナール(2)		
副題	東ドイツを振り返る(2)		
英文科目名	Seminar in Contemporary Area Studies		
担当者名	清野 智昭		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第2学期 火曜日 2時限 西1－303.第2学期 火曜日 2時限 対面授業		

授業概要

第1学期に得た東ドイツの歴史の知識のもとに、特に文化と日常生活に焦点を当てて検討していく。具体的には、東ドイツの教育や青年団体、映画、文学、シュタージ、環境問題などを扱う。

到達目標

- ・戦後ドイツ史を特に東ドイツを軸に説明できること。
- ・東ドイツの政治、経済、教育、文化について理解すること。
- ・ドイツ統一への道筋を理解すること。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション； このゼミの進め方や一般的説明。
第2回	東ドイツの教育(1):学校制度
第3回	東ドイツの教育(2):青少年団体(ピオニーア、FDJ)
第4回	東ドイツの映画(1):DEFA製作の映画(『嘘つきヤコブ』)
第5回	東ドイツの映画(2):統一後に東ドイツをテーマに製作された映画(『グッバイ、レーニン』)
第6回	東ドイツの映画(3):統一後に東ドイツをテーマに製作された映画(『Sonnenallee』)
第7回	東ドイツの文学(1):ハイナー・ミュラーを読む
第8回	東ドイツの文学(2):クリスタ・ヴォルフを読む
第9回	東ドイツの日常生活(1):仕事と家庭
第10回	東ドイツの日常生活(2):余暇の過ごし方
第11回	参加者発表(1)
第12回	参加者発表(2)
第13回	参加者発表(3)
第14回	総括
第15回	達成度確認

授業計画コメント

受講者の関心等により、授業計画を変更する場合があります。

授業方法

対面授業で演習形式で行う。遠隔授業になる場合は、Zoomを使用した同時配信型の演習とする。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

偶数回:指定した資料の要約(1時間) 奇数回:疑問点の調査(2時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	60 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点に関しては、毎回の資料をきちんと読み込んだ上で、積極的にディスカッションに参加すること。レポートは事実に即して、きちんと自分の意見を述べているかを評価のポイントにします。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

レポートはmanabaで提出してもらい、必要に応じてフィードバックします。

教科書

私は東ドイツに生まれた,フランク・リースナー,東洋書店,2,2013,978-4-88595-992-9

教科書コメント

教科書は絶版なので購入しなくてよい。必要に応じて学科閲覧室で参照すること。

参考文献コメント

参考文献は授業中に指示します。

履修上の注意

履修者数制限あり。第1回目の授業に必ず出席のこと。現代地域事情コース ゼミナール(1)と併せて履修すること。

その他

積極的な参加を望みます。

講義コード	U350111103	科目ナンバリング	035A331
講義名	現代地域事情コース ゼミナール(3)		
副題	ドイツ語圏における日本文化(基礎編)		
英文科目名	Seminar in Contemporary Area Studies		
担当者名	高田 博行		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第1学期 木曜日 3時限 中央－508.第1学期 木曜日 3時限 対面授業		

授業概要

現在のドイツ語圏において日本文化がどのようなものとして認識され評価され受容されているのかについて、いわゆるハイカルチャーに限らずサブカルチャーについても調査します。具体的なテーマ領域としては、《日本学研究・日本語学習》、《現代文化》、《伝統文化》、《食文化》、《企業・機関》を考えています。受講生は各自が具体的なトピック(下の「授業内容」欄に書かれた例示を参照)を選び、それについて発表(プレゼンテーション)し、その内容を踏まえて全員で討議を行います。

到達目標

ドイツ語圏における日本文化受容の最前線を調べることによって、日本文化を異文化として相対化して見直す視点を得ること。

授業内容

実施回	内容
第1回	導入、受講生による発表テーマの希望調査
第2回	発表テーマの決定、文献の探し方
第3回	テキストマイニング(文章データから有益な情報を取り出す方法)
第4回	受講生による発表と討論(例示:大学における日本学、カルチャーセンターにおける日本語コース)
第5回	受講生による発表と討論(例示:日本製のマンガ・アニメ、ゲーム)
第6回	受講生による発表と討論(例示:日本の文学、日本映画)
第7回	受講生による発表と討論(例示:茶道・生け花・盆栽、能・狂言・歌舞伎・文楽)
第8回	受講生による発表と討論(例示:俳句、和太鼓・尺八、柔道・合気道・剣道)
第9回	受講生による発表と討論(例示:日本の美術、ドイツ各地の日本庭園)
第10回	受講生による発表と討論(例示:Sushi、Tofu、Matcha、Sake)
第11回	受講生による発表と討論(例示:ベルリン日独センター、ケルン日本文化会館)
第12回	受講生による発表と討論(例示:ドイツにおけるユニクロ、MUJI)
第13回	受講生による発表と討論(例示:デュッセルドルフのJapan-Tag)
第14回	授業の総括
第15回	到達度の確認

授業計画コメント

ドイツにおける事情を調べるので、ドイツ語で書かれた新聞記事やインターネット記事を読むことが必須です。したがって、ドイツ語を読む意欲が強い人には不向きなゼミナールです。

授業方法

対面授業(演習)

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

各受講生はプレゼンテーションを準備するにあたって、担当教員と個別に面談します。また、ゼミで用いる資料はLMS であらかじめ配布するので、各自が資料を読み不明な箇所をまとめておく必要があります(約1時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	35 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	
その他(備考欄を参照)	35 %	発表(プレゼンテーション)

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

レポートに関しては、内容理解(考察力)、論理構成、表現の正確さ、独自性、引用・出典明示を基準にして採点したあと、各受講生に文書または口頭(面談)で評価内容を伝えます。

参考文献コメント

授業中に、また個別面談時に指示します。

履修上の注意

第1回目の授業には必ず参加してください。

第2学期の現代地域事情コース ゼミナール(4)と合わせて履修すること。

その他

LMS は manaba を使います。

講義コード	U350111104	科目ナンバリング	035A331
講義名	現代地域事情コース ゼミナール(4)		
副題	ドイツ語圏における日本文化(応用編)		
英文科目名	Seminar in Contemporary Area Studies		
担当者名	高田 博行		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第2学期 木曜日 3時限 中央－508.第2学期 木曜日 3時限 対面授業		

授業概要

現在のドイツ語圏において日本文化がどのようなものとして認識され評価され受容されているのかについて、第1学期に各受講生が扱ったテーマを別の角度から見たり他のテーマと関係づけるなどして、さらにこだわりを持って掘り下げて調査します。

到達目標

ドイツ語圏における日本文化受容の最前線を調べることによって、日本文化を異文化として相対化して見直す視点を得ること。

授業内容

実施回	内容
第1回	導入、受講生による発表テーマの希望調査
第2回	異文化理解と異文化交流(総論)
第3回	受講生による発表と討論(例示:日本との姉妹都市交流)
第4回	受講生による発表と討論(例示: ベルリンとミュンヘンにおける日本)
第5回	受講生による発表と討論(例示:日本人学校、各地の独日協会の活動)
第6回	受講生による発表と討論(例示:映画<Sushi in Suhl>に見る旧東ドイツの日本食事情)
第7回	受講生による発表と討論(例示:雑誌に掲載された日本文化)
第8回	中間まとめ
第9回	受講生による発表と討論(例示:日本語学習の動機)
第10回	受講生による発表と討論(例示:日本のkawaii文化)
第11回	受講生による発表と討論(例示:ドイツ語で書かれた俳句)
第12回	受講生による発表と討論(例示:美術館における日本美術コレクション)
第13回	受講生による発表と討論(例示:日本企業の展開)
第14回	授業の総括
第15回	到達度の確認

授業計画コメント

ドイツにおける事情を調べるので、ドイツ語で書かれた新聞記事やインターネット記事を読むことが必須です。したがって、ドイツ語を読む意欲が強い人には不向きなゼミナールです。

授業方法

対面授業(演習)

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

各受講生はプレゼンテーションを準備するにあたって、担当教員と個別に面談します。また、ゼミで用いる資料はLMS であらかじめ配布するので、各自が資料を読み不明な箇所をまとめておく必要があります(約1時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	35 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	
その他(備考欄を参照)	35 %	プレゼンテーション(発表)

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

レポートに関しては、内容理解(考察力)、論理構成、表現の正確さ、独自性、引用・出典明示を基準にして採点したあと、各受講生に文書または口頭(面談)で評価内容を伝えます。

参考文献コメント

授業中に、また個別面談時に指示します。

履修上の注意

第1回目の授業には必ず参加してください。
現代地域事情コース セミナール(3)と合わせて、通年履修すること。

その他

LMS は manaba を使います。

講義コード	U350111105	科目ナンバリング	035A331
講義名	現代地域事情コース ゼミナール(5)		
副題	ドイツの歴史教育		
英文科目名	Seminar in Contemporary Area Studies		
担当者名	小林 和貴子		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第1学期 木曜日 1時限 西2－205.第1学期 木曜日 1時限 対面授業		

授業概要

ドイツで「過去の克服」と言うとき、そこで意味されている「過去」とは、世界大戦を開始し、600万人ものユダヤ人をはじめとする多くの人々を迫害、そして虐殺したナチス・ドイツのそれを指します。敗戦後、1949年に成立したドイツ連邦共和国(西ドイツ)は、そのスタート時からこの「過去」との取り組みを行ってきました。多岐にわたる取り組みの中から、この授業では、その重要な柱の一つである歴史教育に注目します。理解しがたい過去を理解するためには、そしてなにより同じ過ちを繰り返さないためには、どのような歴史教育が必要でしょうか。独仏が議論を重ねて共同で編纂した『独仏共通歴史教科書』をもとに、1学期は、19～20世紀のドイツ史を皆でアクティブ・ラーニングします。

到達目標

- ・ナチス・ドイツの歴史を、ナチス・ドイツにいたるまでの前史も含めて理解する。
- ・ナチス・ドイツ下で行われた犯罪について、フランスの視点も入れることで、多角的に理解する。
- ・第二次世界大戦後のドイツが、ナチス・ドイツの過去とどのように向き合ってきたかを理解する。
- ・読んだテキストについて、あるいは他の人の意見や発表に対して、自らの意見が言えるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	テーマへの導入
第2回	第1部 民族の時代(1814～1914年)
第3回	第2部 19世紀および20世紀初頭における産業社会の形成
第4回	第3部 19世紀および20世紀前半における文化の発展
第5回	第4部 ヨーロッパの拡大と植民地主義
第6回	第5部 第一次世界大戦
第7回	第6部 戦間期における民主主義と全体主義体制
第8回	第7部 第二次世界大戦
第9回	学生発表①
第10回	学生発表②
第11回	学生発表③
第12回	学生発表④
第13回	学生発表⑤
第14回	総括
第15回	レポート作成

授業計画コメント

- ・ひとり1回、10分程度の口頭発表を行ってもらう予定です。発表テーマとして、戦争をどう記憶するか／戦争を記憶するメディア／独仏の和解の歩み／被害経験・抵抗運動をどう語るか／今日の排外主義との関連性／歴史教育と道德教育の関連性といったテーマを考えています。
- ・授業を通して、口頭発表・レポート執筆の際に知っておくべき研究倫理を学びます。

授業方法

現時点では対面授業を考えています。感染対策を行いつつ、グループワークを取り入れて授業を行います。遠隔授業への切り替えが必要になったら、Zoomを用いた同時配信型の授業を行います。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

- ・毎回、事前に読んでくる共通文献(20～30頁程度)があります。それを読んで、要約をしてもらいます。(1時間～1時間半程度)
- ・適宜、発表準備を進めていただきます(1時間程度)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	30 %	
小テスト		

小テスト

平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	35 %	
その他(備考欄を参照)	35 %	口頭発表

成績評価コメント

- ・口頭発表では、準備過程も評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

- ・口頭発表は、受講者同士でコメントを交わします。
- ・レポートは、コメントをして返却します。

教科書

ドイツ・フランス共通歴史教科書【近現代史】—ウィーン会議から1945年までのヨーロッパと世界,明石書店,2016,978-4750343068

教科書コメント

- ・第二回目の授業までに購入しておいてください。
- ・共通歴史教科書には「近現代史」と「現代史」の二冊があります。「近現代史」の方を購入してください。

参考文献

ドイツ・フランス共通歴史教科書【現代史】—1945年以後のヨーロッパと世界,明石書店,2008,978-4750328928

履修上の注意

- ・第一回目の授業に出席すること
- ・現代地域事情コース ゼミナール(6)もあわせて履修すること

講義コード	U350111106	科目ナンバリング	035A331
講義名	現代地域事情コース ゼミナール(6)		
副題	各国の描く第二次世界大戦の歴史		
英文科目名	Seminar in Contemporary Area Studies		
担当者名	小林 和貴子		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第2学期 木曜日 1時限 西2－205.第2学期 木曜日 1時限 対面授業		

授業概要

1学期に引き続き、ナチス・ドイツの「過去」について議論をしていきます。例えば第二次世界大戦の終わりをどう表現するか一つとっても、自明ではありません。終戦か、敗戦か、解放か、考え方と立場によって、表現は変わってくるでしょう。ナチス・ドイツ軍にとっては敗戦だった戦いの終わりも、ドイツによって占領されていた国の人々にとっては、ナチズムからの解放だったはずです。あるいは、ポーランドのように、ナチス・ドイツに占領され、ナチスのユダヤ人迫害・絶滅政策の一端を担わされた国の場合を考えてみましょう。ゲットーや強制収容所、絶滅収容所の多くは現在のポーランドに建設されていますが、ポーランドは、どのような立場でドイツの過去を問題視しているのでしょうか。2学期は、あくまでドイツとの関連に絞って、各国の歴史教科書において第二次世界大戦がどのように描かれているかを検討します。

到達目標

- ・ナチス・ドイツの歴史および第二次世界大戦を、ヨーロッパ規模で多角的に理解する。
- ・読んだテキストについて、あるいは他の人の意見や発表に対して、自らの意見が言えるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	テーマへの導入
第2回	各国の歴史認識(オーストリア)
第3回	〃 (イタリア)
第4回	〃 (スイス)
第5回	〃 (イギリス)
第6回	〃 (ロシア)
第7回	〃 (ポーランド ①)
第8回	〃 (ポーランド ②)
第9回	学生発表 ①
第10回	学生発表 ②
第11回	学生発表 ③
第12回	学生発表 ④
第13回	学生発表 ⑤
第14回	総括
第15回	レポート作成

授業計画コメント

- ・ひとり1回、10分程度の口頭発表をしてもらう予定です。発表テーマとして、ヨーロッパ各国にとっての第二次世界大戦を考えています。受講者の興味に応じて、アジアにおける第二次世界大戦について、各国(アメリカや韓国、中国)が日本に対してどのような歴史認識を持っているか、発表で扱うことも可能です。
- ・授業を通して、口頭発表・レポート執筆の際に知っておくべき研究倫理を学びます。

授業方法

現時点では対面授業を考えています。感染対策を行いつつ、グループワークを取り入れて授業を行います。遠隔授業への切り替えが必要になったら、Zoomを用いた同時配信型の授業を行います。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

- ・毎回、事前に読んでくる共通文献(20～30頁程度)があります。それを読んで、要約をしてもらいます。(1時間～1時間半程度)
- ・適宜、発表準備を進めていただきます(1時間程度)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	30 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	35 %	

平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等) %

その他(備考欄を参照)	35 %	口頭発表
-------------	------	------

成績評価コメント

- ・口頭発表では、準備過程も評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

- ・口頭発表は、受講者同士でコメントを交わします。
- ・レポートは、コメントをして返却します。

教科書コメント

- ・授業時に資料を配布します。

履修上の注意

- ・第一回目の授業に出席すること
- ・現代地域事情コース ゼミナール(5)もあわせて履修すること

講義コード	U350200101	科目ナンバリング	035A511
講義名	言語・情報 講義(1)		
副題	論理学入門		
英文科目名	Lecture on Linguistics and Information Studies		
担当者名	田中 雅敏		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	第1学期 月曜日 2時限 北1－301.第1学期 月曜日 2時限 対面授業		

授業概要

「コーヒーを飲むと眠れない」という人に対して、「じゃあ、コーヒーを飲まなければ寝れるじゃないか」と助言することは論理的に正しいだろうか。実際には、「コーヒーを飲むと眠れない」と同値(同じく正しい)になるのは「眠れるときにはコーヒーを飲んでいない」ということだけである。

このように、日常的に、あることを主張したり、反論したり、助言したりするときに、論理的に正しい道筋を立てないと、議論や対話はかみ合わない。社会を規律している法律の条文も、その多くが「pならばqである」という形式をしている。

この授業では、論理学の基礎について学び、最終的には日常の中の論理について考えてみる。

到達目標

- ・論理学の最初歩を理解できるようになる。
- ・日常の社会規範を論理的に捉えなおすことができるようになる。
- ・論理的な主張(ロジカルシンキング、ロジカルライティング)の技法を身につけることができる。

授業内容

実施回	内容
第1回	導入
第2回	論理学とは何か
第3回	命題論理(1):命題論理の言語
第4回	命題論理(2):真理表
第5回	命題論理(3):命題論理の証明
第6回	述語論理(1):述語論理の意味論
第7回	述語論理(2):述語論理の自然演繹
第8回	日常場面での演繹的推論
第9回	論理的矛盾
第10回	ロジカルシンキング(1)議論の組み立て方
第11回	ロジカルシンキング(2):主張の評価と批判
第12回	ロジカルライティング(1):意見文を書く(1)
第13回	ロジカルライティング(2):意見文を書く(2)
第14回	ロジカルライティング(3):データや引用を用いる
第15回	総合学習

授業計画コメント

資料は適宜配付する。

授業方法

対面授業(講義)
参考資料を配付し、事前に予習してもらい、授業に臨んでもらう形を基本とする。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前学習:配付された資料を読んで予習(60～90分)
事後学習:確認課題に挑戦する(60～90分)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	ロジカルライティングの実践
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)		

平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)

その他(備考欄を参照)

50 %

練習問題等の毎回の課題への取り組み

成績評価コメント

出席することが前提であるので、出席したことによる加点・欠席したことによる減点はない。
ただし、欠席回数が全体の1/3(5回)を超えた者は、期末レポートの出来に関わらず、単位は認定しない。

主な評価のポイントは次の通り:

- ・論理学の基礎を理解し、日常生活に論理学を応用できる思考を身につけているか
- ・論理学の技法を用いて、自分の主張をロジカルに展開できるか

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

レポート課題や宿題などは、回収し、評価に反映するとともに、必ずコメントを添えて返却する。

教科書コメント

資料は適宜配付する。

参考文献

いかにして推理するか いかにして証明するか,内井惣七,ミネルヴァ書房,1981,4-623-01340-5

講義コード	U350200102	科目ナンバリング	035A511
講義名	言語・情報 講義(2)		
副題	ヨーロッパの言語		
英文科目名	Lecture on Linguistics and Information Studies		
担当者名	瀬川 真由美		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	第2学期 火曜日 3時限 南2－200.第2学期 火曜日 3時限 対面授業		

授業概要

地球上には6000から8000種類もの言語が存在すると言われているが、その中でもインド・ヨーロッパ語族は地理的に広範囲にわたり分布している。ドイツ語や英語をインド・ヨーロッパ語族のクルガン人までさかのぼり、ヨーロッパにおける民族の移動や言語の定着を解説する。神話や童話に登場する動物をモチーフとしたドイツ語の諺を紹介する。

到達目標

古代から続く、民族、言語、宗教、文化が存在するという基礎的概念を理解し、グローバルな人材として必要な国際的教養を習得し、世界の情勢や多様性を客観的に把握できる。

授業内容

実施回	内容
第1回	導入－言語とは何か
第2回	言語の同異－世界の言語
第3回	言語の発生
第4回	ヨーロッパの言語の概念
第5回	インド・ヨーロッパ語族
第6回	ヨーロッパに散らばる様々な言語(1) 西ヨーロッパ
第7回	ヨーロッパに散らばる様々な言語(2) 北ヨーロッパと東ヨーロッパ
第8回	スペイン語の成立の概観
第9回	イベリア半島の民族史
第10回	スラヴの言語
第11回	英語の歴史(1) 時代区分
第12回	英語の歴史(2) 音/文字/語順/語彙
第13回	ドイツ語の成立
第14回	ゲルマンの民族移動のまとめ
第15回	到達度確認

授業計画コメント

ドイツ語の知識がなくても十分に理解できる内容です。授業時間内の質疑応答、課題の作成などでシラバスに記載されている予定が若干変更になる可能性があります。

授業方法

対面式で講義を実施する。必要な場合にはZoomによる同時配信型を実施する場合もある。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

授業前にシラバス記載のテーマについて調べておくこと(2時間)。
授業後にノートを整理しておくこと(2時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		学期末試験は実施しない。
中間テスト		
レポート	30 %	課題を指定する。
小テスト	30 %	課題を指定する。
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	40 %	授業時間内に指名する。
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

レポートは情報の分析と独自の考察の成果を評価する。
小テストは確実に授業の内容を理解しているのかを評価する。
平常点は授業時間内の質疑応答の成果を評価する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

課題やレポートは実施後に採点し返却を予定しています。講評はクラス全体に行います。

教科書コメント

作成した資料を提示する。

参考文献

猫の嘆きと白ネズミ,瀬川真由美,白水社,初,1996,4-560-00466-8

参考文献コメント

博物学的観点からドイツ語の動物を含む諺を集めた書籍です。すべて日本語訳を付してありますので、ドイツ語の知識がまったくなくても理解できます。

履修上の注意

ドイツ語の知識がなくても受講可能です。

その他

楽しんで授業に参加してください。初回の授業で運営方法と評価について説明する予定です。

講義コード	U350200103	科目ナンバリング	035A511
講義名	言語・情報 講義(3)		
副題	ヒトラー演説 1920～1933年		
英文科目名	Lecture on Linguistics and Information Studies		
担当者名	高田 博行		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	第1学期 水曜日 5時限 中央－401.第1学期 水曜日 5時限 対面授業		

授業概要

本講義では、四半世紀にわたるヒトラー演説がナチズムにおいて果たした役割を政治的・歴史的文脈と関係づけながら言語学の視点から解明することを試みます。それは、ヒトラー自身も気づかなかったはずのヒトラー演説の変容を、時間軸に沿って追ってみることです。ヒトラー演説をレトリックという面から分析するとともに、使用された語彙の変遷を統計学的手法で分析するなどして、ヒトラー演説の実像に迫ります。第1学期は、ナチ党が政権を掌握するまでに至る「ナチ運動期」(1933年1月まで) を扱います。

到達目標

ヒトラーの語りを分析することを通じて、現在のそして未来の為政者の語りを冷静に批判的に聞き取る知見と観点を養うこと。為政者の計算されたことば遣いに騙されない感性を養うこと。

授業内容

実施回	内容
第1回	《導入》レトリックの基礎概念
第2回	《導入》キング牧師、オバマ元大統領の演説におけるレトリック
第3回	《導入》政治家のことば:スローガンと婉曲語法
第4回	★「指導者」としての語り(1920～1923年)★
第5回	★「ミュンヘン一揆」の精算演説(1924年)★
第6回	★『わが闘争』における演説理論(1924・25年)★
第7回	★禁止された演説(1925～1927年)★
第8回	★拡声装置で広がる肉声(1928年)★
第9回	《クローズアップ》「ヒトラー演説150万語データ」による統計学的分析
第10回	★選挙戦で集票する演説(1930～1932年)★
第11回	★政権掌握:ラジオと銀幕に乗る演説(1933年)★
第12回	《補足》首相就任時の演説分析—ジェスチャー、声、レトリック
第13回	《補足》「全権委任法」(1933年3月)
第14回	総括
第15回	到達度の確認

授業方法

対面授業(講義)

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

教科書およびあらかじめ配布する資料に目を通しておいて、授業内容の理解を助ける(30分程度)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	55 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	15 %	
その他(備考欄を参照)	30 %	コメントペーパー

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

毎回提出してもらったコメントペーパーに書かれた質問などについては、次回の冒頭で取り上げて解説を加えます。

教科書

ヒトラー演説―熱狂の真実,高田博行,中央公論新社,2014

参考文献コメント

授業中に適宜指示します。

履修上の注意

ドイツ語圏文化学科の授業ですが、他学科・他学部の学生も受講することができます。ドイツ語の知識がない学生も理解できるよう補足説明するなど、十分に配慮して授業を進めます。

その他

LMSはmanabaを使用します。

講義コード	U350200104	科目ナンバリング	035A511
講義名	言語・情報 講義(4)		
副題	ヒトラー演説 1933～1945年		
英文科目名	Lecture on Linguistics and Information Studies		
担当者名	高田 博行		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	第2学期 水曜日 5時限 中央－401.第2学期 水曜日 5時限 対面授業		

授業概要

本講義では、四半世紀にわたるヒトラー演説がナチズムにおいて果たした役割を政治的・歴史的文脈と関係づけながら言語学の視点から解明することを試みます。それは、ヒトラー自身も気づかなかったはずのヒトラー演説の変容を、時間軸に沿って追ってみることです。ヒトラー演説をレトリックという面から分析するとともに、使用された語彙の変遷を統計学的手法で分析するなどして、ヒトラー演説の実像に迫ります。第2学期は、ナチ党が政権を掌握したあとのナチ政権下を扱います。

到達目標

ヒトラーの語りを分析することを通じて、現在のそして未来の為政者の語りを冷静に批判的に聞き取る知見と観点を養うこと。為政者の計算されたことば遣いに騙されない感性を養うこと。

授業内容

実施回	内容
第1回	★総統の演説舞台(1933～1934年)★
第2回	《補足》ヒトラーユーゲントの青少年たちの演説体験
第3回	《補足》イベントとしてのナチ党大会
第4回	★領土拡大の演説(1935～1938年)★
第5回	《補足》オーウェルの小説『1984年』:ダブル・スピーク
第6回	《補足》プロパガンダ としてのベルリンオリンピック(1936年)
第7回	★戦時態勢の演説(1939年)★
第8回	《補足》ポスターによるプロパガンダ
第9回	★国民の共感を失った演説(1940～1941年)★
第10回	《補足》チャップリンの映画『独裁者』ー最後の6分間の演説
第11回	★機能停止した演説(1942～1945年)★
第12回	《補足》現代のドイツの政治的言説におけるナチ語彙の復活
第13回	《補足》映画『帰ってきたヒトラー』のメッセージ性
第14回	総括
第15回	到達度の確認

授業方法

対面授業(講義)

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

教科書およびあらかじめ配布する資料に目を通しておいて、授業内容の理解を助けること(1時間程度)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	55 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	15 %	
その他(備考欄を参照)	30 %	コメントペーパー

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

毎回提出してもらったコメントペーパーに書かれた質問などについては、次回の冒頭で取り上げて解説を加えます。

教科書

ヒトラー演説ー熱狂の真実,高田博行,中央公論新社,2014

参考文献コメント

授業中に適宜指示します。

履修上の注意

ドイツ語圏文化学科の授業ですが、他学科・他学部の学生も受講することができます。ドイツ語の知識がない学生も理解できるよう、十分に補足説明するなど配慮して授業を進めます。

その他

LMSはmanabaを使用します。

講義コード	U350201101	科目ナンバリング	035A521
講義名	文学・文化 講義(2)		
副題	戦争と映画 ～映画というメディアの「機能と役割」		
英文科目名	Lecture on Literature and Cultural Studies		
担当者名	飯田 道子		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	第2学期 月曜日 3時限 西5－302.第2学期 月曜日 3時限 対面授業		

授業概要

映画というメディアは戦争とどのように関わってたのか。第二次大戦時のナチス・ドイツ、アメリカ、日本のメディア戦略を、記録映画、劇映画、ニュース映画をみながら検証していきます。続いて、戦後から今日までの、映像における戦争の表象について取り上げます。

到達目標

宣伝と統制目的に使われた時代の映画をとおして、映画というメディアの「機能と役割」について検証する。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション
第2回	第一次世界大戦と映画
第3回	ナチ時代の映画戦略
第4回	第二次大戦時のナチスのプロパガンダ映画(1)
第5回	第二次大戦時のナチスのプロパガンダ映画(2)
第6回	第二次大戦時のナチスのプロパガンダ映画(3)
第7回	第二次大戦時のアメリカのプロパガンダ映画(1)
第8回	第二次大戦時のアメリカのプロパガンダ映画(2)
第9回	第二次大戦時の日本のプロパガンダ映画(1)
第10回	第二次大戦時の日本のプロパガンダ映画(2)
第11回	戦後の映画における戦争の表象(1)
第12回	戦後の映画における戦争の表象(2)
第13回	戦後の映画における戦争の表象(3)
第14回	まとめ
第15回	ふりかえり

授業計画コメント

内容は授業の進捗状況により、変更することがあります。

授業方法

講義形式の授業です。参加者によるディスカッションもとりいれていきたいと考えています。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

授業でとりあげた作品は必ず観ておくこと。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)	60 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	40 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

授業回ごとに提出してもらうリアクションペーパーをとおして、授業への参加度と理解度の判断基準とします。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業内にフィードバックします。

教科書コメント

レジュメを配布します。

参考文献コメント

授業内に適宜指示します。

その他

積極的な授業参加を重視します。30分以上遅れての入室は、授業や他の参加者への迷惑ともなるので、慎んでください。

講義コード	U350201102	科目ナンバリング	035A521
講義名	文学・文化 講義(3)		
副題	オーストリアの歴史と文化		
英文科目名	Lecture on Literature and Cultural Studies		
担当者名	関根 裕子		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	第1学期 水曜日 4時限 中央－405.第1学期 水曜日 4時限 対面授業		

授業概要

音楽の都と呼ばれるウィーンを首都としたオーストリアは、現在はヨーロッパの一小国にすぎませんが、20世紀初頭まではハプスブルク家によって600年以上も統治され、10以上の民族を支配した多民族国家ハプスブルク帝国を形成していました。本講義では、なぜウィーンは「音楽の都」になったのかという疑問に始まり、歴史・社会と深く結びついた豊かな芸術・文化を紹介していきます。

到達目標

ウィーンを中心としたオーストリアの歴史について学びながら、それぞれの時代の社会と芸術文化の密接な関係を理解し、知識を深める。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション 講義の進め方 オーストリア、ウィーンについて
第2回	マクシミリアンI世の婚姻政策とハプスブルク帝国の拡大 ウィーン少年合唱団の歴史
第3回	カールI世 スペインハプスブルク家
第4回	宗教改革と反宗教改革の音楽
第5回	オスマン帝国の脅威と影響 カフェ文化
第6回	カール六世の時代 バロック文化と啓蒙主義
第7回	マリア・テレジアの時代 マリー・アントワネット フランス革命の影響
第8回	ヨーゼフII世とモーツァルトのオペラ 魔笛とフリーメイソン
第9回	ナポレオン戦争の影響 ベートーヴェンと革命 第九への道のり
第10回	ウィーン会議とウィンナワルツ
第11回	ビーダーマイヤーの時代 シューベルト
第12回	ヨハン・シュトラウス親子と1848年革命
第13回	フランツ・ヨーゼフの治世
第14回	エリーザベト ミュージカル『エリーザベト』
第15回	まとめ

授業計画コメント

音楽・美術・映画などの映像資料をたくさん鑑賞します。

授業方法

講義

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

世界史の知識が足りない人は、教科書を読み、歴史について積極的に予習してください。授業で興味を持った音楽などは、自分でもCDやYOUTUBEで鑑賞しましょう。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	50 %	
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

講義を理解し、正確な知識を持ち、個々の事象について、論理的に説明できるかどうか。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

学習理解の足りない傾向にある事柄が、試験でわかったときには、再度説明し、理解を深めさせる。

教科書

図説 ハプスブルク帝国: ふくろうの本,加藤雅彦,河出書房,2018
2016

参考文献

ウィーンの歴史: ふくろうの本,増谷秀樹,河出書房新社,2018,978-4-309-76245-6
世紀末ウィーン,カール・E・ショースキー 著/ 安井琢磨訳,岩波書店,第1,1983,400-00-001160-X
オーストリア文学とハプスブルク神話,クラウディオ・マグリス 著 鈴木隆雄訳,水声社,第1,1990,4-89176-237-3 c0098

履修上の注意

ドイツ語が未修でも受講可能です。オーストリアや文化に対する関心の高い学生を希望します。

講義コード	U350201103	科目ナンバリング	035A521
講義名	文学・文化 講義(4)		
副題	オーストリア 音楽の都ウィーンの歴史と文化		
英文科目名	Lecture on Literature and Cultural Studies		
担当者名	関根 裕子		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	第2学期 水曜日 4時限 中央－405.第2学期 水曜日 4時限 対面授業		

授業概要

第1学期では19世紀後半までのハプスブルク帝国の歴史をたどりながら、各時代、社会を反映した芸術(文学、音楽、建築)などを紹介してきました。第2学期では、700年間続いたハプスブルク帝国が崩壊に向かう19世紀末から20世紀初頭に華開いたいわゆる「ヴィーン世紀末」や第一次世界大戦後の継承国オーストリアが辿った20世紀の歴史、文化アイデンティティを考察します。キーワードは「ハプスブルク神話」です。授業では、たくさんの視聴覚資料を紹介します。

到達目標

多民族国家ハプスブルク帝国の末期の社会、文化状況、および崩壊後から現代までの政治、社会、文化状況を学ぶことによって、対照的な様相の日本と比較考察できるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	「ハプスブルク神話」とは？:第1学期の復習と今後の予定
第2回	文学の中の「ハプスブルク神話」:ヨーゼフ・ロート『ラデツキー行進曲』、シュテファン・ツヴァイク『昨日の世界』
第3回	世紀末美術:分離派とジャポニズム(1)グスタフ・クリムトにおける愛と死、ジャポニズム「黄金のアデーレ」
第4回	世紀末美術:分離派とジャポニズム(2)映画『黄金のアデーレ』
第5回	オペラの中の「ハプスブルク神話」:ホフマンスタール台本R.シュトラウス作曲『ばらの騎士』
第6回	明治・大正の日本とオーストリア:ホフマンスタール『エレクトラ』の日本公演をめぐる(森鷗外・松居松葉との文通)
第7回	反ユダヤ主義とシオニズム、翻弄される芸術家たち:グスタフ・マーラーとシェーンベルク
第8回	夢と深層心理の追求:フロイトとシュニッツラー
第9回	銀時代のオペレッタのとハプスブルク神話:レハール『メリー・ウィドウ』、カールマン『チャルダースュの歌姫』、ベナツキー『白馬亭』第一次世界大戦勃発とハプスブルク帝国の崩壊
第10回	ローベルト・ムージル『特性のない男』
第11回	両大戦間のオーストリア:ナチス・ドイツに併合されるまで、ザルツブルク祝祭の設立、オーストリアの文化アイデンティティ
第12回	ヒトラーとヴィーン:「ドイツ人になりたかったオーストリア人」、『サウンド・オブ・ミュージック』の虚実へトラップ一家の実像、ベルンハルト『ヘルデンブラッツ』
第13回	第二次世界大戦後のオーストリア、戦後処理の問題点と国際社会への復帰、永世中立国、ヴァルトハイム事件までフンデルトヴァッサーの芸術と社会的活動
第14回	21世紀の観光都市としてのウィーン、ニューイヤーコンサート、オペラ座舞踏会の歴史
第15回	到達度確認

授業計画コメント

毎回、講義内容について質問、意見、感想または個別の課題を書いて提出していただき、平常点に反映させます。

授業方法

講義

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前に教科書の該当部分を読むか、関連書やネットを利用して、予習することが望ましい。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)	50 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

毎回の課題の内容で、授業への積極的な参画を評価する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

課題の内容(質問、意見、感想)をもとに、講義や配布資料に反映する。

教科書

図説 ハプスブルク帝国,加藤雅彦,河出書房新社,1995,4309724957

参考文献

ハプスブルク家,江村洋,講談社,1990

図説ウィーンの歴史:ふくろうの本,増谷秀樹,河出書房新社,2016,9784309762456

ハプスブルク家:図解雑学,菊池良生,ナツメ社,2008,9784816344749

世紀末ウィーン,カール・ショースキー,岩波書店,1983

ウィーン精神,W.M.ジョンストン,みすず書房,1986

参考文献コメント

その他、洋書、個別テーマに関する参考文献については授業時に指示します。

その他

オーストリアや音楽に高い関心を持っている学生を歓迎します。ただしドイツ語や音楽の特別な知識は必要としません。毎回のリアクションペーパーの内容を重視します。

講義コード	U350202101	科目ナンバリング	035A531
講義名	現代地域事情 講義(2)		
副題	スイスと「アイデンティティ」		
英文科目名	Lecture on Contemporary Area Studies		
担当者名	松鶴 功記		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	第2学期 金曜日 5時限 西1－106.第2学期 金曜日 5時限 対面授業		

授業概要

スイスにとって言語・文化の多様性が重要な基盤であることを、連邦国家成立の道のりをたどりながら解説する。その上で20世紀、ふたつの大戦においてスイスが国際的に取った武装中立の立場と、国内での文化政策「精神的国土防衛」の成り立ちについて解説し、それらが戦後スイス社会に及ぼした影響を考察していく。

到達目標

スイス連邦国家の成立事情、20世紀スイス社会の特徴を理解し、第二次世界大戦でのドイツとの関係、その際のスイスの複雑な立場、戦後の歴史認識等の問題について考察を深める。

授業内容

実施回	内容
第1回	スイスの基礎知識
第2回	スイス連邦成立1:永久同盟から13世紀同盟時代
第3回	スイス連邦成立2:傭兵制と中立～宗教戦争
第4回	スイス連邦成立3:ヘルヴェチア共和国～連邦成立
第5回	直接民主制:連邦議会とカントン(地方自治)
第6回	他言語国家スイス
第7回	言語圏間の相互理解
第8回	ふたつの大戦と文化政策「精神的国土防衛」
第9回	1939年スイス博覧会と「ナショナル・アイデンティティ」
第10回	「自由の砦」?:劇場チューリヒ・シャウシュピールハウスと難民
第11回	戦後のスイス:1968年学生運動／女性参政権
第12回	スイスの「過去の克服」:ベルジエ報告書
第13回	外国人問題とスイスの課題
第14回	授業のまとめ
第15回	到達度確認

授業方法

講義

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

各テーマに関して配布する資料を参照し、授業内容を補足・確認すること。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	60 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

- ・平常点:毎回提出してもらうリアクションペーパーによって授業の理解度・参加度を判断する。
- ・レポート:授業内容から各自でテーマを選び執筆する。たんなる参考文献のまとめではなく、授業内容を反映し考察が加えられていることを評価する。
- ・両者の評価点の総計で成績を決定する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

リアクションペーパーの内容について、次回授業で補足説明する・または授業に反映させる。また必要に応じて追加の資料を配付

する。

参考文献コメント

授業内で適宜参考文献を紹介する。

講義コード	U350202102	科目ナンバリング	035A531
講義名	現代地域事情 講義(4)		
副題	現代ドイツ政治外交史		
英文科目名	Lecture on Contemporary Area Studies		
担当者名	板橋 拓己		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	第2学期 水曜日 4時限 南3－202.第2学期 水曜日 4時限 対面授業		

授業概要

本講義では、第二次世界大戦後から現代にまでいたるドイツ連邦共和国の政治を学ぶ。とりわけ、世界大戦や冷戦(とその終焉)がもたらした国際政治のマクロな構造変動や、国内の社会・経済の動向、そしてヨーロッパ統合の進展に留意しつつ、ドイツの内政と外交を分析する。

到達目標

専門分野の知識を深め、新しい視座を形成するため、次の2点を到達目標とする。
 1)ドイツ政治の歴史と特徴を理解する。
 2)ドイツの事例をもとに、比較の視座から現代日本政治を考えられるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	現代ドイツ政治を学ぶ意義
第2回	ドイツ政治の現在
第3回	占領から分断へ
第4回	西側結合と社会国家の建設:アデナウアー政権
第5回	変動と転換の時代:エアハルト政権とキージンガー政権
第6回	東西緊張緩和への貢献と「もっとデモクラシーを」:ブランド政権
第7回	危機管理の時代:シュミット政権
第8回	ボン共和国の成熟:コール政権(1)
第9回	社会主義国家の建設:東ドイツ(1)
第10回	安定から危機へ:東ドイツ(2)
第11回	ベルリンの壁崩壊から東西ドイツ統一へ
第12回	「ボン共和国」から「ベルリン共和国」へ:コール政権(2)
第13回	「赤緑」の挑戦:シュレーダー政権
第14回	危機対応と改革の継続:メルケル政権
第15回	まとめ

授業計画コメント

ドイツ内外の情勢や進行状況に応じて、内容は変更しうる。

授業方法

講義形式の授業。テーマ毎に配布するレジュメと資料に沿って講義する。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

各回のレジュメとノートを読み返す。また、次回分の教科書該当箇所を読んでくる(約1時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	80 %	対面での試験が実施不可能となった場合、レポートに替える。
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	20 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)		
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

詳細は講義のなかで指示する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

学生からのコメントをもとに、講義への反映や資料配布等を行う。

教科書

現代ドイツ政治外交史——占領期からメルケル政権まで,板橋拓己・妹尾哲志(編),ミネルヴァ書房,2023

教科書コメント

講義は本教科書に基づく。

参考文献

現代ドイツの外交と政治,森井裕一,信山社,2008,9784797232813

アデナウアー——現代ドイツを創った政治家,板橋拓己,中央公論新社(中公新書),2014,9784121022660

物語 東ドイツの歴史——分断国家の挑戦と挫折,河合信晴,中央公論新社(中公新書),2020,9784121026156

ドイツ統一,アンドレアス・レダー,岩波書店(岩波新書),2020,9784004318477

分断の克服1989-1990——統一をめぐる西ドイツ外交の挑戦,板橋拓己,中央公論新社(中公選書),2022,9784121101297

講義コード	U350202103	科目ナンバリング	035A531
講義名	現代地域事情 講義(6)		
副題	ナチ体制下のドイツ社会とホロコースト		
英文科目名	Lecture on Contemporary Area Studies		
担当者名	川喜田 敦子		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	第2学期 月曜日 2時限 西2-305.第2学期 月曜日 2時限 対面授業		

授業概要

ナチ時代のドイツ現代史について、①ナチ時代の内政と外交、②強制収容所と絶滅収容所、③ホロコーストと普通のドイツ人、という3つの観点から解説する。各トピックの概略に加えて、研究動向と主要な先行研究についても解説する。また、トピックごとにいくつかの史料を取り上げ、史料批判に基づいて歴史記述を組み立てる方法についてもあわせて考えたい。

到達目標

- (1)ナチ時代のドイツ現代史について基本的な知識を習得する。
- (2)ナチ時代のドイツ現代史について研究動向を把握する。
- (3)ドイツ現代史における史料批判の方法について理解する。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクションードイツ現代史を考える
第2回	ナチ時代の内政と外交【導入】
第3回	ナチ時代の内政と外交【概説】
第4回	ナチ時代の内政と外交【研究と論争】
第5回	ナチ時代の内政と外交【史料】
第6回	強制収容所と絶滅収容所【導入】
第7回	強制収容所と絶滅収容所【概説】
第8回	強制収容所と絶滅収容所【研究と論争】
第9回	強制収容所と絶滅収容所【史料】
第10回	ホロコーストと普通のドイツ人【導入】
第11回	ホロコーストと普通のドイツ人【概説】
第12回	ホロコーストと普通のドイツ人【研究と論争】
第13回	ホロコーストと普通のドイツ人【史料】
第14回	理解度の確認
第15回	振り返り

授業方法

講義

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

授業内に配布された資料、ノート等を読み返すとともに、各人の関心に応じて授業内に紹介された参考文献を参照すること(約1時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	70 %	
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	コメントペーパーの内容も評価の対象となる
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

学生からのコメントペーパーの内容をもとに、授業への反映や資料配布等を行う。

参考文献コメント

参考文献は授業内に指示する。

講義コード	U350300101	科目ナンバリング	035B311
講義名	言語・情報コース 専門演習(1)		
副題	手紙から読み解くベートーヴェンの日常生活とことば		
英文科目名	Advanced Seminar: in Linguistics and Information Studies		
担当者名	佐藤 恵		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第1学期 木曜日 1時限 西2－406.第1学期 木曜日 1時限 対面授業		

授業概要

この授業では、ベートーヴェン(1770-1827)がどのような日常生活を営み、周囲の人たちとどのような人間関係を築いていたのかについて、ベートーヴェンが書き遺した手紙を読むことで垣間見てみたいと思います。ベートーヴェンの手紙を読むことで、今から200年以上も前のドイツ語が現在のドイツ語とどのようにどの程度違っていたのかについても、理解ができることになるでしょう。第1学期は、青年時代のベートーヴェンが書いた書簡(1794年)から不滅の恋人に宛てた書簡(1812年)までを扱います。(ただし、受講生の希望によってテーマを変更する可能性もあります。)受講生のみなさんには、予習をした内容を踏まえてグループで日本語訳を作り、発表してもらいます。各授業の最後には、学習した事柄についての意見や感想を書いたコメントペーパーを提出していただきます。テキストの講読と並行して、受講生にはベートーヴェンに関する個人発表(パワーポイント等によるプレゼンテーション)をしてもらいます。口頭発表のあとには、まずグループごとに発表内容についてディスカッションをし、その後の全体討論を経て理解を深めます。発表資料の作り方や発表の仕方等に関しては、具体的に指導します。

到達目標

- ・ 18世紀末～19世紀のドイツ語テキストを読む力を養成する。
- ・ 言語のみならず、芸術・文化に関する分野についての背景知識を身につけることで、ドイツ語テキストを総合的に研究し、分析できるようにする。

授業内容

実施回	内容
第1回	第1学期の授業についての説明、動画鑑賞(ベートーヴェンの故郷ボン)
第2回	ドイツ語圏のドイツ語一筆談帳に見られる方言使用(担当:佐藤)
第3回	《19世紀のドイツ語に見られる書法上(綴り方)の特徴(1)》 手紙講読:ウィーンへの移住(1794年:24歳)
第4回	《ベートーヴェンの書簡に見られる書法上(綴り方)の特徴》 手紙講読:病気に悩むベートーヴェン(1801年:31歳)
第5回	《19世紀のドイツ語に見られる書法上(綴り方)の特徴(2)》 手紙講読:ハイリゲンシュタットの遺書(1802年:32歳)
第6回	手紙講読:未亡人への想い(1804-05年:34-35歳)
第7回	手紙講読・学生発表
第8回	手紙講読:恋の終わり(1807年:37歳)
第9回	手紙講読・学生発表
第10回	手紙講読:絶望するベートーヴェン(1810年:40歳)
第11回	手紙講読・学生発表
第12回	手紙講読:ゲーテとの出会い(1811年:41歳)
第13回	手紙講読・学生発表
第14回	手紙講読:不滅の恋人への手紙(1812年:42歳)
第15回	到達度確認

授業計画コメント

受講生の希望に応じてテーマを変更する可能性もあります。

授業方法

対面授業を基本とします。(状況によって授業形式を一部変更する可能性もあります。)

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前に必ず予習をし(約1時間)、授業ではグループワークに積極的に参加してください。毎回、授業前に予習したテキストをmanabaで提出していただきます。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	30 %	授業前に提出する予習テキスト
小テスト		

小テスト

平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	40 %	口頭発表(20%)、授業・ディスカッションへの参加度(20%)
その他(備考欄を参照)	30 %	授業後に提出するコメントペーパー

成績評価コメント

授業前に提出する予習テキスト(30%)、口頭発表(20%)、授業・ディスカッションへの参加度(20%)、授業後に提出するコメントペーパー(30%)による平常点で評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

コメントペーパーに対するフィードバックは授業内、およびmanaba経由で行います。

教科書

Briefwechsel. Gesamtausgabe., Beethoven, Ludwig van, G. Henle Verlag, 1996-1998

ベートーヴェン書簡選集 上, 小松雄一郎訳編, 音楽之友社, 1978

ベートーヴェン書簡選集 下, 小松雄一郎訳編, 音楽之友社, 1979

教科書コメント

使用するテキスト(上記のドイツ語原文および日本語訳)はコピーで配布します。

参考文献

ドイツ語の歴史論: 講座ドイツ言語学第2巻, 高田博行・新田春夫, ひつじ書房, 2013

参考文献コメント

その他の参考文献については、授業で適宜紹介します。

履修上の注意

履修者数制限あり。初回の授業には必ず出席してください。

講義コード	U350300102	科目ナンバリング	035B311
講義名	言語・情報コース 専門演習(2)		
副題	手紙から読み解くベートーヴェンの日常生活とことば		
英文科目名	Advanced Seminar: in Linguistics and Information Studies		
担当者名	佐藤 恵		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第2学期 木曜日 1時限 西2－406.第2学期 木曜日 1時限 対面授業		

授業概要

この授業では、ベートーヴェン(1770-1827)がどのような日常生活を営み、周囲の人たちとどのような人間関係を築いていたのかについて、ベートーヴェンが書き遺した手紙を読むことで垣間見てみたいと思います。ベートーヴェンの手紙を読むことで、今から200年以上も前のドイツ語が現在のドイツ語とどのようにどの程度違っていたのかについても、理解ができることになるでしょう。第2学期は甥を溺愛するベートーヴェンの書簡(1816年)から晩年の書簡(1826年)までを扱います。(ただし、受講生の希望によってテーマを変更する可能性もあります。)受講生のみなさんには、予習をした内容を踏まえてグループで日本語訳を作り、発表してもらいます。各授業の最後には、学習した事柄についての意見や感想を書いたコメントペーパーを提出していただきます。テキストの講読と並行して、受講生にはベートーヴェンに関する個人発表(パワーポイント等によるプレゼンテーション)をしてもらいます。口頭発表のあとには、まずグループごとに発表内容についてディスカッションをし、その後の全体討論を経て理解を深めます。発表資料の作り方や発表の仕方等に関しては、具体的に指導します。

到達目標

- ・ 18世紀末～19世紀のドイツ語テキストを読む力を養成する。
- ・ 言語のみならず、芸術・文化に関する分野についての背景知識を身につけることで、ドイツ語テキストを総合的に研究し、分析できるようにする。

授業内容

実施回	内容
第1回	第2学期の授業についての説明、動画鑑賞(ベートーヴェンと甥カール)
第2回	歴史語用論とは？－筆談帳に書かれた文法形式から見える人間関係(担当:佐藤)
第3回	《ベートーヴェンの書簡における文法的特徴(1)》 手紙講読:甥カールを溺愛するベートーヴェン(1816年:46歳)
第4回	手紙講読:後見権の獲得(1819年:49歳)
第5回	手紙講読・学生発表
第6回	《ベートーヴェンの書簡における文法的特徴(2)》 手紙講読:カールの母ヨハンナとベートーヴェン(1824年:54歳)
第7回	手紙講読・学生発表
第8回	手紙講読:秘書シンドラーとベートーヴェン(1824年:54歳)
第9回	手紙講読・学生発表
第10回	手紙講読:甥への過干渉と束縛(1826年:56歳)
第11回	手紙講読・学生発表
第12回	手紙講読:甥の自殺未遂(1826年:56歳)
第13回	手紙講読・学生発表
第14回	第2学期のまとめ
第15回	到達度確認

授業計画コメント

受講生の希望に応じてテーマを変更する可能性もあります。

授業方法

対面授業を基本とします。(状況によって授業形式を一部変更する可能性もあります。)

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前に必ず予習をし(約1時間)、授業ではグループワークに積極的に参加してください。毎回、授業前に予習したテキストをmanabaで提出していただきます。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	30 %	授業前に提出する予習テキスト
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	40 %	口頭発表(20%)、授業・ディスカッションへの参加度(20%)

その他(備考欄を参照)	30 %	授業後に提出するコメントペーパー
-------------	------	------------------

成績評価コメント

授業前に提出する予習テキスト(30%)、口頭発表(20%)、授業・ディスカッションへの参加度(20%)、授業後に提出するコメントペーパー(30%)による平常点で評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

コメントペーパーに対するフィードバックは授業内、およびmanaba経由で行います。

教科書

Briefwechsel. Gesamtausgabe., Beethoven, Ludwig van, G. Henle Verlag, 1996-1998

ベートーヴェン書簡選集 上, 小松雄一郎訳編, 音楽之友社, 1978

ベートーヴェン書簡選集 下, 小松雄一郎訳編, 音楽之友社, 1979

教科書コメント

使用するテキスト(上記のドイツ語原文および日本語訳)はコピーで配布します。

参考文献

ドイツ語の歴史論: 講座ドイツ言語学第2巻, 高田博行・新田春夫, ひつじ書房, 2013

参考文献コメント

その他の参考文献については、授業で適宜紹介します。

履修上の注意

履修者数制限あり。初回の授業には必ず出席してください。

講義コード	U350300103	科目ナンバリング	035B311
講義名	言語・情報コース 専門演習(3)		
副題	日本語とドイツ語の表現を比べる		
英文科目名	Advanced Seminar: in Linguistics and Information Studies		
担当者名	成田 節		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第1学期 火曜日 3時限 北1－407.第1学期 火曜日 3時限 対面授業		

授業概要

日本語の小説とそのドイツ語訳を素材として、日本語とドイツ語の表現の違いを主に文法の面から考察する。授業は(1)日独両語の文法および表現方法の主な違いについての解説、(2)ドイツ語に訳された日本文学の作品の精読、(3)正確に理解したドイツ語と元の日本語の対照による文法と表現方法の違いの考察、という3つの部分からなる。
 取り上げる日本の小説: 吉本ばなな「キッチン」、芥川龍之介「蜘蛛の糸」、村上春樹「ノルウェイの森」、川上弘美「センセイの鞆」、川端康成「雪国」、井上靖「氷壁」など(「蜘蛛の糸」以外は一部を抜粋して読む)。

到達目標

- (1) ドイツ語と日本語の文法事項と表現方法についての理解を深め、両言語を客観的に比較する態度を身につけること。
- (2) ドイツ語の読解力を向上させること。

授業内容

実施回	内容
第1回	導入
第2回	代名詞
第3回	Banana Yoshito: Kitchen 精読(1)
第4回	Banana Yoshito: Kitchen 精読(2)
第5回	主語の選択
第6回	結合価と構文
第7回	Ryunosuke Akutagawa: Der Faden der Spinne精読(1)
第8回	Ryunosuke Akutagawa: Der Faden der Spinne精読(2)
第9回	他動詞, 自動詞, 再帰動詞
第10回	再帰表現
第11回	Haruki Murakami: Naokos Lächeln精読(1)
第12回	Haruki Murakami: Naokos Lächeln精読(2)
第13回	Haruki Murakami: Naokos Lächeln精読(3)
第14回	視点
第15回	中間まとめ

授業計画コメント

授業資料は原則としてmanabaで提供する。ただし日本語の小説などは各自で用意してもらう。

授業方法

対面で、講義形式と演習形式を組み合わせる授業をすすめる。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

指定した授業資料(ドイツ語の文章など)を予習することと、授業後コメントシートを提出することが必要。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	60 %	第1学期は中間レポート, 第2学期は最終レポート提出
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	40 %	毎授業後に提出するコメントシートも評価の対象
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

具体的な言語データに基づいて、レポートの書き方を押さえ、理解できるレポートがかけているかどうか。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

フィードバックは主にmanabaで行う。

教科書コメント

授業資料は原則としてmanabaで提供する。ただし日本語の小説などは各自で用意してもらう。

参考文献コメント

授業で適宜指示します。

履修上の注意

履修者数制限あり。第1回目の授業に必ず参加すること。

講義コード	U350300104	科目ナンバリング	035B311
講義名	言語・情報コース 専門演習(4)		
副題	日本語とドイツ語の表現を比べる		
英文科目名	Advanced Seminar: in Linguistics and Information Studies		
担当者名	成田 節		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第2学期 火曜日 3時限 北1－407.第2学期 火曜日 3時限 対面授業		

授業概要

日本語の小説とそのドイツ語訳を素材として、日本語とドイツ語の表現の違いを主に文法の面から考察する。授業は(1)日独両語の文法および表現方法の主な違いについての解説、(2)ドイツ語に訳された日本文学の作品の精読、(3)正確に理解したドイツ語と元の日本語の対照による文法と表現方法の違いの考察、という3つの部分からなる。取り上げる日本の小説:吉本ばなな「キッチン」、芥川龍之介「蜘蛛の糸」、村上春樹「ノルウェイの森」、川上弘美「センセイの鞆」、川端康成「雪国」、井上靖「氷壁」など(「蜘蛛の糸」以外は一部を抜粋して読む)。

到達目標

- (1)ドイツ語と日本語の文法事項と表現方法についての理解を深め、両言語を客観的に比較する態度を身につけること。
- (2)ドイツ語の読解力を向上させること。

授業内容

実施回	内容
第1回	受動態
第2回	使役表現
第3回	Hiromi Kawakami: Der Himmel ist blau, die Erde ist weiß精読(1)
第4回	Hiromi Kawakami: Der Himmel ist blau, die Erde ist weiß精読(2)
第5回	恩恵・迷惑の表現
第6回	移動の表現
第7回	Yasunari Kawabata: Schneeland精読(1)
第8回	Yasunari Kawabata: Schneeland精読(2)
第9回	テンスとアスペクト
第10回	Yasushi Inoue: Die Eiswand精読(1)
第11回	Yasushi Inoue: Die Eiswand精読(2)
第12回	発表(1)
第13回	発表(2)
第14回	発表(3)
第15回	総まとめ

授業計画コメント

授業資料は原則としてmanabaで提供する。ただし日本語の小説などは各自で用意してもらう。

授業方法

対面で、講義形式と演習形式を組み合わせる授業をすすめる。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

指定した授業資料(ドイツ語の文章など)を予習することと、授業後コメントシートを提出することが必要。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	60 %	第1学期は中間レポート、第2学期は最終レポート提出
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	40 %	毎授業後に提出するコメントシートも評価の対象
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

具体的な言語データに基づいて、レポートの書き方を押さえ、理解できるレポートがかけられているかどうか。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

フィードバックは主にmanabaで行う。

教科書コメント

授業資料は原則としてmanabaで提供する。ただし日本語の小説などは各自で用意してもらう。

参考文献コメント

授業で適宜指示します。

履修上の注意

履修者数制限あり。第1回目の授業に必ず参加すること。

講義コード	U3503001Z1	科目ナンバリング	035B311
講義名	◇言語・情報コース 専門演習		
英文科目名	Advanced Seminar: in Linguistics and Information Studies		
担当者名	MEYER, Thomas Horst		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第1学期 金曜日 2時限 西1－104.第1学期 金曜日 2時限 対面授業		

授業概要

Grundlage des Unterrichts ist das Lehrwerk Aspekte neu C1 (Klett Verlag), das eine Einarbeitung in themenbezogenen Wortschatz und Grammatik auf dem Niveau C1 bietet. Die Themen umfassen im Wesentlichen gesellschaftliche Felder wie Medien, Bildung, Beruf, Wirtschaft und Lifestyle in aktuellen Ausprägungen und Problemkonstellationen.

到達目標

Ausweitung des Wortschatzes auf C1-Niveau, Verbesserung des Lese- und Hörverständnisses sowie Übung des sprachlichen Ausdrucks anhand von aktuellen Themen.
Deutschkenntnisse auf dem Niveau von C1 werden vorausgesetzt.

授業内容

実施回	内容
第1回	Vorstellung des Kurses / Einführung
第2回	Zeitgefühl I
第3回	Zeitgefühl II
第4回	Engagement in Vereinen
第5回	Handynutzung I
第6回	Handynutzung II
第7回	Probleme in Wohngemeinschaften
第8回	Porträt: Dinge des Alltags
第9回	Vor- und Nachteile moderner Medien
第10回	Schlagfertigkeit
第11回	Sprachen lernen
第12回	Dialekte I
第13回	Dialekte II
第14回	Porträt: LaBrassBanda
第15回	Zusammenfassung

授業方法

Grundlage des Unterrichts ist das Lehrbuch Aspekte neu Mittelstufe Deutsch C1. Je nach Größe des Kurses sollen die Teilnehmer in Einzel- oder Partnerarbeit Texte erarbeiten und Aufgaben lösen, die später im Plenum oder in Gruppen besprochen werden. An die Texte schließen sich kurze Grammatikerläuterungen und dazugehörige Übungen an. Das erworbene Wissen kann im Anschluss in weiteren schriftlichen Übungen, Hörverstehen-Übungen oder Diskussionsaufgaben erprobt werden. Je nach Problem- und Interessenlage der Teilnehmer kann der Fokus auf schriftliche, mündliche oder Hörverstehen-Aufgaben gelegt werden.

使用言語

日本語・英語以外

準備学習(予習・復習)

Neben der üblichen Vor- und Nachbereitung des Unterrichts können vereinzelt Hausaufgaben von geringem Umfang gestellt werden (Fertigstellung von Übungen, Materialauswahl für den folgenden Unterricht u.ä.)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	40 %	mündliche Prüfung
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	60 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

本授業は大学院・学部共通の授業ですが、学部生の成績評価は大学院生とは違う基準で行います。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

mündliches Feedback

教科書

Aspekte neu C1: Mittelstufe Deutsch, Lehr- und Arbeitsbuch, Ute Koithan et al, Klett Verlag, 2016, 978-3126050371

教科書コメント

Teilband 1 (Lektion 1-5) ist ausreichend.

Das Arbeitsbuch braucht nicht angeschafft zu werden.

履修上の注意

教科書を郁文堂のサイト(<https://www.ikubundo.com/news/2023-02-10/>)より購入できます。履修を決定した時点で(遅くとも第1回目の授業後)速やかに注文してください。

講義コード	U3503001Z2	科目ナンバリング	035B311
講義名	◇言語・情報コース 専門演習		
英文科目名	Advanced Seminar: in Linguistics and Information Studies		
担当者名	MEYER, Thomas Horst		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第2学期 金曜日 2時限 西1－104.第2学期 金曜日 2時限 対面授業		

授業概要

Grundlage des Unterrichts ist das Lehrwerk Aspekte neu C1 (Klett Verlag), das eine Einarbeitung in themenbezogenen Wortschatz und Grammatik auf dem Niveau C1 bietet. Die Themen umfassen im Wesentlichen gesellschaftliche Felder wie Medien, Bildung, Beruf, Wirtschaft und Lifestyle in aktuellen Ausprägungen und Problemkonstellationen.

到達目標

Ausweitung des Wortschatzes auf C1-Niveau, Verbesserung des Lese- und Hörverständnisses sowie Übung des sprachlichen Ausdrucks anhand von aktuellen Themen.
Deutschkenntnisse auf dem Niveau von C1 werden vorausgesetzt.

授業内容

実施回	内容
第1回	Einführung/Stellenanzeigen
第2回	Ein ”bunter” Lebenslauf
第3回	Studium oder Ausbildung I
第4回	Studium oder Ausbildung II
第5回	Multitasking
第6回	Soft Skills
第7回	Junge Unternehmen
第8回	Der Kohlenpott: Die Entwicklung des Ruhrgebiets
第9回	Gewissensfragen
第10回	Globalisierung I
第11回	Globalisierung II
第12回	Crowdfunding I
第13回	Crowdfunding II
第14回	Porträt: Petra Jenner
第15回	Zusammenfassung

授業方法

Grundlage des Unterrichts ist das Lehrbuch Aspekte neu Mittelstufe Deutsch C1. Je nach Größe des Kurses sollen die Teilnehmer in Einzel- oder Partnerarbeit Texte erarbeiten und Aufgaben lösen, die später im Plenum oder in Gruppen besprochen werden. An die Texte schließen sich kurze Grammatikerläuterungen und dazugehörige Übungen an. Das erworbene Wissen kann im Anschluss in weiteren schriftlichen Übungen, Hörverstehen-Übungen oder Diskussionsaufgaben erprobt werden. Je nach Problem- und Interessenlage der Teilnehmer kann der Fokus auf schriftliche, mündliche oder Hörverstehen-Aufgaben gelegt werden.

使用言語

日本語・英語以外

準備学習(予習・復習)

Neben der üblichen Vor- und Nachbereitung des Unterrichts können vereinzelt Hausaufgaben von geringem Umfang gestellt werden (Fertigstellung von Übungen, Materialauswahl für den folgenden Unterricht u.ä.)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)	40 %	mündliche Prüfung
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	60 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

本授業は大学院・学部共通の授業ですが、学部生の成績評価は大学院生とは違う基準で行います。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

mündliches Feedback

教科書

Aspekte neu C1: Mittelstufe Deutsch, Lehr- und Arbeitsbuch, Ute Koithan et al, Klett Verlag, 2016, 978-3126050371

教科書コメント

Teilband 1 (Lektion 1-5) ist ausreichend.

Das Arbeitsbuch braucht nicht angeschafft zu werden.

履修上の注意

教科書を郁文堂のサイト(<https://www.ikubundo.com/news/2023-02-10/>)より購入できます。履修を決定した時点で(遅くとも第1回目の授業後)速やかに注文してください。

講義コード	U3503001Z3	科目ナンバリング	035B311
講義名	◇言語・情報コース 専門演習		
副題	中世ドイツ語学・文学入門		
英文科目名	Advanced Seminar: in Linguistics and Information Studies		
担当者名	平井 敏雄		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第1学期 木曜日 5時限 西2－506.第1学期 木曜日 5時限 対面授業		

授業概要

現代ドイツ文化の源流が形作られた中世という時代、ドイツ語圏では現代のドイツ語とは様々な点で異なる言語が話されていました。また、中世最盛期の12～13世紀ごろには、宮廷の騎士階級による詩の文学が大いに栄え、ドイツ文学史上最初の黄金時代と呼ばれています。本授業では、中世盛期に用いられた「中高ドイツ語」の概要を理解し、ドイツ語の歴史および周辺諸言語との関係についての基本的な知識を学ぶと共に、中世文学に触れ、中世の文化・社会・生活全般に関する理解を深めていきます。その際に、現代ドイツ語による参考文献を精読することで、学術的な内容をもったドイツ語テキストを読み解く能力の向上を目指します。

到達目標

- ・中高ドイツ語を中心に、ドイツ語の歴史の概略をつかみ、現代ドイツ語に見られるさまざまな事象の起源を理解することで、現代語への理解をいっそう深める。また、周辺諸言語との関係についての知識を得る。
- ・現代ヨーロッパの源流である、中世の文化・社会・生活に関する知識・理解を深める。
- ・現代ドイツ語による参考文献を精読することで、学術的な内容のテキストに親しみ、ドイツ語の読解力を高める。
- ・中高ドイツ語の文法を学習し、辞書を頼りに原典購読に挑戦する。ミンネザング(恋愛抒情詩)の代表作をいくつか読むことを予定しています。

授業内容

実施回	内容
第1回	序・中世とは
第2回	ドイツ語の歴史
第3回	続き
第4回	中高ドイツ語
第5回	続き
第6回	中世の社会・生活
第7回	続き
第8回	中世ドイツ文学
第9回	続き
第10回	英雄叙事詩
第11回	宮廷叙事詩
第12回	恋愛抒情詩
第13回	続き
第14回	理解度の確認
第15回	振り返り

授業計画コメント

上記内容は授業で扱うピックを挙げたもので、この順番で学習するとは限りません。

授業方法

中世の言語・文化に関する現代ドイツ語の文献の講読、中高ドイツ語・ドイツ語の歴史の概要の学習、中高ドイツ語文法の学習および原典購読などを予定していますが、具体的には、受講者の人数・能力・関心に応じて決定します。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

ドイツ語による参考資料の指定箇所には、毎回必ずあらかじめ目を通してきて下さい。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	50 %	
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

試験の成績・授業中の課題への取り組みなどによって総合的に評価します。
本授業は大学院・学部共通の授業ですが、学部生の成績評価は大学院生とは違う基準で行います。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業中に説明します。

教科書コメント

教材はプリントを使用します。参考文献等は授業中に適宜指示します。

履修上の注意

履修者数制限あり。 / 第1回目の授業に必ず出席のこと。

講義コード	U3503001Z4	科目ナンバリング	035B311
講義名	◇言語・情報コース 専門演習		
副題	中世ドイツ語学・文学入門		
英文科目名	Advanced Seminar: in Linguistics and Information Studies		
担当者名	平井 敏雄		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第2学期 木曜日 5時限 西2－506.第2学期 木曜日 5時限 対面授業		

授業概要

第1学期に引き続き、中世盛期に用いられた「中高ドイツ語」の概要を理解し、ドイツ語の歴史および周辺諸言語との関係についての基本的な知識を学ぶと共に、中世文学に触れ、中世の文化・社会・生活全般に関する理解を深めていきます。その際に、現代ドイツ語による参考文献を精読することで、学術的な内容をもったドイツ語テキストを読み解く能力の向上を目指します。
 なお、授業の内容上は第1学期の続きとなりますが、第2学期のみの受講も可能です。

到達目標

- ・中高ドイツ語を中心に、ドイツ語の歴史の概略をつかみ、現代ドイツ語に見られるさまざまな事象の起源を理解することで、現代語への理解をいっそう深める。また、周辺諸言語との関係についての知識を得る。
- ・現代ヨーロッパの源流である、中世の文化・社会・生活に関する知識・理解を深める。
- ・現代ドイツ語による参考文献を精読することで、学術的な内容のテキストに親しみ、ドイツ語の読解力を高める。
- ・辞書と文法書を頼りに、中高ドイツ語の原典購読に挑戦する。ミネザング(恋愛抒情詩)の代表作をいくつか読むことを予定しています。

授業内容

実施回	内容
第1回	中世ドイツの文化
第2回	続き
第3回	現代の中世観
第4回	続き
第5回	ドイツ語と周辺諸言語の関係・歴史
第6回	続き
第7回	歴史言語学的観点から見た現代ドイツ語
第8回	続き
第9回	中世ドイツ文学の詩人たち
第10回	続き
第11回	続き
第12回	続き
第13回	続き
第14回	理解度の確認
第15回	振り返り

授業計画コメント

上記内容は授業で扱うピックを挙げたもので、この順番で学習するとは限りません。

授業方法

中世の言語・文化に関する現代ドイツ語の文献の講読、中高ドイツ語・ドイツ語の歴史の概要の学習、中高ドイツ語原典購読、小発表およびディスカッションなどを予定していますが、具体的には、受講者の人数・能力・関心に応じて決定します。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

ドイツ語による参考資料の指定箇所には、毎回必ずあらかじめ目を通してきて下さい。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)	50 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

試験の成績・授業中の課題への取り組みなどによって総合的に評価します。
本授業は大学院・学部共通の授業ですが、学部生の成績評価は大学院生とは違う基準で行います。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業中に説明します。

教科書コメント

教材はプリントを使用します。参考文献等は授業中に適宜指示します。

履修上の注意

履修者数制限あり。 / 第1回目の授業に必ず出席のこと。

講義コード	U350301101	科目ナンバリング	035B321
講義名	文学・文化コース 専門演習(1)		
副題	ローベルト・ヴァルザーのベルリン		
英文科目名	Advanced Seminar: in Literature and Cultural Studies		
担当者名	若林 恵		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第1学期 月曜日 3時限 西1－303.第1学期 月曜日 3時限 対面授業		

授業概要

スイス出身のローベルト・ヴァルザー(1878-1956) は1905年に隣国ドイツの帝都ベルリンに赴き、ここで長編小説を発表しましたが、人々には理解されず、作家として成功することはありませんでした。1913年、ヴァルザーは挫折感とともにスイスに帰郷し、小さな街の小さな部屋で小さな散文を書き綴り、それらは新聞・雑誌に掲載されては読み捨てられていきました。ムージル、ヘッセ、カフカ、ベンヤミンといった作家たちには評価されて愛読され、多くの現代作家や芸術家たちにも影響を与え続けているヴァルザーですが、彼はベルリンで何を体験し、当時なぜ「失敗者」となったのでしょうか。この授業では、ベルリン時代のヴァルザーに関するドイツ語文献を読み、ヴァルザーの小説や小散文にも触れながら、この時代の世界都市ベルリンの諸相を浮き彫りにしていきます。

到達目標

- *ローベルト・ヴァルザーの人生と文学について基本知識を習得する。
- *20世紀初頭ヨーロッパの大都市(大衆社会の形成・メディアや芸術の変革など)について理解する。
- *モデルネ文学・芸術と社会との関係について理解する。
- *文法事項を確認しながらドイツ語読解力を向上させる。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション
第2回	Das Berlin des Robert Walser (1) スイスからベルリンへ
第3回	Das Berlin des Robert Walser (2) 世界都市ベルリン
第4回	Das Berlin des Robert Walser (3) 世界都市ベルリン
第5回	Das Berlin des Robert Walser (4) Familie Walser
第6回	Das Berlin des Robert Walser (5) Karl Walser
第7回	Das Berlin des Robert Walser (6) 従僕養成学校
第8回	Das Berlin des Robert Walser (7) 都市のスピード
第9回	Das Berlin des Robert Walser (8) 小説 》Geschwister Tanner《 執筆
第10回	Das Berlin des Robert Walser (9) Karlとの距離／模索
第11回	Das Berlin des Robert Walser (10) 文芸誌への寄稿
第12回	Das Berlin des Robert Walser (11) 小説 》Geschwister Tanner《 刊行／Morgenstern, Hesse
第13回	Das Berlin des Robert Walser (12) ベルリン分離派とPaul Cassirer
第14回	まとめ
第15回	到達度確認

授業方法

演習

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

ドイツ語文献の予習(毎回) および担当箇所のレジュメ作成。(60～90分)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

必要に応じて授業中にコメント、あるいはLMSによりフィードバックします。

教科書

Das Berlin des Robert Walser, Gudrun Ortmanns, Edition A・B・Fischer, 2010, 978-3937434308

参考文献

タンナー兄弟姉妹: ローベルト・ヴァルザー作品集 1, ローベルト・ヴァルザー(新本史斉その他訳), 鳥影社, 2010, 978-4-86265-251-5

助手: ローベルト・ヴァルザー作品集2, ローベルト・ヴァルザー(若林恵訳), 鳥影社, 2011, 978-4-86265-305-5

長編小説と散文集: ローベルト・ヴァルザー作品集3, ローベルト・ヴァルザー(若林恵訳), 鳥影社, 2013, 978-4-86265-406-9

散文作品集1: ローベルト・ヴァルザー作品集4, ローベルト・ヴァルザー(新本史斉その他訳), 鳥影社, 2012, 978-4-86265-375-8

日々はひとつの響き: ヴァルザー＝クレイ詩画集, 柿沼万里江編 若林恵・松鶴功記訳, 平凡社, 2018, 978-4-582-65209-3

履修上の注意

履修者数制限あり。初回授業に必ず参加してください。

講義コード	U350301102	科目ナンバリング	035B321
講義名	文学・文化コース 専門演習(2)		
副題	ローベルト・ヴァルザーのベルリン		
英文科目名	Advanced Seminar: in Literature and Cultural Studies		
担当者名	若林 恵		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第2学期 月曜日 3時限 西1－303.第2学期 月曜日 3時限 対面授業		

授業概要

スイス出身のローベルト・ヴァルザー(1878-1956) は1905年に隣国ドイツの帝都ベルリンに赴き、ここで長編小説を発表しましたが、人々には理解されず、作家として成功することはありませんでした。1913年、ヴァルザーは挫折感とともにスイスに帰郷し、小さな街の小さな部屋で小さな散文を書き綴り、それらは新聞・雑誌に掲載されては読み捨てられていきました。ムージル、ヘッセ、カフカ、ベンヤミンといった作家たちには評価されて愛読され、多くの現代作家や芸術家たちにも影響を与え続けているヴァルザーですが、彼はベルリンで何を体験し、当時なぜ「失敗者」となったのでしょうか。この授業では、ベルリン時代のヴァルザーに関するドイツ語文献を読み、ヴァルザーの小説や小散文にも触れながら、この時代の世界都市ベルリンの諸相を浮き彫りにしていきます。

到達目標

- *ローベルト・ヴァルザーの人生と文学について基本知識を習得する。
- *20世紀初頭ヨーロッパの大都市(大衆社会の形成・メディアや芸術の変革など)について理解する。
- *モデルネ文学・芸術と社会との関係について理解する。
- *文法事項を確認しながらドイツ語読解力を向上させる。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション
第2回	Das Berlin des Robert Walser (1) 文芸欄執筆者(Feuilletonist) ／辻馬車
第3回	Das Berlin des Robert Walser (2) 酒場とカフェ
第4回	Das Berlin des Robert Walser (3) 小説 》Der Gehülfe《 刊行(1908)
第5回	Das Berlin des Robert Walser (4) 成功の拒絶／Kafka
第6回	Das Berlin des Robert Walser (5) 小説 》Jakob von Gunten《刊行(1909) 34／都市の散歩者
第7回	Das Berlin des Robert Walser (6) 小説と小散文／Benjamin
第8回	Das Berlin des Robert Walser (7) 大都市の不安
第9回	Das Berlin des Robert Walser (8) 経済的困窮
第10回	Das Berlin des Robert Walser (9) 奇妙な振舞い／Wedekind
第11回	Das Berlin des Robert Walser (10) Karlとの不和
第12回	Das Berlin des Robert Walser (11) 執筆不可能
第13回	Das Berlin des Robert Walser (12) スイスへの帰郷
第14回	まとめ
第15回	到達度確認

授業方法

演習

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

ドイツ語文献の予習(毎回) および担当箇所のレジュメ作成。(60～90分)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

必要に応じて授業中にコメント、あるいはLMSによりフィードバックします。

教科書

Das Berlin des Robert Walser, Gudrun Ortsmann, Edition A・B・Fischer, 2010, 978-3937434308

参考文献

タンナー兄弟姉妹: ローベルト・ヴァルザー作品集 1, ローベルト・ヴァルザー(新本史斉その他訳), 鳥影社, 2010, 978-4-86265-251-5

助手: ローベルト・ヴァルザー作品集2, ローベルト・ヴァルザー(若林恵訳), 鳥影社, 2011, 978-4-86265-305-5

長編小説と散文集: ローベルト・ヴァルザー作品集3, ローベルト・ヴァルザー(若林恵訳), 鳥影社, 2013, 978-4-86265-406-9

散文作品集1: ローベルト・ヴァルザー作品集4, ローベルト・ヴァルザー(新本史斉その他訳), 鳥影社, 2012, 978-4-86265-375-8

日々はひとつの響き: ヴァルザー＝クレイ詩画集, 柿沼万里江編 若林恵・松鶴功記訳, 平凡社, 2018, 978-4-582-65209-3

履修上の注意

履修者数制限あり。初回授業に必ず参加してください。第1学期から続けて履修することを推奨します。

講義コード	U350301103	科目ナンバリング	035B321
講義名	文学・文化コース 専門演習(3)		
副題	ドイツから見た日本		
英文科目名	Advanced Seminar: in Literature and Cultural Studies		
担当者名	吉田 治代		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第1学期 火曜日 5時限 中央－508.第1学期 火曜日 5時限 対面授業		

授業概要

ドイツと日本は歴史的にどのような関係を結び、どのように交流してきたのでしょうか。また、ドイツにおいて日本はどのように見られ、表象されてきたのでしょうか。授業では、このテーマに関わる、17世紀から20世紀までの代表的なドイツ語文献(抜粋)を読んでいきます。鎖国の時代から、相互関係が深まる20世紀に至るまでの日本像の変遷をたどりつつ、異文化を学ぶことの意義を考えます。

到達目標

旅行記、文学や美術に関わる文化評論、さらには政治的プロパガンダなど、さまざまな種類のテキストを精読し、高度なドイツ語読解能力を習得するとともに、異文化表象という観点からドイツ語圏文化の理解を深めることを目標とします。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション
第2回	教員による導入
第3回	ドイツから見た日本:読解1
第4回	ドイツから見た日本:読解2
第5回	ドイツから見た日本:読解3
第6回	ドイツから見た日本:読解4
第7回	ドイツから見た日本:読解5
第8回	ドイツから見た日本:読解6
第9回	ドイツから見た日本:読解7
第10回	ドイツから見た日本:読解8
第11回	ドイツから見た日本:読解9
第12回	ドイツから見た日本:読解10
第13回	ドイツから見た日本:読解11
第14回	ドイツから見た日本:読解12
第15回	ふりかえり

授業方法

対面での演習形式で授業を進めます。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

毎回、発表担当者を決めて、発表を中心に授業を進めます。発表者は事前に、担当箇所の和訳、文法解説および内容についての補足説明を記載したレジュメを準備します(3~4時間)。発表者以外の受講生も全員テキストを予習し、不明点などをまとめておいてください。(1時間)また、授業時に指摘された箇所を重点的に復習してください。(1時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	100%	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

授業での発表、課題提出、質疑応答／ディスカッションへの参加度、出席を総合して評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

発表内容、提出課題について、その都度コメントをします。

教科書コメント

授業中に指示します。

参考文献コメント

授業中に指示します。

履修上の注意

履修者数制限あり。第1回目の授業に必ず出席してください。

講義コード	U350301104	科目ナンバリング	035B321
講義名	文学・文化コース 専門演習(4)		
副題	ハンナ・アーレントの伝記を読む		
英文科目名	Advanced Seminar: in Literature and Cultural Studies		
担当者名	吉田 治代		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第2学期 火曜日 5時限 中央－508.第2学期 火曜日 5時限 対面授業		

授業概要

ユダヤ系ドイツ人哲学者ハンナ・アーレント(Hannah Arendt, 1906-1975)に関する伝記を読みます。20世紀の戦争の時代を生きたアーレントの生涯と作品について知識を深めるとともに、ナチズムという破局に至ることとなった、近代ドイツにおけるユダヤ人とドイツ人との関係性という問題について議論します。

到達目標

アーレントの生涯と代表作について書かれたドイツ語を読み、高度なドイツ語読解能力を鍛えるとともに、彼女の思想のエッセンスを把握することを目指します。またそれを通して、アーレントが探求した問い(ドイツにおけるユダヤ人、ナチズムと全体主義など)についても知識と理解を深めていきます。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション
第2回	教員による導入
第3回	アーレントの伝記:読解1
第4回	アーレントの伝記:読解2
第5回	アーレントの伝記:読解3
第6回	アーレントの伝記:読解4
第7回	アーレントの伝記:読解5
第8回	アーレントの伝記:読解6
第9回	アーレントの伝記:読解7
第10回	アーレントの伝記:読解8
第11回	アーレントの伝記:読解9
第12回	アーレントの伝記:読解10
第13回	アーレントの伝記:読解11
第14回	アーレントの伝記:読解12
第15回	ふりかえり

授業方法

対面による演習形式で授業を行います。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

毎回、発表担当者を決めて、発表を中心に授業を進めます。発表者は事前に、担当箇所の和訳、文法解説および内容についての補足説明を記載したレジュメを準備します(3～4時間)。発表者以外の受講生も全員テキストを予習し、不明点などをまとめておいてください。(1時間)また、授業時に指摘された箇所を重点的に復習してください。(1時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	100%	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

発表内容、課題提出、質疑応答／ディスカッションへの参加度、出席を総合して評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

発表内容、課題に対してその都度コメントします。

教科書コメント

授業中に指示します。

参考文献コメント

授業中に指示します。

履修上の注意

履修者数制限あり。第一回の授業に必ず出席してください。

講義コード	U3503011Z1	科目ナンバリング	035B321
講義名	◇文学・文化コース 専門演習		
副題	ジェンダーの視点から文学作品を読む		
英文科目名	Advanced Seminar: in Literature and Cultural Studies		
担当者名	田丸 理砂		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第1学期 火曜日 3時限 西1－211.第1学期 火曜日 3時限 対面授業		

授業概要

ヴァイマル共和国時代にはドイツ語圏の作家によるアメリカについてのルポルタージュが数多く発表されています。これらの中からいくつかの作品を取り上げ、ジェンダー、階層、エスニシティなど様々な観点に注意しながら、分析していきます。どの作品を取り上げるかは、参加者の関心を考慮した上で決定します。

到達目標

ジェンダーの視点から文学作品を捉える手法を身につけ、その方法を具体的に作品分析に応用することができるようになることを目標とします。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション
第2回	文献購読(1)
第3回	文献購読(2)
第4回	文献購読(3)
第5回	文献購読(4)
第6回	文献購読(5)
第7回	文献購読(6)
第8回	文献購読(7)
第9回	文献購読(8)
第10回	文献購読(9)
第11回	文献購読(10)
第12回	文献購読(11)
第13回	文献購読(12)
第14回	文献購読(13)
第15回	まとめ

授業計画コメント

毎回の授業で扱うテキストの範囲について、まずは要約をしていただきます。その後で理解度に応じて、精読を行います。

授業方法

対面による演習方式で行います。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

あらかじめ指定した範囲のテキストの予習(要約も含む)。およそ2時間の予習を求めます。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	100%	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

授業への出席態度、特に積極性を重視します。
 博士前期課程の学生と博士後期課程の学生は、かならず発表を行うことを前提とします。またそれぞれ異なる基準により評価します。学部学生の場合には、大学院学生とは異なる基準により評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

毎回指定するテキスト範囲については、授業内でコメントを行います。

教科書コメント

テキストは授業中に指示をします。

参考文献コメント

授業中に指示します。

その他

欠席する場合には、連絡をしてください。また欠席した場合には、課題を提出してください。

講義コード	U3503011Z2	科目ナンバリング	035B321
講義名	◇文学・文化コース 専門演習		
副題	ジェンダーと表現		
英文科目名	Advanced Seminar: in Literature and Cultural Studies		
担当者名	田丸 理砂		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第2学期 火曜日 3時限 西1－211.第2学期 火曜日 3時限 対面授業		

授業概要

ジェンダーの視点から、テクノロジーと表現について考えていきます。具体的には写真および自動車と女性表現者についての作品分析を行います。どのテキストを取り上げるかは、参加者の関心を考慮したうえで決定します。

到達目標

ジェンダーという視点から芸術を捉える手法を身につけ、その方法を作品分析に応用することができるようになることを目標とします。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション
第2回	文献購読(1)
第3回	文献購読(2)
第4回	文献購読(3)
第5回	文献購読(4)
第6回	文献購読(5)
第7回	文献購読(6)
第8回	文献購読(7)
第9回	文献購読(8)
第10回	文献購読(9)
第11回	文献購読(10)
第12回	文献購読(11)
第13回	文献購読(12)
第14回	文献購読(13)
第15回	まとめ

授業計画コメント

毎回授業で扱うテキストの範囲について、まずは要約していただきます。その後の理解度に応じて、西独を行います。

授業方法

対面による演習方式で行います。

準備学習(予習・復習)

あらかじめ指定した範囲のテキストの予習(要約も含む)。およそ2時間の予習を求めます。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	100%	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

授業への出席態度、特に積極性を重視します。
 博士前期課程の学生と博士後期課程の学生は、かならず発表を行うことを前提とします。またそれぞれ異なる基準により評価します。学部学生の場合には、大学院学生とは異なる基準により評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

毎回指定するテキストの範囲については、授業内でコメントを行います。

教科書コメント

テキストは授業中に指示をします。

参考文献コメント

授業中に指示します。

その他

欠席する場合は、連絡をしてください。また欠席した場合には、課題を提出してください。

講義コード	U3503011Z3	科目ナンバリング	035B321
講義名	◇文学・文化コース 専門演習		
副題	Franz Kafka “Erzählungen”		
英文科目名	Advanced Seminar: in Literature and Cultural Studies		
担当者名	PEKAR, Thomas		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第1学期 火曜日 2時限 西1－214.第1学期 火曜日 2時限 対面授業		

授業概要

Im Seminar soll es vor allem um zwei Erzählungen Kafkas gehen, die zu seinen wichtigsten überhaupt gehören dürften: „Das Urteil“ (1913) und „Die Verwandlung“ (1915). Beide Texte spielen zunächst einmal im Binnenraum der Familie, deren Funktionsweisen, z.B. in Hinsicht auf Redestrategien oder Machtverhältnisse, gezeigt werden. Gleichzeitig verweist dieser Binnenraum aber auch auf übergeordnete politische und gesellschaftliche Verhältnisse. Im Seminar soll zunächst durch eine sorgfältige Lektüre ein möglichst genaues Textverständnis hergestellt werden. Darauf aufbauend werden interpretatorische Fragen gestellt. Im ersten Semester des Studienjahres wird es zunächst um „Das Urteil“ gehen, wobei Kafkas „Brief an den Vater“ (1919) auszugsweise ergänzend behandelt wird; im zweiten Semester steht „Die Verwandlung“ im Mittelpunkt, Kafkas so rätselhafter Text, in dem ein Mensch erwacht und sich in ein „ungeheures Ungeziefer“ verwandelt sieht.

到達目標

Die Studierenden lernen an exemplarischen Texten Kafkas einen Zugang zu dessen Werk kennen. Sie lernen genau zu lesen und erweitern dadurch ihre Deutschkenntnisse. Bei der Interpretation der Texte werden verschiedene literaturtheoretische Zugänge gewählt, sodass die Studierenden einen Einblick in den interpretatorischen Methodenpluralismus erhalten. Weiter erhalten sie Kenntnisse über die soziale und politische Situation in Mitteleuropa vor dem Ersten Weltkrieg.

授業内容

実施回	内容
第1回	Einführung: Kafka und seine Zeit
第2回	Kafkas Biografie I
第3回	Kafkas Biografie II
第4回	“Das Urteil” – Lektüre und Verständnis
第5回	“Das Urteil” – Lektüre und Verständnis
第6回	“Das Urteil” – Lektüre und Verständnis
第7回	“Das Urteil” – Lektüre und Verständnis
第8回	Kafkas “Brief an den Vater” – Vorstellung
第9回	“Brief an den Vater” – Lektüre und Verständnis
第10回	“Brief an den Vater” – Lektüre und Verständnis
第11回	“Brief an den Vater” – Lektüre und Verständnis
第12回	“Brief an den Vater” – Lektüre und Verständnis
第13回	Interpretatorische Fragestellungen
第14回	Abschlussdiskussion
第15回	Nachbereitung

授業方法

Gruppendiskussionen, Gruppenarbeit, Impulsanregungen durch die Teilnehmer / Teilnehmerinnen (Referate) und den Seminarleiter; Mediennutzung

使用言語

日本語・英語以外

準備学習(予習・復習)

Eigene Lektüren, Vorbereitungen und Erledigungen von Arbeitsaufträgen sind im Umfang von ca. 60. Minuten zur Seminarvorbereitung notwendig. Bei Referatsübernahme erhöht sich die Vorbereitungszeit.

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	30 %	
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

Jeder Teilnehmer / jede Teilnehmerin am Seminar soll einen ausführlichen Vortrag (eine Präsentation) halten, regelmäßig am Unterricht teilnehmen, sich an der Diskussion beteiligen und den Test mitschreiben bzw. an der Abschlussprüfung teilnehmen. Die Leistungsbewertung setzt sich aus diesen Teilen (Präsentation, Unterrichtsteilnahme und Testergebnis) zusammen.

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

Der Seminarleiter spricht mit jedem Teilnehmer / jeder Teilnehmerin über sein / ihr Referat vor und nach der Präsentation. Weiter kann jederzeit über das Diskussionsverhalten, den Unterricht etc. gesprochen werden. Dies kann nach den Unterrichtsstunden oder in der Sprechstunde geschehen.

教科書コメント

Alle Texte und Arbeitsmaterialien werden als Kopien zur Verfügung gestellt.

参考文献コメント

Alle Texte und Arbeitsmaterialien werden als Kopien zur Verfügung gestellt.

講義コード	U3503011Z4	科目ナンバリング	035B321
講義名	◇文学・文化コース 専門演習		
副題	Franz Kafka “Erzählungen”		
英文科目名	Advanced Seminar: in Literature and Cultural Studies		
担当者名	PEKAR, Thomas		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第2学期 火曜日 2時限 西1－214.第2学期 火曜日 2時限 対面授業		

授業概要

Im Seminar soll es vor allem um zwei Erzählungen Kafkas gehen, die zu seinen wichtigsten überhaupt gehören dürften: „Das Urteil“ (1913) und „Die Verwandlung“ (1915). Beide Texte spielen zunächst einmal im Binnenraum der Familie, deren Funktionsweisen, z.B. in Hinsicht auf Redestrategien oder Machtverhältnisse, gezeigt werden. Gleichzeitig verweist dieser Binnenraum aber auch auf übergeordnete politische und gesellschaftliche Verhältnisse. Im Seminar soll zunächst durch eine sorgfältige Lektüre ein möglichst genaues Textverständnis hergestellt werden. Darauf aufbauend werden interpretatorische Fragen gestellt. Im ersten Semester des Studienjahres wird es zunächst um „Das Urteil“ gehen, wobei Kafkas „Brief an den Vater“ (1919) auszugsweise ergänzend behandelt wird; im zweiten Semester steht „Die Verwandlung“ im Mittelpunkt, Kafkas so rätselhafter Text, in dem ein Mensch erwacht und sich in ein „ungeheures Ungeziefer“ verwandelt sieht.

到達目標

Die Studierenden lernen an exemplarischen Texten Kafkas einen Zugang zu dessen Werk kennen. Sie lernen genau zu lesen und erweitern dadurch ihre Deutschkenntnisse. Bei der Interpretation der Texte werden verschiedene literaturtheoretische Zugänge gewählt, sodass die Studierenden einen Einblick in den interpretatorischen Methodenpluralismus erhalten. Weiter erhalten sie Kenntnisse über die soziale und politische Situation in Mitteleuropa vor dem Ersten Weltkrieg.

授業内容

実施回	内容
第1回	Wiederholung der Ergebnisse aus dem ersten Semester
第2回	“Die Verwandlung”: Übersicht
第3回	“Die Verwandlung” – Lektüre und Verständnis
第4回	“Die Verwandlung” – Lektüre und Verständnis
第5回	“Die Verwandlung” – Lektüre und Verständnis
第6回	“Die Verwandlung” – Lektüre und Verständnis
第7回	“Die Verwandlung” – Lektüre und Verständnis
第8回	“Die Verwandlung” – Lektüre und Verständnis
第9回	“Die Verwandlung” – Lektüre und Verständnis
第10回	“Die Verwandlung” – Lektüre und Verständnis
第11回	Figurenkonstellation
第12回	Thematische Aspekte / Motive
第13回	Darstellung / Erzähltechnik
第14回	Abschlussdiskussion
第15回	Nachbereitung

授業方法

Gruppendiskussionen, Gruppenarbeit, Impulsanregungen durch die Teilnehmer / Teilnehmerinnen (Referate) und den Seminarleiter; Mediennutzung

使用言語

日本語・英語以外

準備学習(予習・復習)

Eigene Lektüren, Vorbereitungen und Erledigungen von Arbeitsaufträgen sind im Umfang von ca. 60. Minuten zur Seminarvorbereitung notwendig. Bei Referatsübernahme erhöht sich die Vorbereitungszeit.

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)	30 %	
中間テスト		
レポート	40 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

Jeder Teilnehmer / jede Teilnehmerin am Seminar soll einen ausführlichen Vortrag (eine Präsentation) halten, regelmäßig am Unterricht teilnehmen, sich an der Diskussion beteiligen und den Test mitschreiben bzw. an der Abschlussprüfung teilnehmen. Die Leistungsbewertung setzt sich aus diesen Teilen (Präsentation, Unterrichtsteilnahme und Testergebnis) zusammen.

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

Der Seminarleiter spricht mit jedem Teilnehmer / jeder Teilnehmerin über sein / ihr Referat vor und nach der Präsentation. Weiter kann jederzeit über das Diskussionsverhalten, den Unterricht etc. gesprochen werden. Dies kann nach den Unterrichtsstunden oder in der Sprechstunde geschehen.

教科書コメント

Alle Texte und Arbeitsmaterialien werden als Kopien zur Verfügung gestellt.

参考文献コメント

Alle Texte und Arbeitsmaterialien werden als Kopien zur Verfügung gestellt.

講義コード	U350302101	科目ナンバリング	035B331
講義名	現代地域事情コース 専門演習(1)		
副題	日独比較男女平等立法(1)		
英文科目名	Advanced Seminar in Contemporary Area Studies		
担当者名	泉 眞樹子		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第1学期 木曜日 4時限 南1－101.第1学期 木曜日 4時限 対面授業		

授業概要

第二次世界大戦後、日本とドイツ連邦共和国(当時の西ドイツ)は新たに制定された憲法に男女平等を明記したものの、男性や父親を優位に置いて女性の経済的・社会的な活動を抑制する傾向が長く続きました。しかし、これに対抗する女性運動や国際社会の動きに沿って、男女平等のための政策と法整備が、一步一步進められてきました。この授業では、70年余のドイツ連邦共和国の男女平等立法の歴史とその立法過程、平等理念やその実現に向けた歴史を学び、併せて、連邦議会や連邦省の議会資料・行政資料・統計等、インターネット公開資料の具体的な調べ方を習得します。

到達目標

- ・平等について考えるための知識と視座の獲得
- ・ドイツ法の立法過程に関する知識、議会資料・行政資料を調べるスキルの獲得

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション（男女平等の歴史概観、ドイツ連邦議会制度と連邦法の立法過程）
第2回	1949年基本法（憲法）と1957年男女同権法制定
第3回	妊娠中絶自由化運動と連邦議会「女性と社会」調査会
第4回	1979年国連「女子差別撤廃条約」と1980年職場における男女平等待遇法
第5回	リプロダクティブ・ヘルス／ライツと堕胎罪（刑法典第218条）
第6回	1990年東西ドイツ統一条約と1994年基本法改正（結果の平等）
第7回	1994年第2次同権法と2001年連邦平等法
第8回	2005年メルケル政権成立
第9回	2006年EU平等待遇指針実施法
第10回	民間企業における男女平等と法規
第11回	2015年指導的地位法と2021年第2次指導的地位法
第12回	民法典家族法（結婚と姓の選択、親権（配慮権））
第13回	児童手当と保育（チャイルド・ケア）
第14回	政治における男女平等（議員クオータ制）
第15回	グループ・ディスカッションと報告

授業方法

演習。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

取り上げる法律の議会資料(法案提出～制定まで)を確認し、書式に沿って概要をまとめる。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	
その他(備考欄を参照)	40 %	課題提出

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

課題について、授業で説明します。

教科書

ドイツ法入門:外国法入門双書,村上淳一,守矢健一, ハンス・ペーター・マルチュケ,有斐閣,改訂9,2018,9784641048225

参考文献

ドイツ憲法集,高田敏・初宿正典,信山社出版,8,2020,9784797223705

ドイツの憲法判例 IV,ドイツ憲法判例研究会,信山社出版,2018,9784797233506

履修上の注意

履修者数制限あり。第1回目の授業に必ず参加すること。現代地域事情コース 専門演習(1)、(2)を合わせて受講すること。
インターネット情報を検索できる機器を持参してください。

講義コード	U350302102	科目ナンバリング	035B331
講義名	現代地域事情コース 専門演習(2)		
副題	日独比較男女平等立法(2)		
英文科目名	Advanced Seminar in Contemporary Area Studies		
担当者名	泉 眞樹子		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第2学期 木曜日 4時限 南1－101.第2学期 木曜日 4時限 対面授業		

授業概要

ドイツと日本の両国は、家を守り、子どもを育てることを女性の本務とする母性信仰が強く、女性の社会活動・経済活動が抑制されてきたため、それが少子化の一因であるとも指摘されてきました。しかし、ある側面では日本が先を行き、ある側面ではドイツが急激に改革を進めています。ドイツと日本のジェンダー・ギャップに関連して、日本の男女平等に関する法律を理解するとともに、日本とドイツの相違点と変化についてデータに即して学びます。

到達目標

- ・男女平等についての日独比較(歴史、統計)
- ・日本の議会資料・行政資料を調べるスキルの獲得

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション(ジェンダー・ギャップ、国会の立法過程とインターネット情報)
第2回	日本国憲法(昭和21年)と民法改正
第3回	優生保護法(昭和23年法律第156号)と家族計画(リプロダクティブ・ヘルス／ライツ)
第4回	国連婦人の10年(1975年―85年)と1979年国連「女子差別撤廃条約」
第5回	1984年国籍法改正
第6回	1985年男女雇用機会均等法
第7回	セクシュアル・ハラスメント(1997年男女雇用機会均等法改正)
第8回	1991年育児休業法(1995年育児・介護休業法に改正)とワーク・ライフ・バランス
第9回	1997年介護保険法とケア・ワーク
第10回	1999年男女共同参画社会基本法
第11回	2001年配偶者暴力防止法
第12回	教育格差(高等教育進学率)
第13回	経済的男女差(賃金、税、社会保障)
第14回	政治(婦人参政権運動・女性議員)
第15回	グループ・ディスカッションと報告

授業方法

演習。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

法律の制定時資料(法案提出～制定まで)を確認して概要をまとめ、同様又は類似するドイツ連邦法を示す。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	
その他(備考欄を参照)	40 %	課題提出

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

課題について、授業で説明します。

参考文献

新書版 性差(ジェンダー)の日本史:国際ナショナル新書,国立歴史民俗博物館監修、「性差の日本史」展示プロジェクト編,集英社国際ナショナル,2021,9784797680836

履修上の注意

履修者数制限あり。第1回目の授業に必ず参加すること。現代地域事情コース 専門演習(1)、(2)を合わせて受講すること。
インターネット情報を検索できる機器を持参してください。

講義コード	U350302103	科目ナンバリング	035B331
講義名	現代地域事情コース 専門演習(3)		
副題	東ドイツ時代の人々の手紙を読む		
英文科目名	Advanced Seminar in Contemporary Area Studies		
担当者名	伊豆田 俊輔		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第1学期 木曜日 2時限 北1－408.第1学期 木曜日 2時限 遠隔授業		

授業概要

1949年から1990年まで存在した東ドイツ(ドイツ民主共和国)には、自由な選挙や自由なメディアは存在しませんでした。しかし、多くの人々が、権力(者)に対して大量の手紙(請願や投書)を書き、自分の意思を伝えようとしていました。市民たちはなぜ、どのような理由で国や党に手紙を書いたのでしょうか？手紙にはどんな意味があったのでしょうか？東ドイツ時代に書かれた市民たちの「手紙」を読むことで、東ドイツとはいかなる社会であったのかを考察し、理解を深めましょう。授業前半では参考書Volks Stimmeの前書きと手紙数通を全員で読みます。後半は個人発表を行います。参加者は割り振られた手紙1通(予定)を訳し、その内容を紹介することが課題です。

到達目標

ドイツ語で書かれた歴史学の専門文献を読めるようになる。東ドイツ時代の手紙を読むことを通じて、現代ドイツ語の基礎的な読解能力を高める。東ドイツ史についての基礎的な知識を獲得し、同時代の史料について、自分の力で読んで解釈できるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス・授業の進め方について
第2回	Volks Stimme: Einleitung を読む① Terra incognita DDR ―研究史と概説
第3回	Volks Stimme: Einleitung を読む② Brief an die DDR-Regierung―東ドイツ政府への手紙
第4回	Volks Stimme: Einleitung を読む③ Brief an die DDR-Regierung―東ドイツ政府への手紙
第5回	Volks Stimme: Einleitung を読む④ Brief an die Staats- und Parteiführung―国家と党への手紙
第6回	東ドイツ時代の市民の手紙を読む① 1960年代のウルブリヒトへの手紙
第7回	東ドイツ時代の市民の手紙を読む② 1970年代のホーネーカーへの手紙
第8回	東ドイツ時代の市民の手紙を読む③ 1980年代前半のホーネーカーへの手紙
第9回	東ドイツ時代の市民の手紙を読む④ 1980年代後半のペレストロイカにかんする手紙
第10回	東ドイツ時代の市民の手紙を読む⑤ 1989年平和革命にかんする手紙
第11回	個人発表① 予定:1960年代の手紙が中心
第12回	個人発表② 予定:1970年代の手紙が中心
第13回	個人発表③ 予定:1980年代前半の手紙が中心
第14回	個人発表④ 予定:1980年代後半・平和革命までを予定
第15回	総括 小テスト

授業方法

1回目から14回目はZoomによるオンライン・リアルタイム授業を予定しています。 15回目のみ、授業内で小テストを行うため、対面で行います。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前にLMSを通じて、講読する資料を配付、あるいは授業時に説明しますので、必ず予習をしてから参加してください。ドイツ語の資料の予習時間は平均しておよそ180分程度です。AI翻訳を利用することを禁止はしません。しかし、どの単語がいかなる意味で、なぜそのような訳文・解釈になったのかを自分なりに説明できなければ「予習」したことにはなりません。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト	30 %	
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	
その他(備考欄を参照)	50 %	個人発表

成績評価コメント

毎回の出席は確認しますが、ただ「いる」だけではダメです。予習していないことが明確であった場合は欠席扱いとなります。15回目の小テストは、①授業内で扱った手紙と②授業内で未読の手紙の2通を読み、訳出や内容理解を問います。個人発表については授業内で説明をします。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

個人発表については毎回の授業時にコメントする。希望者には、個人発表時の訳文にLMSを通じてコメントを出す。

教科書コメント

適宜、授業内で指示します。

参考文献

Volkes Stimmen: »Ehrlich, aber deutlich« – Privatbriefe an die DDR-Regierung, Siegfried Suckut (Hg.), dtv, 2016, 978-3423280846

参考文献コメント

適宜、授業内で指示します。

履修上の注意

履修者数制限あり。第1回目の授業に必ず参加すること。現代地域事情コース 専門演習(3)、(4)を合わせて受講することを推奨します。

講義コード	U350302104	科目ナンバリング	035B331
講義名	現代地域事情コース 専門演習(4)		
副題	東西統一後の東ドイツ社会史		
英文科目名	Advanced Seminar in Contemporary Area Studies		
担当者名	伊豆田 俊輔		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第2学期 木曜日 2時限 北1－408.第2学期 木曜日 2時限 遠隔授業		

授業概要

最新の東ドイツ史研究の焦点は、1989/90年から2000年ごろの時期(「トランスフォーメーション期」)に当てられています。東西ドイツ統一とは、1600万人もの人たちが、まったく新しい政治・経済・社会・文化制度のために「人生をやり直す」ことでもありました。東西ドイツは東ドイツ市民にとってどのような経験だったのでしょうか？性別(ジェンダー)や年齢、世代、職業などの観点からドイツ現代史の最新の研究成果を学びましょう。
 本授業前半ではDetlev Brunner, Einheit und Transformation, A. Kaminsky, Die Frauen in der DDRを全員で輪読します。後半は個人発表です。同書あるいは Ilko-Sascha Kowalczyk et al. (Ost)Deutschlandswegの一部(数ページ)を読んだうえで内容をプレゼンテーションします。

到達目標

ドイツ語で書かれた歴史学の専門文献を読めるようになる。東ドイツ史と現代ドイツ社会についての基礎的な知識を獲得し、統一後の東ドイツ市民の経験について、自分の力で資料を読んで解釈できるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス・授業の進め方について
第2回	Einheit und Transformationを読む①精神的な東西の差
第3回	Einheit und Transformationを読む②通貨統合
第4回	Einheit und Transformationを読む③信託公社
第5回	Einheit und Transformationを読む③失業率
第6回	Einheit und Transformationを読む③人口動態
第7回	Frauen in der DDRを読む②旧東ドイツの女性の労働環境
第8回	Frauen in der DDRを読む②旧東ドイツの育児政策
第9回	Frauen in der DDRを読む②統一ドイツにおける旧東ドイツの女性
第10回	Frauen in der DDRを読む②統一ドイツにおける旧東ドイツの女性と論争
第11回	個人発表①人口動態
第12回	個人発表②移民
第13回	個人発表③女性
第14回	個人発表④経済
第15回	総括・小テスト

授業方法

1回目から14回目はZoomによるオンライン・リアルタイム授業を予定しています。 15回目のみ、授業内で小テストを行うため、対面で行います。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前にLMSを通じて、講読する資料を配付、あるいは授業時に説明しますので、必ず予習をしてから参加してください。ドイツ語の資料の予習時間は平均しておよそ180分程度です。AI翻訳を利用することを禁止はしません。しかし、どの単語がいかなる意味で、なぜそのような訳文・解釈になったのかを自分なりに説明できなければ「予習」したことにはなりません。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト	30 %	
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	
その他(備考欄を参照)	50 %	個人発表

成績評価コメント

毎回の出席は確認しますが、ただ「いる」だけではダメです。予習していないことが明確であった場合は欠席扱いとなります。15回目の小テストは、①授業内で扱った手紙と②授業内で未読の手紙の2通を読み、訳出や内容理解を問います。個人発表については授業内で説明をします。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

個人発表については毎回の授業時にコメントする。希望者には、個人発表時の訳文にLMSを通じてコメントを出す。

教科書コメント

適時、授業内で指示します。

参考文献

Einheit und Transformation,,Detlev Brunner,Kohlhammer,2022,978-3-17-033244-7

Die Frauen in der DDR,A. Kaminsky,Ch. Links,2020,978-3-86153-978-0

(Ost)Deutschlands Weg 80 Studien zur Lage des Landes,Ilko-Sascha Kowalczyk et al.,Bpb,2022

参考文献コメント

適時、授業内で指示します。

履修上の注意

履修者数制限あり。第1回目の授業に必ず参加すること。現代地域事情コース 専門演習(3)、(4)を合わせて受講することを推奨します。

講義コード	U350302105	科目ナンバリング	035B331
講義名	現代地域事情コース 専門演習(5)		
副題	王と芸術―ドイツ語圏における芸術振興の意図と時代背景		
英文科目名	Advanced Seminar in Contemporary Area Studies		
担当者名	秋野 有紀		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第1学期 火曜日 1時限 南3－202.第1学期 火曜日 1時限 対面授業		

授業概要

この授業では、ドイツ語資料の購読をしながら、ドイツ語圏(独・奥)の芸術文化振興について読み解いていきます。第1学期は、アウグスト強王、フリードリヒ大王を扱う予定です。

具体的に注目するのは、皆さんがドイツ語圏に行くときに「観光名所」として訪れるようなお城やミュージアムの基礎を作った王たちです。彼らは何を考えて、どんな世界情勢・時代背景の中で、芸術振興に情熱を傾けたのでしょうか？贅沢三昧の何の悩みもなさそうな王がいた時代だったから可能だったのだらうと思ってしまうような豪華な宝飾品や煌びやかなお城の数々。

けれども、若き日の王と彼らを取りまく時代も一緒に読みといていくと、案外、等身大の悩みを抱えた王たちの姿が、垣間見えるかもしれません。

到達目標

文化政策と歴史に関するドイツ語資料を読み、理解できるようになる。それとともに、語の辞書的対比による翻訳ではなく、単語の意味内容やその背景となる歴史的制度を理解し、自分なりに芸術文化の社会的な意味や歴史的価値の形成について、歴史的・政治的背景を踏まえて説明できるようになることを到達目標とします。(実施回ごとの予定は、履修人数に応じてとる発表日数によって、新学期以降に変化する可能性があります。)

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス、受講生の関心・希望の調査
第2回	発表テーマ、グループの決定。文献や資料についての説明。
第3回	ザクセン州およびプロイセンの歴史と文化遺産についての概観
第4回	アウグスト強王についての購読
第5回	アウグスト強王と彼の文化振興についての購読
第6回	アウグスト強王と現代のザクセン州の文化遺産についての購読
第7回	フリードリヒ大王についての購読
第8回	プロイセンの文化的遺産についての購読
第9回	フリードリヒ大王とその時代―何のための芸術文化振興だったのか？
第10回	発表第1回
第11回	発表第2回
第12回	発表第3回
第13回	発表第4回
第14回	発表第5回
第15回	授業の総括―どのような「芸術文化」が、そのような背景で、なぜ振興されたのか？

授業計画コメント

受講生の関心と人数に応じて、内容や順番が変わることもあります。

授業方法

Zoomによるリアルタイム授業、あるいは、対面授業を予定しています。(コロナウィルス感染拡大状況により、大学の決定に基づき判断)

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前にLMSを通じて、購読する資料を配付、あるいは、授業時に説明しますので、予習をしてから参加してください。ドイツ語の資料の予習時間は平均しておよそ2時間程度です。
授業開講時期直前にクラスでのやりとりをするSlackの招待リンクを送るので、登録してください。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	

レポート	%	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	10 %	
その他(備考欄を参照)	40 %	発表

成績評価コメント

引用の仕方や客観的表現などの形式面と内容の充実により評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

レポートは期末のみです。課題は、発表のテーマに関するもので、締切や分量は、授業時に説明します。

履修上の注意

履修者数制限あり。第1回目の授業に必ず参加すること。

講義コード	U350302106	科目ナンバリング	035B331
講義名	現代地域事情コース 専門演習(6)		
副題	名家と芸術―ドイツ語圏における芸術振興の意図と時代背景		
英文科目名	Advanced Seminar in Contemporary Area Studies		
担当者名	秋野 有紀		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第2学期 火曜日 1時限 南3－202.第2学期 火曜日 1時限 対面授業		

授業概要

この授業では、ドイツ語資料の購読をしながら、ドイツ語圏(独・奥)の芸術文化振興について読み解いていきます。第2学期は、ヴェッテルスバッハ家とハプスブルク家を扱う予定です。

第1学期で扱った時代とは異なり、第2学期で扱う時代に入ると、「王・貴族・名家」といった芸術のパトロンたちを取りまく時代背景や世界情勢が大きく変わります。そんな中でも(だからこそ?)、花開き、後世に名を残した芸術文化。それらに情熱を傾ける意図は、どこにあったのでしょうか？

さらに第2学期は、そもそも、ドイツ語圏の文化の「代名詞」のように「価値あるもの」とされて伝わっている「芸術／文化」とは、何なのか、誰が価値を与えたのか、その生成過程をナショナリズムの影響等も含めて検討し、芸術文化振興の現代的意義についても考察します。

到達目標

文化政策と歴史に関するドイツ語資料を読み、理解できるようになる。それとともに、語の辞書的対比による翻訳ではなく、単語の意味内容やその背景となる歴史的制度を理解し、自分なりに芸術文化の社会的な意味や歴史的価値の形成について、歴史的・政治的背景を踏まえて説明できるようになることを到達目標とします。(実施回ごとの予定は、履修人数に応じてとる発表日数によって、新学期以降に変化する可能性があります。)

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス、受講生の関心・希望の調査
第2回	発表テーマ、グループの決定。文献や資料についての説明。
第3回	ハプスブルク家およびヴェッテルスバッハ家の歴史と文化遺産についての概観
第4回	メルヘン王ルートヴィヒⅡ世とエリーザベトについて
第5回	ヴェッテルスバッハ家の文化振興についての購読
第6回	バイエルン州の文化遺産についての購読
第7回	欧州国民国家形成の時代における「文化」について概観
第8回	ハプスブルク家の文化的遺産についての購読
第9回	ウィーン万博とジャポニズム
第10回	発表第1回
第11回	発表第2回
第12回	発表第3回
第13回	発表第4回
第14回	発表第5回
第15回	授業の総括―どのような「芸術文化」が、そのような背景で、なぜ振興されたのか？

授業計画コメント

受講生の関心と人数に応じて、内容や順番が変わることもあります。

授業方法

Zoomによるリアルタイム授業、あるいは、対面授業を予定しています。(コロナウィルス感染拡大状況により、大学の決定に基づき判断)

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前にLMSを通じて、購読する資料を配付、あるいは、授業時に説明しますので、予習をしてから参加してください。ドイツ語の資料の予習時間は平均しておよそ2時間程度です。
授業開講時期直前にクラスでのやりとりをするSlackの招待リンクを送るので、登録してください。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		

中間テスト

レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	10 %	
その他(備考欄を参照)	40 %	発表

成績評価コメント

引用の仕方や客観的表現などの形式面と内容の充実により評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

レポートは期末のみです。課題は、発表のテーマに関するもので、締切や分量は、授業時に説明します。

履修上の注意

履修者数制限あり。第1回目の授業に必ず参加すること。

講義コード	U350303101	科目ナンバリング	035B501
講義名	通訳・翻訳者養成演習(基礎)(1)		
副題	Deutsch kommunikativ		
英文科目名	Training Seminar: for Interpreter and Translator (Basic Class)		
担当者名	WOELBLING, Eva		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	第1学期 火曜日 2時限 西5－301.第1学期 火曜日 2時限 対面授業		

授業概要

Im Mittelpunkt des Kurses stehen die Themen "Zeit und Zeitgefühl", "Männer – Frauen – Paare" und "Schule". Es wird geübt, sich zu diesen Texten mündlich und schriftlich auszudrücken.

到達目標

Geübt wird der mündliche und schriftliche Ausdruck. Außerdem werden Texte gehört und gelesen. Nach Möglichkeit werden Vergleiche zwischen Japan und den deutschsprachigen Ländern gezogen. Weiterhin geht es darum zu lernen, wie man Lücken in einer Fremdsprache schließt.

授業内容

実施回	内容
第1回	Einführung Themenkreis "Zeit und Zeitgefühl"
第2回	Fortführung Themenkreis "Zeit und Zeitgefühl" (Zeit und Lebenszeit)
第3回	Fortführung Themenkreis "Zeit und Zeitgefühl" (Die Geschichte des Brandenburgertors)
第4回	Fortführung Themenkreis "Zeit und Zeitgefühl" (Reiseführer)
第5回	Fortführung Themenkreis "Zeit und Zeitgefühl" (Zeitungstext)
第6回	Fortführung Themenkreis "Zeit und Zeitgefühl" (Gedicht von Goethe)
第7回	Einführung Themenkreis "Männer – Frauen – Paare"
第8回	Fortführung Themenkreis "Männer – Frauen – Paare" (Rollenklischees)
第9回	Fortführung Themenkreis "Männer – Frauen – Paare" (Partnerschaft)
第10回	Fortführung Themenkreis "Männer – Frauen – Paare" (Das 4 –Ohren–Modell der Kommunikation)
第11回	Fortführung Themenkreis "Männer – Frauen – Paare" (Zeitschriftenartikel)
第12回	Einführung Themenkreis "Schule und lernen"
第13回	Fortführung Themenkreis "Schule und lernen" (Schule und Schulsystem in Deutschland)
第14回	Klausur (Summing up)
第15回	Zusatzübung (Independent research)

授業方法

Seminar im Klassenzimmer

使用言語

日本語・英語以外

準備学習(予習・復習)

Vokabeln müssen immer gelernt werden. Hausaufgaben.

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	40 %	
学年末試験(第2学期)		
中間テスト	40 %	
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

Aktive Teilnahme, Hausaufgaben

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

Bei der Rückgabe wird kommentiert.

教科書

studio [21] B1,Hermann Funk / Christina Kuhn u. a.,Cornelsen,2015,978-3-06-520599-3

教科書コメント

教科書は、学年始めのガイダンスでの学科の指示に従って購入してください。

履修上の注意

通訳・翻訳者養成演習(基礎)3とセットで履修すること。

第1回目の授業に必ず出席すること。

受講条件を満たさない場合には、受講できません。ガイダンスの際に行う説明に従って、必ず指定期日までに申込みを行ってください。

講義コード	U350303102	科目ナンバリング	035B501
講義名	通訳・翻訳者養成演習(基礎)(2)		
副題	Deutsch kommunikativ		
英文科目名	Training Seminar: for Interpreter and Translator (Basic Class)		
担当者名	WOELBLING, Eva		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	第2学期 火曜日 2時限 西5－301.第2学期 火曜日 2時限 対面授業		

授業概要

Im Mittelpunkt des Kurses stehen die Themen "Schule", "Verhaltensregeln" und "Migration". Es wird geübt, sich zu diesen Texten mündlich und schriftlich auszudrücken.

到達目標

Geübt wird der mündliche und schriftliche Ausdruck. Außerdem werden Texte gehört und gelesen. Nach Möglichkeit werden Vergleiche zwischen Japan und den deutschsprachigen Ländern gezogen. Weiterhin geht es darum zu lernen, wie man Lücken in einer Fremdsprache schließt.

授業内容

実施回	内容
第1回	Fortführung Themenkreis "Schule und lernen" (Berufe in der Schule)
第2回	Fortführung Themenkreis "Schule und lernen" (Bildungswege)
第3回	Fortführung Themenkreis "Schule und lernen" (Lernnote)
第4回	Einführung Themenkreis "Verhaltensregeln"
第5回	Fortführung Themenkreis "Verhaltensregeln" (Pleiten, Pech und Pannen 1)
第6回	Fortführung Themenkreis "Verhaltensregeln" (Pleiten, Pech und Pannen 2)
第7回	Fortführung Themenkreis "Verhaltensregeln" (Knigge interkulturell)
第8回	Fortführung Themenkreis "Verhaltensregeln" (Konflikte)
第9回	Einführung Themenkreis "Migration"
第10回	Fortführung Themenkreis "Migration" (Ein- und Auswanderungsland Deutschland)
第11回	Fortführung Themenkreis "Migration" (Migrationsgründe)
第12回	Fortführung Themenkreis "Migration" (Auswanderungsgeschichten)
第13回	Fortführung Themenkreis "Migration" (Film "Solino")
第14回	Klausur (Summing up)
第15回	Zusatzübung (Independent research)

授業方法

Seminar im Klassenzimmer

使用言語

日本語・英語以外

準備学習(予習・復習)

Vokabeln müssen immer gelernt werden. Hausaufgaben.

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)	40 %	
中間テスト	40 %	
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

Aktive Teilnahme, Hausaufgaben

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

Bei der Rückgabe wird kommentiert.

教科書

studio [21] B1,Hermann Funk / Christina Kuhn u. a.,Cornelsen,2015,978-3-06-520599-3

教科書コメント

教科書は、学年始めのガイダンスでの学科の指示に従って購入してください。

履修上の注意

通訳・翻訳者養成演習(基礎)4とセットで履修すること。

第1回目の授業に必ず出席すること。

受講条件を満たさない場合には、受講できません。ガイダンスの際に行う説明に従って、必ず指定期日までに申込みを行ってください。

講義コード	U350303103	科目ナンバリング	035B501
講義名	通訳・翻訳者養成演習(基礎)(3)		
副題	Deutsch kommunikativ		
英文科目名	Training Seminar: for Interpreter and Translator (Basic Class)		
担当者名	IHLOW, Uwe		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	第1学期 木曜日 3時限 西1－214.第1学期 木曜日 3時限 対面授業		

授業概要

Im Mittelpunkt des Kurses stehen die Themen "Alltagsprobleme", "Arbeit im Wandel" und "Klima und Umwelt". Es wird geübt, sich zu diesen Texten mündlich und schriftlich auszudrücken.

到達目標

Geübt wird der mündliche und schriftliche Ausdruck. Außerdem werden Texte gehört und gelesen. Nach Möglichkeit werden Vergleiche zwischen Japan und den deutschsprachigen Ländern gezogen. Weiterhin geht es darum zu lernen, wie man Lücken in einer Fremdsprache schließt.

授業内容

実施回	内容
第1回	Einführung Themenkreis "Alltag"
第2回	Fortführung Themenkreis "Alltag" (auf der Bank / bei der Polizei)
第3回	Fortführung Themenkreis "Alltag" (Stress im Beruf: Ursachen)
第4回	Fortführung Themenkreis "Alltag" (Stress im Beruf: Strategien)
第5回	Fortführung Themenkreis "Alltag" (Lachen ist gesund)
第6回	Fortführung Themenkreis "Alltag" (Zeitschriftenartikel / Sprichwörter)
第7回	Einführung Themenkreis "Arbeit im Wandel"
第8回	Fortführung Themenkreis "Arbeit im Wandel" (Geschichte einer Region kennenlernen)
第9回	Fortführung Themenkreis "Arbeit im Wandel" (Ruhrgebiet)
第10回	Fortführung Themenkreis "Arbeit im Wandel" (Arbeitsunfälle)
第11回	Fortführung Themenkreis "Arbeit im Wandel" (Zeitschriftenartikel)
第12回	Einführung Themenkreis "Klima und Umwelt"
第13回	Fortführung Themenkreis "Klima und Umwelt" (Klimawandel)
第14回	Klausur (Summing up)
第15回	Zusatzübung (Independent research)

授業方法

Seminar im Klassenzimmer

使用言語

日本語・英語以外

準備学習(予習・復習)

Vokabeln müssen immer gelernt werden. Hausaufgaben.

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	40 %	
学年末試験(第2学期)		
中間テスト	40 %	
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

Aktive Teilnahme, Hausaufgaben

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

Bei der Rückgabe wird kommentiert.

教科書

studio [21] B1,Hermann Funk / Christina Kuhn u. a.,Cornelsen,2015,978-3-06-520599-3

教科書コメント

教科書は、学年始めのガイダンスでの学科の指示に従って購入してください。

履修上の注意

通訳・翻訳者養成演習(基礎)1とセットで履修すること。

第1回目の授業に必ず出席すること。

受講条件を満たさない場合には、受講できません。ガイダンスの際に行う説明に従って、必ず指定期日までに申込みを行ってください。

講義コード	U350303104	科目ナンバリング	035B501
講義名	通訳・翻訳者養成演習(基礎)(4)		
副題	Deutsch kommunikativ		
英文科目名	Training Seminar: for Interpreter and Translator (Basic Class)		
担当者名	IHLOW, Uwe		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	第2学期 木曜日 3時限 西1－214.第2学期 木曜日 3時限 対面授業		

授業概要

Im Mittelpunkt des Kurses stehen die Themen "Klima", "Generation" und "Europa". Es wird geübt, sich zu diesen Texten mündlich und schriftlich auszudrücken.

到達目標

Geübt wird der mündliche und schriftliche Ausdruck. Außerdem werden Texte gehört und gelesen. Nach Möglichkeit werden Vergleiche zwischen Japan und den deutschsprachigen Ländern gezogen. Weiterhin geht es darum zu lernen, wie man Lücken in einer Fremdsprache schließt.

授業内容

実施回	内容
第1回	Fortführung Themenkreis "Klima" (Umweltprobleme)
第2回	Fortführung Themenkreis "Klima" (UN-Klimareport)
第3回	Fortführung Themenkreis "Klima" (Zeitungs- und Onlineartikel)
第4回	Einführung Themenkreis "Generationen"
第5回	Fortführung Themenkreis "Generationen" (Kindheit, Jugend, Alter)
第6回	Fortführung Themenkreis "Generationen" (Wohnformen im Alter)
第7回	Einführung Themenkreis "Generationen" (Kinderträume)
第8回	Fortführung Themenkreis "Generationen" (Romanauszug: "Die blauen und die grauen Tage")
第9回	Einführung Themenkreis "Europa"
第10回	Fortführung Themenkreis "Europa" (Wir sind Europa!)
第11回	Fortführung Themenkreis "Europa" (Die Europäische Union)
第12回	Einführung Themenkreis "Europa" (Euro-Krise)
第13回	Fortführung Themenkreis "Europa" (Europa-Quiz)
第14回	Klausur (Summing up)
第15回	Zusatzübung (Independent research)

授業方法

Seminar im Klassenzimmer

使用言語

日本語・英語以外

準備学習(予習・復習)

Vokabeln müssen immer gelernt werden. Hausaufgaben.

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)	40 %	
中間テスト	40 %	
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

Aktive Teilnahme, Hausaufgaben

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

Bei der Rückgabe wird kommentiert.

教科書

studio [21] B1,Hermann Funk / Christina Kuhn u. a.,Cornelsen,2015,978-3-06-520599-3

教科書コメント

教科書は、学年始めのガイダンスでの学科の指示に従って購入してください。

履修上の注意

通訳・翻訳者養成演習(基礎)(2)とセットで履修すること。

第1回目の授業に必ず出席すること。

受講条件を満たさない場合には、受講できません。ガイダンスの際に行う説明に従って、必ず指定期日までに申込みを行ってください。

講義コード	U350305101	科目ナンバリング	035A301
講義名	コミュニケーション演習(上級)(1)		
英文科目名	German Communication (Advanced Class)		
担当者名	櫻井 麻美		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第1学期 金曜日 5時限 西2－406.第1学期 金曜日 5時限 対面授業		

授業概要

この授業では、初級文法を復習しつつ、状況ごとに適切な語彙・表現を用いて発信する訓練をします。その際、正しい文構造だけでなく、ドイツ語の適切な語感が身につくような練習をしていきます。

到達目標

- ・語彙を増やし、ただ単に通じるのではなく、シチュエーションごとに適切な表現を用いて自然なドイツ語で発信ができる。
- ・正しい文構造に基づいた表現ができる。

授業内容

実施回	内容
第1回	導入:授業の進め方、一般的な注意、授業の準備 (Kennenlernen)
第2回	Lektion 1 Urlaubsplanung (休暇の計画)
第3回	Lektion 1 Im Reisebüro und im Büro (旅行会社で・ホテルで)
第4回	Lektion 1 問い合わせメール、休暇に関するテキストを読む
第5回	Lektion 1の小テスト Lektion 2 Was hast du in der Stadt gemacht?(街で何をしましたか?)
第6回	Lektion 2 Wegbeschreibung und Verkehrsmitteln (道案内と交通手段)
第7回	Lektion 2 家に招待するメール、ベルリンに関するテキストを読む
第8回	Lektion 2 の小テスト Lektion 3 Begründen (自分の意見とその理由を伝える)
第9回	Lektion 3 Vergleichen (2つのことを比較してその理由を述べる)
第10回	Lektion 3 ブログにコメントを書く、ドイツの大学に関するテキストを読む
第11回	Lektion 3 の小テスト Lektion 4 Über die Freizeit sprechen (余暇活動について話す)
第12回	Lektion 4 Gesundheit – Wie fühlst du dich? (体調について述べる)
第13回	Lektion 4 統計を読む、ドイツ人とスポーツに関するテキストを読む
第14回	Lektion 4 の小テスト 第1学期の総まとめ
第15回	到達度確認

授業方法

この授業は対面で行う演習です。課題の説明は最小限にとどめて、グループやペアでの練習を多く行います。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

- ・予習: 次回の授業で扱う箇所の発音練習を付属の音源を聴きながら行い、単語の意味を調べる。(30～60分程度)
- ・復習: 授業で新たに学習した語彙、フレーズを整理し、語彙を増やすことを目標に音読・暗記をする。また、扱った文法項目について、練習問題に繰り返し取り組み、自分の表現に取り入れられるようにする。(60～90分程度)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト	60 %	各課ごとに行う小テストを評価
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	40 %	積極的な授業参加、課題提出、出席などを評価
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

各課ごとに行う小テストでは、自分で表現・発信する際に、学習したことを応用させ、用いることができているかという点を中心に評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

課題は、添削後返却し、授業内でフィードバックします。

教科書

スタート！2ーコミュニケーション活動で学ぶドイツ語,藤原、本河、野村、Waychert,三修社,4,2022,978-4-384-13096-6

教科書コメント

第2学期の「コミュニケーション演習(上級)(2)」では、同じ教科書の後半部分を扱います。

参考文献コメント

参考文献は授業の中で随時紹介します。

履修上の注意

第2学期に開講される「コミュニケーション演習(上級)(2)」と合わせて履修することが望ましい。
人数制限は設けないが、第1回の授業に必ず参加すること(参加しなかった場合は参加を断ることがある)。

その他

自分のドイツ語力を積極的に伸ばしたい学生を歓迎します。授業での練習・課題をきちんとこなすだけでなく、その一歩先まで自分で調べて・学ぶ姿勢を求めます。

講義コード	U350305102	科目ナンバリング	035A301
講義名	コミュニケーション演習(上級)(2)		
英文科目名	German Communication (Advanced Class)		
担当者名	櫻井 麻美		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第2学期 金曜日 5時限 西2-406.第2学期 金曜日 5時限 対面授業		

授業概要

この授業では、初級文法を復習しつつ、状況ごとに適切な語彙・表現を用いて発信する訓練をします。その際、正しい文構造だけでなく、ドイツ語の適切な語感が身につくような練習をしていきます。

到達目標

- ・語彙を増やし、ただ単に通じるのではなく、シチュエーションごとに適切な表現を用いて自然なドイツ語で発信ができる。
- ・正しい文構造に基づいた表現ができる。

授業内容

実施回	内容
第1回	導入:授業の進め方、一般的な注意、授業の準備(Über die Ferien berichten)
第2回	Lektion 5 Traumberuf(なりたい職業)
第3回	Lektion 5 Über eigenes Studentenleben(学生生活について)
第4回	Lektion 5 アポイントメントを取る、ドイツの教育制度に関するテキストを読む
第5回	Lektion 5の小テスト Lektion 6 Anzeige lesen und sich für einen Sprachkurs anmelden (広告を読んで語学講習に申し込む)
第6回	Lektion 6 Probleme im Alltag besprechen(日常生活で起こる問題について話す)
第7回	Lektion 6 希望・苦情を伝えるメール、ドイツの学生アルバイトに関するテキストを読む
第8回	Lektion 6 の小テスト Lektion 7 Über die Feste lesen und sprechen(祝い事について読む・話す)
第9回	Lektion 7 Was gefällt dir?(服装や色など自分の好みを伝える)
第10回	Lektion 7 招待状の返事を書く、ドイツのクリスマスに関するテキストを読む
第11回	Lektion 7 の小テスト Lektion 8 Probeprüfungs Lesen(検定試験に挑戦ー読解)
第12回	Lektion 8 Probeprüfungs Hören(検定試験に挑戦ー聞き取り)
第13回	Lektion 8 Probeprüfungs Schreiben(検定試験に挑戦ー作文)
第14回	第2学期の総まとめ
第15回	到達度確認

授業方法

この授業は対面で行う演習です。課題の説明は最小限にとどめて、グループやペアでの練習を多く行います。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

- ・予習:次回の授業で扱う箇所の発音練習を付属の音源を聴きながら行い、単語の意味を調べる。(30～60分程度)
- ・復習:授業で新たに学習した語彙、フレーズを整理し、語彙を増やすことを目標に音読・暗記をする。また、扱った文法項目について、練習問題に繰り返し取り組み、自分の表現に取り入れられるようにする。(60～90分程度)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト	60 %	各課ごとに行う小テストを評価
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	40 %	積極的な授業参加、課題提出、出席などを評価
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

各課ごとに行う小テストでは、自分で表現・発信する際に、学習したことを応用させ、用いることができているかという点を中心に評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

課題は、添削後返却し、授業内でフィードバックします。

教科書

スタート！2ーコミュニケーション活動で学ぶドイツ語,藤原、本河、野村、Waychert,三修社,4,2022,978-4-384-13096-6

教科書コメント

第1学期の「コミュニケーション演習(上級)(1)」で使用した教科書の後半部分を扱います。

参考文献コメント

参考文献は授業の中で随時紹介します。

履修上の注意

第1学期に開講される「コミュニケーション演習(上級)(1)」と合わせて履修することが望ましい。
人数制限は設けないが、第1回の授業に必ず参加すること(参加しなかった場合は参加を断ることがある)。

その他

自分のドイツ語力を積極的に伸ばしたい学生を歓迎します。授業での練習・課題をきちんとこなすだけでなく、その一歩先まで自分で調べて・学ぶ姿勢を求めます。

講義コード	U350305103	科目ナンバリング	035A301
講義名	コミュニケーション演習(上級)(3)		
英文科目名	German Communication (Advanced Class)		
担当者名	MEYER, Thomas Horst		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第1学期 月曜日 4時限 西1－201.第1学期 月曜日 4時限 対面授業		

授業概要

Der Kurs richtet sich an Studierende mit fortgeschrittenen Kenntnissen der deutschen Sprache und bietet ihnen die Möglichkeit, ihre Sprechfähigkeiten zu konsolidieren und zu erweitern. Der Unterricht wird auf Deutsch abgehalten, kurze Interventionen auf Japanisch sind jedoch möglich.

到達目標

Die Teilnehmer sollen in Partner- und Gruppenarbeit Funktion und Einsatz von Redemitteln erlernen und ihre variablen Anwendungsmöglichkeiten ausprobieren können. Die Studenten erhalten jeweils ausreichend Zeit, das Erlernte praktisch anzuwenden und je nach Leistungsstärke und Eigeninteresse in Partner- und Gruppenarbeit zu variieren. Ziel ist es, die allgemeine Sprech- und Kommunikationsfähigkeit der Teilnehmer zu verbessern.
Die Beherrschung des Grundwortschatzes wird vorausgesetzt!

授業内容

実施回	内容
第1回	Einführung/Bildbeschreibung I
第2回	Bildbeschreibung II
第3回	Wegbeschreibung und Orientierung
第4回	Personenbeschreibung I
第5回	Personenbeschreibung II + Hypothesen
第6回	Sachbeschreibung (Formen, Farben, Materialien)
第7回	Abstrakte Bilder (Relativsätze, Vergleiche, Konjunktiv)
第8回	Schaubilder - Diagramme - Statistiken I
第9回	Schaubilder - Diagramme - Statistiken II
第10回	TestDAF Mündliche Prüfung I
第11回	TestDAF Mündliche Prüfung II
第12回	Themenerörterung I
第13回	Themenerörterung II
第14回	Diskussion und Fragen I
第15回	Diskussion und Fragen II

授業方法

Die Arbeitsmaterialien und Aufgaben werden vom Kursleiter bereitgestellt und erläutert. Häufig gibt es eine kleinere Vorübungen oder schriftliche Aufgaben, die in Einzel- oder Partnerarbeit erledigt werden, bevor die Teilnehmer dann in Partner- oder Gruppenarbeit den Einsatz bestimmter Redemittel jeweils bezogen auf konkrete Aufgabenstellungen (etwa Bildbeschreibung oder Erläuterung einer Statistik) einüben können. Das Einüben der Redemittel wird gelegentlich mit wechselnden Sprechpartnern wiederholt.

使用言語

日本語・英語以外

準備学習(予習・復習)

Neben der üblichen Vor- und Nachbereitung des Unterrichts werden die Teinehmer gelegentlich dazu angehalten, eigenständig Übungsmaterial für die nächste Sitzung zu beschaffen.

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	40 %	mündliche Prüfung
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	60 %	
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

mündliches Feedback

講義コード	U350305104	科目ナンバリング	035A301
講義名	コミュニケーション演習(上級)(4)		
英文科目名	German Communication (Advanced Class)		
担当者名	MEYER, Thomas Horst		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第2学期 月曜日 4時限 西1－201.第2学期 月曜日 4時限 対面授業		

授業概要

Der Kurs richtet sich an Studierende mit fortgeschrittenen Kenntnissen der deutschen Sprache und bietet ihnen die Möglichkeit, ihre Sprechfähigkeiten zu konsolidieren und zu erweitern.
 Während im Sommersemester eher bestimmte Strukturen und Aufgabentypen im Vordergrund stehen, die Bestandteil von üblichen Deutschprüfungen sind (TestDAF, 独検 etc.), liegt der Fokus im Wintersemester auf diversen Themenfeldern, die teilweise von der Teilnehmern selbst bestimmt werden können.
 Der Unterricht wird auf Deutsch abgehalten, kurze Interventionen auf Japanisch sind jedoch möglich.

到達目標

Die Teilnehmer sollen in Partner- und Gruppenarbeit Funktion und Einsatz von Redemitteln erlernen und ihre variablen Anwendungsmöglichkeiten ausprobieren können. Die Studenten erhalten jeweils ausreichend Zeit, das Erlernte praktisch anzuwenden und je nach Leistungsstärke und Eigeninteresse in Partner- und Gruppenarbeit zu variieren. Ziel ist es, die allgemeine Sprech- und Kommunikationsfähigkeit der Teilnehmer zu verbessern.
 Die Beherrschung des Grundwortschatzes wird vorausgesetzt!

授業内容

実施回	内容
第1回	Einführung/Ferien (Reden über die Vergangenheit)
第2回	Familie (Familienbezeichnungen; Possessivartikel)
第3回	Gegenstände (Adjektive; Materialbezeichnungen)
第4回	Hobbys, Talente (Graduierungen)
第5回	Musik (Kritik)
第6回	Träume, Trauma (Vorgangsbeschreibungen)
第7回	Medien (Biografien)
第8回	Erziehung (erklären – konkretisieren – eingrenzen)
第9回	Geld, Wirtschaft (Bildanalyse und Statistik)
第10回	Freie Themen I
第11回	Freie Themen II
第12回	Freie Themen III
第13回	Freie Themen IV
第14回	Freie Themen V
第15回	Diskussion und Fragen

授業方法

Die Arbeitsmaterialien und Aufgaben werden in den Stunden 1-10 vom Kursleiter bereitgestellt und erläutert. Die Teilnehmer sind jedoch an der Vorbereitung beteiligt, indem sie eigenständig oder in Partnerarbeit Fragen, Redemittel und themenbezogenes Vokabular erarbeiten, die sie später im Unterricht einsetzen.
 Die Gesprächsübungen teilen sich im Wesentlichen in Partnerinterviews und Gruppendiskussionen auf. Dies überlässt den Teilnehmern ein hohes Maß an Selbststeuerung (auch in Bezug auf Korrektur und Feedback des Kursleiters). Die Teilnehmer wählen selbst die Themen der Stunde 11-14 und bereiten entsprechende Arbeitsmaterialien vor.

使用言語

日本語・英語以外

準備学習(予習・復習)

Neben der üblichen Vor- und Nachbereitung des Unterrichts werden die Teilnehmer gelegentlich dazu angehalten, eigenständig Übungsmaterial für die nächste Sitzung zu beschaffen.

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)	40 %	mündliche Prüfung
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	60 %	

平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	%	
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

mündliches Feedback

講義コード	U350305105	科目ナンバリング	035A301
講義名	コミュニケーション演習(上級)(5)		
副題	Alltag in DACH Ländern		
英文科目名	German Communication (Advanced Class)		
担当者名	IHLOW, Uwe		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第1学期 木曜日 2時限 西1－214.第1学期 木曜日 2時限 対面授業		

授業概要

In diesem Kurs ist das Leben der Menschen in deutschsprachigen Ländern das Thema. Mit Texten von unterschiedlichen Textsorten (lesen, hören, sehen) werden verschiedene Aspekte des Lebens vorgestellt. Das können persönliche, alltägliche Themen wie Familie oder Feste sein, aber auch gesellschaftliche Themen wie Migration oder die Wiedervereinigung.

到達目標

Nachdem die Studierenden mit Hilfe von Texten (lesen, hören, sehen) Informationen zu einem Thema verstanden haben, tauschen sie eigene Ideen, Gedanken, Meinungen usw. miteinander aus.
Dies kann mündlich (sprechen) oder schriftlich (schreiben) geschehen.

授業内容

実施回	内容
第1回	Orientierung Sommersemester
第2回	”Sprichst du nur Hochdeutsch?” 1: (Deutsche Sprache und Dialekte)
第3回	”Sprichst du nur Hochdeutsch?” 2: (Deutsche Sprache und Dialekte)
第4回	”Trägst du auch Dirndl?” 1: (Kleidung und Trachten)
第5回	”Trägst du auch Dirndl?” 2: (Kleidung und Trachten)
第6回	”Frau und Herr Schmidt” 1: (die Durchschnittsdeutschen)
第7回	”Frau und Herr Schmidt” 2: (die Durchschnittsdeutschen)
第8回	”Das Leben einer Kirche” 1: (die Frauenkirche in Dresden)
第9回	”Das Leben einer Kirche” 2: (die Frauenkirche in Dresden)
第10回	Kartoffelsalat zu Weihnachten, ehrlich? 1: (das Weihnachtsfest)
第11回	Kartoffelsalat zu Weihnachten, ehrlich? 2: (das Weihnachtsfest)
第12回	”Was ist eine VHS?” 1: (Lernen als Erwachsener)
第13回	”Was ist eine VHS?” 2: (Lernen als Erwachsener)
第14回	Semesterabschlußbesprechung
第15回	Autonomes Lernen
第16回	Orientierung Wintersemester
第17回	”Zwei ermordete junge Frauen – S. Scholl und A. Frank” 1: (Schicksale in Nazideutschland
第18回	”Zwei ermordete junge Frauen – S. Scholl und A. Frank” 2: (Schicksale in Nazideutschland
第19回	”Spricht man beim Essen?” 1: (Benehmen in verschiedenen Kulturen)
第20回	”Spricht man beim Essen?” 2: (Benehmen in verschiedenen Kulturen)
第21回	”Bist du bei der Feuerwehr?” 1: (Ehrenamt)
第22回	”Bist du bei der Feuerwehr?” 2: (Ehrenamt)
第23回	”Suat und Olivia erzählen” 1: (Migration nach Deutschland)
第24回	”Suat und Olivia erzählen” 2: (Migration nach Deutschland)
第25回	”Isst du gerne ...?” 1: (Ernährung)
第26回	”Isst du gerne ...?” 2: (Ernährung)
第27回	”Die Mauer” 1: (deutsche Wiedervereinigung)
第28回	”Die Mauer” 2: (deutsche Wiedervereinigung)
第29回	Jahresabschlußbesprechung
第30回	noch offen

授業計画コメント

Diese Themen und deren Reihenfolge sind Vorschläge. Sie können auch, z.B. durch Vorschläge der Studierenden, geändert werden.

授業方法

Die Studierenden bearbeiten die Aufgaben vor allem in Paar- und Gruppenarbeit im Präsenzunterricht. Das Schreiben eigener Texte – meistens als Hausaufgabe – ist ein wichtiger Teil des Kurses.

使用言語

日本語・英語以外

準備学習(予習・復習)

- Vorbereitung der Lesetexte
- Schreiben eigener Texte

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

Kontaktadresse: uweihlow@web.de

参考文献コメント

Texte werden als Kopien verteilt oder auf "Manaba" heruntergeladen.

講義コード	U350305106	科目ナンバリング	035A301
講義名	コミュニケーション演習(上級)(6)		
副題	Alltag in DACH Ländern		
英文科目名	German Communication (Advanced Class)		
担当者名	IHLOW, Uwe		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第2学期 木曜日 2時限 西1－214.第2学期 木曜日 2時限 対面授業		

授業概要

In diesem Kurs ist das Leben der Menschen in deutschsprachigen Ländern das Thema. Mit Texten von unterschiedlichen Textsorten (lesen, hören, sehen) werden verschiedene Aspekte des Lebens vorgestellt. Das können persönliche, alltägliche Themen wie Familie oder Feste sein, aber auch gesellschaftliche Themen wie Migration oder die Wiedervereinigung.

到達目標

Nachdem die Studierenden mit Hilfe von Texten (lesen, hören, sehen) Informationen zu einem Thema verstanden haben, tauschen sie eigene Ideen, Gedanken, Meinungen usw. miteinander aus.
Dies kann mündlich (sprechen) oder schriftlich (schreiben) geschehen.

授業内容

実施回	内容
第1回	Orientierung Sommersemester
第2回	”Sprichst du nur Hochdeutsch?” 1: (Deutsche Sprache und Dialekte)
第3回	”Sprichst du nur Hochdeutsch?” 2: (Deutsche Sprache und Dialekte)
第4回	”Trägst du auch Dirndl?” 1: (Kleidung und Trachten)
第5回	”Trägst du auch Dirndl?” 2: (Kleidung und Trachten)
第6回	”Frau und Herr Schmidt” 1: (die Durchschnittsdeutschen)
第7回	”Frau und Herr Schmidt” 2: (die Durchschnittsdeutschen)
第8回	”Das Leben einer Kirche” 1: (die Frauenkirche in Dresden)
第9回	”Das Leben einer Kirche” 2: (die Frauenkirche in Dresden)
第10回	Kartoffelsalat zu Weihnachten, ehrlich? 1: (das Weihnachtsfest)
第11回	Kartoffelsalat zu Weihnachten, ehrlich? 2: (das Weihnachtsfest)
第12回	”Was ist eine VHS?” 1: (Lernen als Erwachsener)
第13回	”Was ist eine VHS?” 2: (Lernen als Erwachsener)
第14回	Semesterabschlußbesprechung
第15回	Autonomes Lernen
第16回	Orientierung Wintersemester
第17回	”Zwei ermordete junge Frauen – S. Scholl und A. Frank” 1: (Schicksale in Nazideutschland
第18回	”Zwei ermordete junge Frauen – S. Scholl und A. Frank” 2: (Schicksale in Nazideutschland
第19回	”Spricht man beim Essen?” 1: (Benehmen in verschiedenen Kulturen)
第20回	”Spricht man beim Essen?” 2: (Benehmen in verschiedenen Kulturen)
第21回	”Bist du bei der Feuerwehr?” 1: (Ehrenamt)
第22回	”Bist du bei der Feuerwehr?” 2: (Ehrenamt)
第23回	”Suat und Olivia erzählen” 1: (Migration nach Deutschland)
第24回	”Suat und Olivia erzählen” 2: (Migration nach Deutschland)
第25回	”Isst du gerne ...?” 1: (Ernährung)
第26回	”Isst du gerne ...?” 2: (Ernährung)
第27回	”Die Mauer” 1: (deutsche Wiedervereinigung)
第28回	”Die Mauer” 2: (deutsche Wiedervereinigung)
第29回	Jahresabschlußbesprechung
第30回	noch offen

授業計画コメント

Diese Themen und deren Reihenfolge sind Vorschläge. Sie können auch, z.B. durch Vorschläge der Studierenden, geändert werden.

授業方法

Die Studierenden bearbeiten die Aufgaben vor allem in Paar- und Gruppenarbeit im Präsenzunterricht. Das Schreiben eigener Texte – meistens als Hausaufgabe – ist ein wichtiger Teil des Kurses.

使用言語

日本語・英語以外

準備学習(予習・復習)

- Vorbereitung der Lesetexte
- Schreiben eigener Texte

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

Kontaktadresse: uweihlow@web.de

参考文献コメント

Texte werden als Kopien verteilt oder auf "Manaba" heruntergeladen.

講義コード	U350306101	科目ナンバリング	035B302
講義名	アカデミック・ライティング演習(1)		
英文科目名	Seminar of Academic Writing		
担当者名	PEKAR, Thomas		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第1学期 金曜日 1時限 北1－406.第1学期 金曜日 1時限 対面授業		

授業概要

Dieser Kurs gibt den Studierenden, die eine Abschlussarbeit schreiben, eine Einführung sowohl in das akademische bzw. wissenschaftliche als auch das dafür wichtige kreative Schreiben. Es werden weiter Grundlagen des wissenschaftlichen Arbeitens, der Seminarpräsentation und der Rhetorik vermittelt sowie Diskussions- und Argumentationstechniken erarbeitet. Die Studierenden haben die Gelegenheit, die Arbeitsprojekte ihrer Abschlussarbeiten ausführlich darzustellen und mit den anderen Studierenden und dem Seminarleiter zu diskutieren.

到達目標

Der Kurs vermittelt Grundlagen des wissenschaftlichen Arbeitens und Schreibens unter Berücksichtigung kreativer Schreibprozesse. Es werden grundlegende Diskussions- und Präsentationstechniken vermittelt. Es sollen zudem Reflexionen über die eigene wissenschaftliche Arbeit ausgelöst werden.

授業内容

実施回	内容
第1回	Einführung in die Thematik
第2回	Wissenschaftliches und kreatives Schreiben
第3回	Wissenschaftliches und kreatives Schreiben – Cluster Bildung – Fabel
第4回	Interpretationscluster
第5回	Bibliografie und Recherche, wissenschaftliches Arbeiten
第6回	Wissenschaftliches Arbeiten
第7回	Wissenschaftliches Arbeiten
第8回	Wissenschaftliches Arbeiten
第9回	Titelgebung
第10回	Argumentation
第11回	Grundlagen der Rhetorik
第12回	Grundlagen der Rhetorik
第13回	Test
第14回	Abschlussdiskussion
第15回	Nachbereitung

授業方法

Gruppendiskussionen, Gruppenarbeit, Impulsanregungen durch die Teilnehmer / Teilnehmerinnen (Referate) und den Seminarleiter; Mediennutzung

使用言語

日本語・英語以外

準備学習(予習・復習)

Eigene Lektüren, Vorbereitungen und Erledigungen von Arbeitsaufträgen sind im Umfang von ca. 60. Minuten zur Seminarvorbereitung notwendig. Bei Referatsübernahme erhöht sich die Vorbereitungszeit.

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	30 %	
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

Jeder Teilnehmer und jede Teilnehmerin soll eine Kurzpräsentation halten, regelmäßig am Seminar teilnehmen und sich an der Diskussion beteiligen. Am Ende des Semesters wird ein für alle verbindlicher Test geschrieben. Die Leistungsbewertung setzt sich zusammen aus dem Referat (30%), der Diskussionsbeteiligung (30%) und dem Abschlusstest (40%).

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

Der Seminarleiter spricht mit jedem Teilnehmer / jeder Teilnehmerin über sein / ihr Referat vor und nach der Präsentation. Weiter kann jederzeit über das Diskussionsverhalten, den Unterricht etc. gesprochen werden. Dies kann nach den Unterrichtsstunden oder in der Sprechstunde geschehen.

教科書コメント

Alle Texte und Arbeitsmaterialien werden als Kopien zur Verfügung gestellt.

参考文献コメント

Alle Texte und Arbeitsmaterialien werden als Kopien zur Verfügung gestellt.

講義コード	U350306102	科目ナンバリング	035B302
講義名	アカデミック・ライティング演習(2)		
英文科目名	Seminar of Academic Writing		
担当者名	PEKAR, Thomas		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第2学期 金曜日 1時限 北1－406.第2学期 金曜日 1時限 対面授業		

授業概要

Dieser Kurs gibt den Studierenden, die eine Abschlussarbeit schreiben, eine Einführung sowohl in das akademische bzw. wissenschaftliche als auch das dafür wichtige kreative Schreiben. Es werden weiter Grundlagen des wissenschaftlichen Arbeitens, der Seminarpräsentation und der Rhetorik vermittelt sowie Diskussions- und Argumentationstechniken erarbeitet. Die Studierenden haben die Gelegenheit, die Arbeitsprojekte ihrer Abschlussarbeiten ausführlich darzustellen und mit den anderen Studierenden und dem Seminarleiter zu diskutieren.

到達目標

Der Kurs vermittelt Grundlagen des wissenschaftlichen Arbeitens und Schreibens unter Berücksichtigung kreativer Schreibprozesse. Es werden grundlegende Diskussions- und Präsentationstechniken vermittelt. Es sollen zudem Reflexionen über die eigene wissenschaftliche Arbeit ausgelöst werden.

授業内容

実施回	内容
第1回	Wiederholung der Ergebnisse vom ersten Semester
第2回	Grundlagen der Seminarpräsentation
第3回	Grundlagen der Seminarpräsentation
第4回	Vorträge der SeminarteilnehmerInnen
第5回	Vorträge der SeminarteilnehmerInnen
第6回	Vorträge der SeminarteilnehmerInnen
第7回	Vorträge der SeminarteilnehmerInnen
第8回	Vorträge der SeminarteilnehmerInnen
第9回	Vorträge der SeminarteilnehmerInnen
第10回	Vorträge der SeminarteilnehmerInnen
第11回	Vorträge der SeminarteilnehmerInnen
第12回	Vorträge der SeminarteilnehmerInnen
第13回	Vorträge der SeminarteilnehmerInnen
第14回	Abschlussdiskussion
第15回	Nachbereitung

授業方法

Gruppendiskussionen, Gruppenarbeit, Impulsanregungen durch die Teilnehmer / Teilnehmerinnen (Referate) und den Seminarleiter; Mediennutzung

使用言語

日本語・英語以外

準備学習(予習・復習)

Eigene Lektüren, Vorbereitungen und Erledigungen von Arbeitsaufträgen sind im Umfang von ca. 60. Minuten zur Seminarvorbereitung notwendig. Bei Referatsübernahme erhöht sich die Vorbereitungszeit.

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

Jeder Teilnehmer und jede Teilnehmerin soll seine bzw. ihre Abschlussarbeit in einem ca. 45-minütigen Referat vorstellen (einschließlich einer Seminardiskussion). Weiter ist die regelmäßige Seminarteilnahme und die Beteiligung an den Diskussionen Voraussetzung. Die Leistungsbewertung setzt sich aus dem Referat (50%) und der Diskussionsbeteiligung (50%) zusammen.

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

Der Seminarleiter spricht mit jedem Teilnehmer / jeder Teilnehmerin über sein / ihr Referat vor und nach der Präsentation. Weiter kann jederzeit über das Diskussionsverhalten, den Unterricht etc. gesprochen werden. Dies kann nach den Unterrichtsstunden oder in der Sprechstunde geschehen.

教科書コメント

Alle Texte und Arbeitsmaterialien werden als Kopien zur Verfügung gestellt.

参考文献コメント

Alle Texte und Arbeitsmaterialien werden als Kopien zur Verfügung gestellt.

講義コード	U350307101	科目ナンバリング	035B503
講義名	ドイツ語圏インターンシップ・プログラム		
英文科目名	Intenrship Program in German speaking Countries		
担当者名	清野 智昭		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	集中(通年) その他 集中講義 対面授業		

授業概要

ドイツ語圏の都市で、インターンシップを行う。

到達目標

- ・ドイツ語圏の社会において、実際にドイツ語を使って意思疎通ができるようになる。
- ・仕事においてドイツ語を使えるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	現地でのインターンシップ実習
第3回	現地でのインターンシップ実習
第4回	現地でのインターンシップ実習
第5回	現地でのインターンシップ実習
第6回	現地でのインターンシップ実習
第7回	現地でのインターンシップ実習
第8回	現地でのインターンシップ実習
第9回	現地でのインターンシップ実習
第10回	現地でのインターンシップ実習
第11回	現地でのインターンシップ実習
第12回	現地でのインターンシップ実習
第13回	現地でのインターンシップ実習
第14回	現地でのインターンシップ実習
第15回	中間報告
第16回	現地でのインターンシップ実習
第17回	現地でのインターンシップ実習
第18回	現地でのインターンシップ実習
第19回	現地でのインターンシップ実習
第20回	現地でのインターンシップ実習
第21回	現地でのインターンシップ実習
第22回	現地でのインターンシップ実習
第23回	現地でのインターンシップ実習
第24回	現地でのインターンシップ実習
第25回	現地でのインターンシップ実習
第26回	現地でのインターンシップ実習
第27回	現地でのインターンシップ実習
第28回	現地でのインターンシップ実習
第29回	現地でのインターンシップ実習
第30回	総括

授業方法

現地で実践的に行われる。

使用言語

日本語・英語以外

準備学習(予習・復習)

実際に行う仕事の内容についてよく考えて、あらかじめドイツ語表現を調べておく(1時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	100%	
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

実際にインターンシップを行うにあたり生じた疑問に関して、その都度フィードバックを行う。

履修上の注意

受講希望者は、学科の指定するガイダンスに必ず出席し、受講登録をする前に必ず相談をすること。インターンシップを行うためには、最低でも Zertifikat Deutsch (ヨーロッパ言語共通参照枠 B1)の試験に合格しているか、あるいはそれ以上のドイツ語力が必要とされる。したがって、受講登録してもドイツ語能力が不足する場合にはインターンシップが許可されない場合がある。

講義コード	U350308101	科目ナンバリング	035B504
講義名	海外ドイツ語・文化研修		
英文科目名	Language and Culture Program in German speaking Countries		
担当者名	清野 智昭		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	集中(通年) その他 集中講義 対面授業		

授業概要

ライプツィヒ大学またはバイロイト大学が提供する1ヶ月のドイツ語研修に参加する。

到達目標

- ・ドイツ語の高いコミュニケーション能力を獲得する。
- ・ドイツ語圏の社会において、実際にドイツ語を使って意思疎通ができるようになる。
- ・ドイツ語圏の大学で授業を受けられる程度のドイツ語能力を獲得する。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	現地での語学・文化研修
第3回	現地での語学・文化研修
第4回	現地での語学・文化研修
第5回	現地での語学・文化研修
第6回	現地での語学・文化研修
第7回	現地での語学・文化研修
第8回	現地での語学・文化研修
第9回	現地での語学・文化研修
第10回	現地での語学・文化研修
第11回	現地での語学・文化研修
第12回	現地での語学・文化研修
第13回	現地での語学・文化研修
第14回	現地での語学・文化研修
第15回	中間報告
第16回	現地での語学・文化研修
第17回	現地での語学・文化研修
第18回	現地での語学・文化研修
第19回	現地での語学・文化研修
第20回	現地での語学・文化研修
第21回	現地での語学・文化研修
第22回	現地での語学・文化研修
第23回	現地での語学・文化研修
第24回	現地での語学・文化研修
第25回	現地での語学・文化研修
第26回	現地での語学・文化研修
第27回	現地での語学・文化研修
第28回	現地での語学・文化研修
第29回	現地での語学・文化研修
第30回	総括

授業計画コメント

現地の授業では、ドイツ語の授業の他に、プロジェクトワークや遠足など多彩なプログラムが用意されている。

授業方法

現地で実践的に行われる。

使用言語

日本語・英語以外

準備学習(予習・復習)

現地での授業についていくためには、毎日、3時間程度の予習・復習が必要である。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	100%	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

授業評価は現地の語学学校でCEFRに基づいた試験および平常点によって算出された評点に基づき、授業内容やクラスのレベル等を考慮して総合的に判断する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

実際に語学・文化研修に参加するにあたり生じた疑問に関して、その都度フィードバックを行う。

履修上の注意

受講希望者は、学科の指定するガイダンスに必ず出席し、受講登録をする前に必ず相談をすること。ライプツィヒ大学のコースに参加するためには、A2レベル、バイロイト大学のコースに参加するためにはB1レベルかあるいはそれ以上のドイツ語力が必要とされる。

その他

現地の語学コースの参加料と宿泊料金(学生寮またはホームステイ)を併せて2000ユーロほどかかる。航空機は自分で手配する。ユーロと日本円のレートによるが、生活費を含めてトータルで60万円ほどの自己負担が必要。